

# うるま市高齢者の実態把握報告書

(うるま市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画策定資料)

- 高齢者の現状
- 介護保険サービスの実績
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告



# 目 次

## 第1章 うるま市の高齢者及び介護保険サービスの実績

第1節 市の高齢者の状況	1
1. 人口動態	1
(1) 総人口の推移	1
(2) 推計人口	3
(3) 前期・後期別高齢者人口の状況	4
(4) 推計前期・後期別高齢者人口の推移	5
(5) 第7期計画での人口推計値と実績値の比較	7
2. 世帯の状況	8
3. 就労の状況	9
4. 老人クラブ	11
5. 介護保険の状況	13
(1) 要介護認定者数の推移	13
(2) 要介護度別の認定者数の推移	15
(3) 介護サービスの受給者数の推移	17
(4) 居宅サービス別利用状況	18
(5) 地域密着型サービスの利用状況	20
(6) 施設サービス別の利用状況	21
(7) 給付費の推移	22
(8) 通所介護と地域密着型通所介護	30
(9) 居宅サービスと地域密着型通所介護給付費推移	32
(10) 介護サービス給付費全体の推移	32

## 第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

第1節 調査の概要について	33
1. 調査概要	33
(1) 調査の目的	33
(2) 調査の対象者と配布件数	33
(3) 調査の方法	33
(4) 調査期間	33
(5) 回収率	33
(6) サンプル数(有効回答数)について	34
(7) 調査項目	34
2. 集計について	36

3. 各種リスクの把握について.....	37
(1) リスク判定.....	37
(2) 各種リスク判定方法.....	38
<b>第2節 調査結果</b> .....	<b>42</b>
1. 回答者の基本属性等.....	42
(1) 性別、年齢.....	42
(2) 家族構成.....	43
(3) 暮らしの状況（経済的に見て） .....	43
(4) 住まい.....	44
(5) 介護の状況.....	44
(6) 総合事業対象者.....	45
2. 体を動かすことについて.....	46
(1) 運動器の機能低下者（リスク者） .....	46
(2) 転倒リスク者.....	46
(3) 閉じこもり傾向（リスク者） .....	47
(4) 外出の状況.....	48
3. 食べることについて.....	50
(1) 低栄養の傾向（リスク者） .....	50
(2) 口腔機能低下.....	50
(3) 歯の健康.....	53
(4) 歯科医院の受診.....	55
(5) 孤食の状況.....	56
4. 毎日の生活について.....	58
(1) 認知機能.....	58
(2) IADLの低下者（リスク者） .....	60
(3) 知的能動性の低下者（リスク者） .....	60
(4) 社会的役割の低下者（リスク者） .....	61
(5) 趣味や生きがい.....	62
5. 地域での活動について.....	63
(1) 社会参加.....	63
(2) 地域づくりへの参加意向.....	64
6. たすけあいについて.....	66
(1) たすけあいの状況.....	66
(2) 友人、知人との交流.....	68
7. 健康について.....	70
(1) 主観的健康感.....	70
(2) 主観的幸福感.....	71

(3)人とふれあう機会.....	72
(4)孤独感の有無.....	73
(5)うつ傾向（リスク者）.....	75
(6)喫煙、飲酒の状況.....	75
(7)疾病の状況.....	77
(8)病院の受診.....	81
<b>8. 認知症にかかる相談窓口の把握について</b> .....	<b>82</b>
(1)家族に認知症の方がいるか.....	82
(2)認知症に関する相談窓口を知っているか.....	82
<b>9. その他</b> .....	<b>83</b>
(1)生活の中で支援を望むこと.....	83
(2)健康づくりや介護予防で支援を望むこと.....	84
(3)相談先.....	85
<b>10. 圏域別リスク者等の状況</b> .....	<b>87</b>
(1)前期高齢者と後期高齢者.....	87
(2)総合事業対象者.....	87
(3)世帯の状況.....	88
(4)介助の状況.....	88
(5)介護・介助が必要になった原因疾患.....	89
(6)就労、外出・移動の状況.....	90
(7)地域活動への参加.....	91
(8)リスク者割合の比較.....	91
<b>11. 世帯構成別リスク者等の状況</b> .....	<b>93</b>
(1)全体的な状況.....	93
(2)外出の状況.....	93
(3)転倒について.....	94
(4)地域活動への参加.....	94
(5)リスク者割合の比較.....	95
<b>12. 歯の健康状況別リスク者の状況</b> .....	<b>96</b>
(1)リスク者割合の比較.....	96
<b>13. 幸福度別リスク者の状況</b> .....	<b>97</b>
(1)リスク者割合の比較.....	97
<b>14. 社会参加別リスク者の状況</b> .....	<b>98</b>
(1)リスク者割合の比較.....	98
<b>15. 孤独感の有無別リスク者の状況</b> .....	<b>99</b>
(1)リスク者割合の比較.....	99

資料編

高齢者介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票 ..... 121

# 第1章 うるま市の高齢者及び介護保険サービスの実績

## 第1節 市の高齢者の状況

### 1. 人口動態

#### (1) 総人口の推移

本市の総人口は令和2年10月1日現在125,029人であり、毎年増加で推移しています。

高齢者数(年齢3区分別では老年人口と言う)も総人口と同様に増加を続けており、令和2年は27,866人となっています。

平成25年と令和2年を比較すると、総人口は4,169人増、高齢者数は5,852人増加しています。

高齢化率を見ると、平成25年は18.2%でしたが年々上昇しており、平成28年には20.2%と20%を超え、令和2年では22.3%と高齢者が総人口の2割を超える状況となっています。

令和2年の本市の高齢化率を、全国や県と比較すると、全国値(令和2年28.7%)より低く、また県(令和元年22.3%)とは同率となっています。

#### 構成

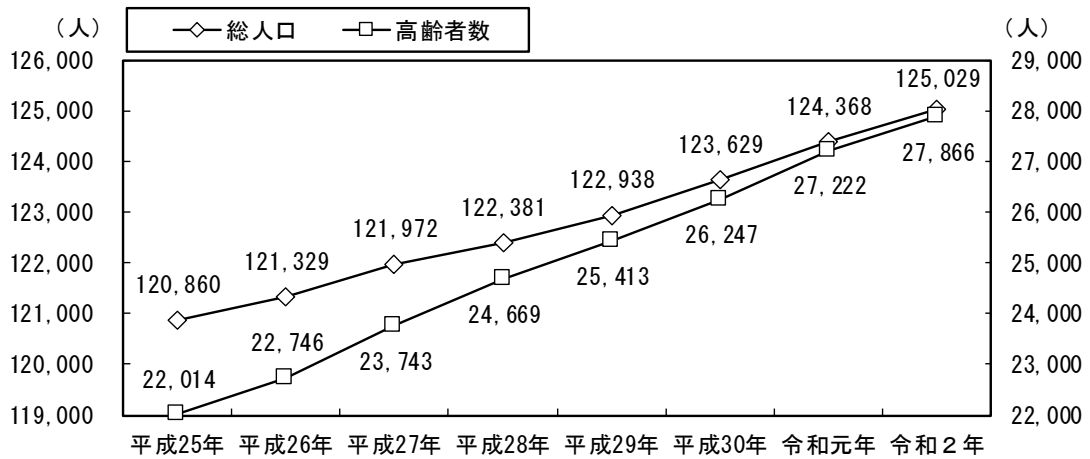
		平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	対平成 25年比	
うるま市	人数 (人)	総人口	120,860	121,329	121,972	122,381	122,938	123,629	124,368	125,029	4,169
		年少人口	21,373	21,294	21,317	21,270	21,303	21,252	21,225	21,285	▲88
		生産年齢人口	77,473	77,289	76,912	76,442	76,222	76,130	75,921	75,878	▲1,595
		老年人口	22,014	22,746	23,743	24,669	25,413	26,247	27,222	27,866	5,852
	構成比 (%)	年少人口	17.7	17.6	17.5	17.4	17.3	17.2	17.1	17.0	▲0.7
		生産年齢人口	64.1	63.7	63.1	62.5	62.0	61.6	61.0	60.7	▲3.4
		老年人口 (高齢化率)	18.2	18.7	19.5	20.2	20.7	21.2	21.9	22.3	4.1
沖縄県	構成比 (%)	年少人口	17.6	17.5	17.3	17.2	17.1	17.1	17.0	—	—
		生産年齢人口	64.0	63.5	62.9	62.4	61.9	61.3	60.7	—	—
		老年人口 (高齢化率)	18.4	19.0	19.7	20.4	21.0	21.6	22.3	—	—
全国 (%)											
	老年人口 (高齢化率)	25.1	26.0	26.6	27.3	27.7	28.1	28.4	28.7	3.6	

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

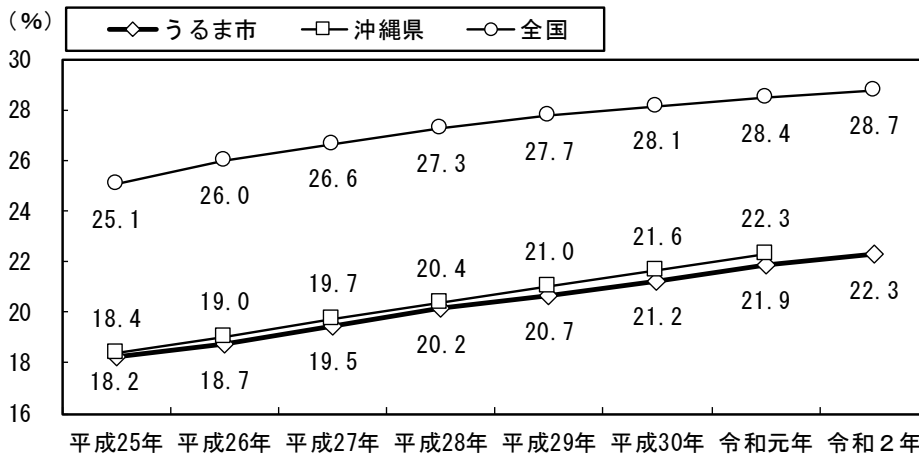
沖縄県・全国は総務省人口推計（各年10月1日現在）令和2年の全国は概算値

※年齢3区分別人口＝年少人口(15歳未満)、生産年齢人口(15～64歳)、老年人口(65歳以上)

### 総人口と高齢者数の推移



### 高齢化率の比較



高齢者について日常生活圏域別に見ると、高齢化率は与勝東地区が30.7%で最も高く、次いで与勝西地区が26.1%となっています。

### 日常生活圏域別高齢者人口

日常生活圏域	圏域別総人口	高齢者人口	高齢化率(%)
石川地区	18,142	4,370	24.1%
具志川北地区	19,952	4,067	20.4%
具志川東地区	19,049	4,037	21.2%
具志川西地区	18,780	4,119	21.9%
具志川南地区	24,408	4,344	17.8%
与勝西地区	14,239	3,713	26.1%
与勝東地区	10,459	3,216	30.7%
合計	125,029	27,866	22.3%

資料：住民基本台帳（令和2年10月1日現在）



## (2) 推計人口

将来人口の推計によると、総人口は今後もしばらくは増加を続け、令和7年には127,945人になると見込まれます。その後も増加傾向で推移し、令和11年には129,509人、令和14年には130,591人になると予測されます。

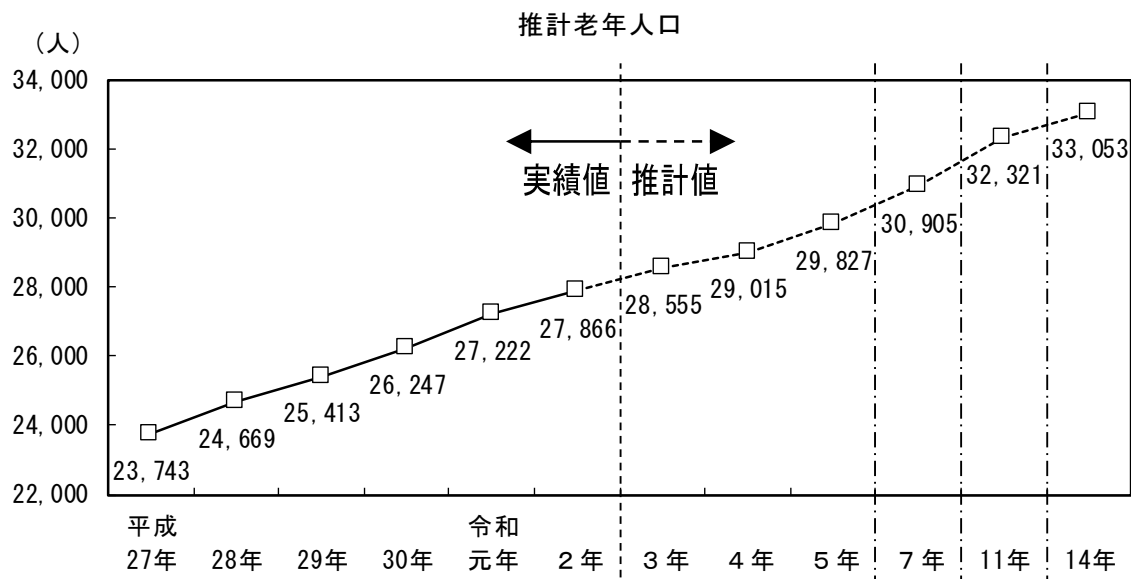
高齢者人口は毎年増加すると推計されており、第8期計画最終年の令和5年には29,827人となり、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる令和7年には30,905人、第10期計画最終年の令和11年には32,321人、令和14年には33,053人になると予測されます。

高齢化率は、令和元年の21.9%から上昇し、令和5年には23.5%、令和7年には24.2%、令和11年には25.0%、令和14年には25.3%になると予測されます。

### 人口

		実績値(再掲)		推計値					
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和7年	令和11年	令和14年
人数 (人)	総人口	124,368	125,029	125,645	126,149	126,944	127,945	129,509	130,591
	年少人口	21,225	21,285	21,255	21,226	21,157	21,103	20,984	20,847
	生産年齢人口	75,921	75,878	75,835	75,908	75,960	75,937	76,204	76,691
	老年人口	27,222	27,866	28,555	29,015	29,827	30,905	32,321	33,053
構成比 (%)	年少人口	17.1	17.0	16.9	16.8	16.7	16.5	16.2	16.0
	生産年齢人口	61.0	60.7	60.4	60.2	59.8	59.4	58.8	58.7
	老年人口	21.9	22.3	22.7	23.0	23.5	24.2	25.0	25.3

資料：住民基本台帳よりコーホート変化率法により推計（使用変化率：H29年～R元年平均）



### (3) 前期・後期別高齢者人口の状況

高齢者を前期高齢者(65～74歳)と後期高齢者(75歳以上)に分けてみると、令和2年では前期高齢者が14,843人、後期高齢者が13,023人であり、平成25年以降、前期、後期高齢者とも一貫した増加で推移しています。

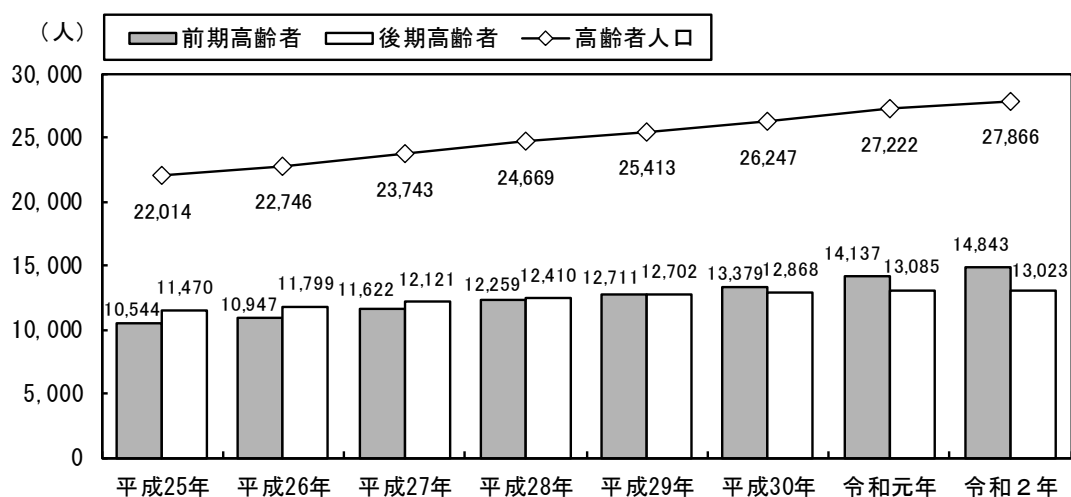
構成比をみると平成28年までは、前期高齢者より後期高齢者の割合が上回っていましたが、平成29年度に同率となり、令和2年では、前期高齢者は53.3%、後期高齢者は46.7%と前期高齢者の占める割合が僅かに上回っています。前期高齢者の割合は上昇傾向、後期高齢者の割合は減少傾向となっています。

#### 高齢者人口と後期高齢者人口の状況

		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
人数 (人)	高齢者人口	22,014	22,746	23,743	24,669	25,413	26,247	27,222	27,866
	前期高齢者 (65～74歳)	10,544	10,947	11,622	12,259	12,711	13,379	14,137	14,843
	後期高齢者 (75歳以上)	11,470	11,799	12,121	12,410	12,702	12,868	13,085	13,023
構成比 (%)	前期高齢者	47.9	48.1	48.9	49.7	50.0	51.0	51.9	53.3
	後期高齢者	52.1	51.9	51.1	50.3	50.0	49.0	48.1	46.7

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

#### 前期高齢者人口と後期高齢者人口の状況



#### (4) 推計前期・後期別高齢者人口の推移

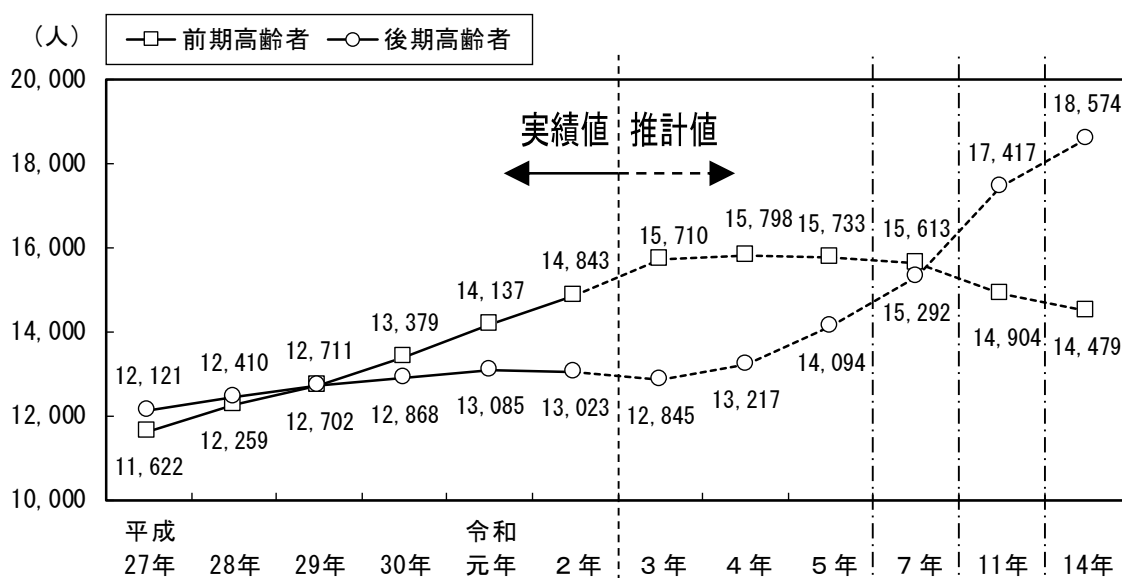
将来人口の推計によると、第8期計画期間については、前期高齢者は増加を続け、後期高齢者は、令和3年までは微減となり、以降は、増加で推移すると見込まれます。構成比を見ると、令和元年は前期高齢者の割合が僅かに上回っており、令和3年までは前期高齢者の割合が増加し、後期高齢者の割合が減少すると見込まれます。令和4年以降は後期高齢者が急増し、再び前期高齢者を上回ると予測されます。後期高齢者が急増する時期では、介護給付費の増大が予想されます。

#### 高齢者人口（前期・後期別）

		実績値(再掲)		推計値					
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和7年	令和11年	令和14年
人数(人)	高齢者人口	27,222	27,866	28,555	29,015	29,827	30,905	32,321	33,053
	前期高齢者	14,137	14,843	15,710	15,798	15,733	15,613	14,904	14,479
	後期高齢者	13,085	13,023	12,845	13,217	14,094	15,292	17,417	18,574
構成比(%)	前期高齢者	51.9	53.3	55.0	54.4	52.7	50.5	46.1	43.8
	後期高齢者	48.1	46.7	45.0	45.6	47.3	49.5	53.9	56.2

資料：住民基本台帳よりコーホート変化率法により推計（使用変化率：H29年～R元年平均）

#### 推計高齢者人口（前期・後期別）



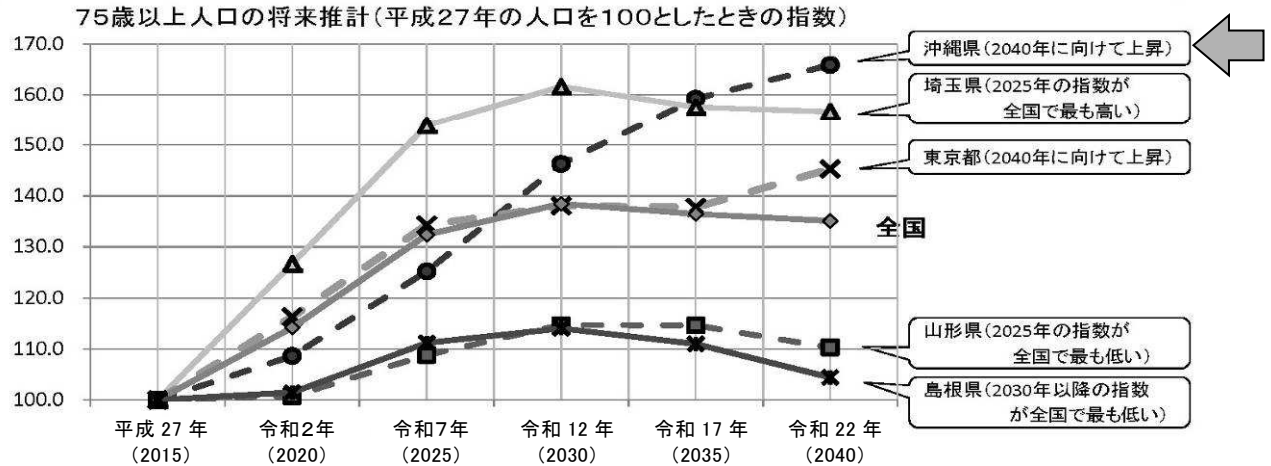
【参考】

### 2025年までの各地域の高齢化の状況

○75歳以上人口は、多くの都道府県で2025年頃までは急速に上昇するが、その後の上昇は緩やかで、2030年頃をピークに減少する。

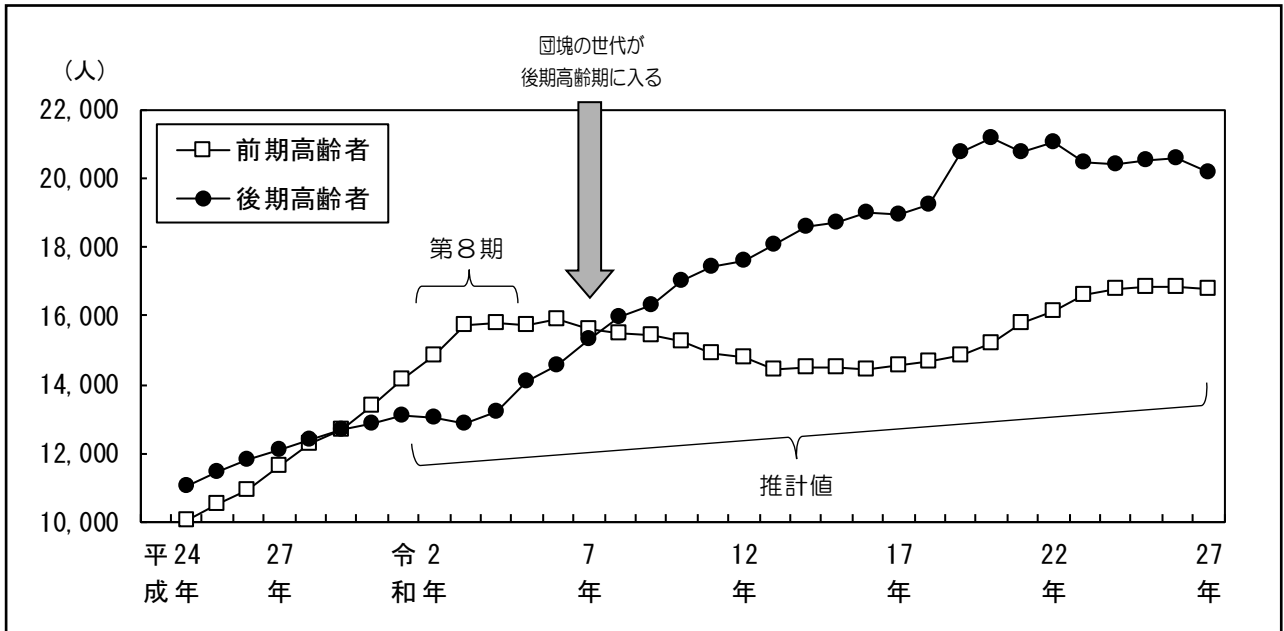
※2030年、2035年、2040年でみた場合、2030年が一番高いのが34道府県、2035年が一番高いのが9県  
 ※沖縄県、東京都、神奈川県、滋賀県では、2040年に向けてさらに上昇

○2015年から10年間の伸びの全国計は、1.32倍であるが、埼玉県、千葉県では、1.5倍を超える一方、山形県、秋田県では、1.1倍を下回るなど、地域間で大きな差がある。



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」より作成

### ■うるま市の高齢化の見込み



※平成27年の後期高齢者数を100とした時の令和27年の後期高齢者指数 = 166.7 (県より高い)

## (5) 第7期計画での人口推計値と実績値の比較

第7期計画で推計した将来人口と、平成30年から令和2年の実績人口を比較すると、平成30年では総人口、前期高齢者と前期高齢者割合の3項目、令和元年では前期高齢者割合を除いた全ての項目、令和2年では後期高齢者割合を除いた全ての項目において、実績人口が推計値を上回っています。

### 値と実績値の比較

		平成30年	令和元年	令和2年
総人口	第7期推計値	123,526	123,778	124,359
	実績人口	123,629	124,368	125,029
	推計値との差	103	590	670
高齢者人口	第7期推計値	26,283	26,882	27,591
	実績人口	26,247	27,222	27,866
	推計値との差	▲ 36	340	275
高齢化率	第7期推計値	21.3%	21.7%	22.2%
	実績人口	21.2%	21.9%	22.3%
	推計値との差	▲ 0.1	0.2	0.1
前期高齢者	第7期推計値	13,301	13,986	14,612
	実績人口	13,379	14,137	14,843
	推計値との差	78	151	231
後期高齢者	第7期推計値	12,982	12,896	12,979
	実績人口	12,868	13,085	13,023
	推計値との差	▲ 114	189	44
前期高齢者割合	第7期推計値	50.6%	52.0%	53.0%
	実績人口	51.0%	51.9%	53.3%
	推計値との差	0.4	▲ 0.1	0.3
後期高齢者割合	第7期推計値	49.4%	48.0%	47.0%
	実績人口	49.0%	48.1%	46.7%
	推計値との差	▲ 0.4	0.1	▲ 0.3

※「推計値との差」は「実績人口」－「第7期推計値」で算出

## 2. 世帯の状況

本市の総世帯のうち、高齢者のいる世帯は37.5%(令和2年)となっております。高齢者のいる世帯は年々増加しており、総世帯に占める割合も上昇で推移しています。

高齢者のみの世帯、高齢者単身世帯及び多世代同居世帯はそれぞれ増加していますが、総世帯に占める構成比を見ると、高齢者のみの世帯と高齢者単身世帯は上昇、その他(多世代同居等)は減少しています。特に高齢者単身世帯の上昇率が高く、高齢者の孤立予防(見守りや支え合い)も必要となります。

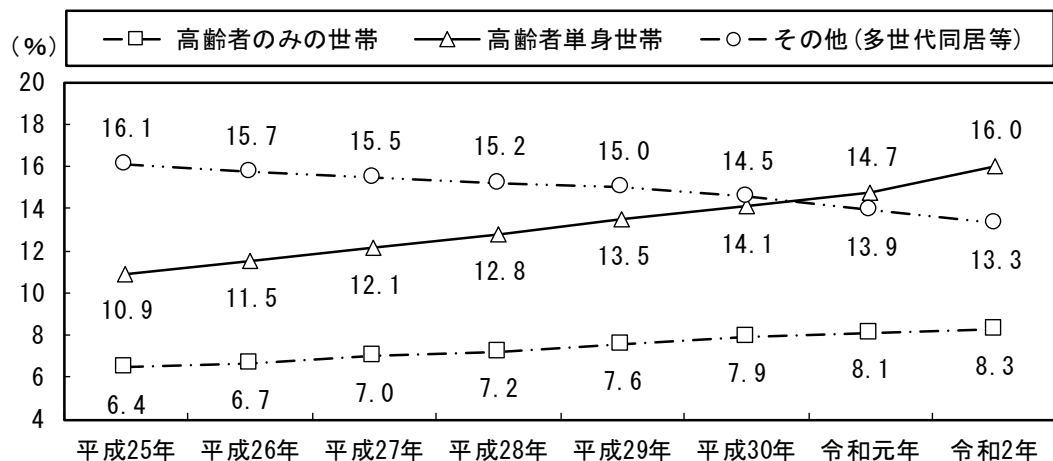
### 高齢者世帯の推移

		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
世帯数(世帯)	高齢者のいる世帯	15,712	16,352	16,981	17,644	18,233	18,852	19,553	20,389
	高齢者のみの世帯	3,023	3,211	3,442	3,608	3,830	4,083	4,326	4,490
	高齢者単身世帯	5,134	5,557	5,939	6,407	6,823	7,263	7,825	8,672
	その他(多世代同居等)	7,555	7,584	7,600	7,629	7,580	7,506	7,402	7,227
	総世帯	47,009	48,276	49,116	50,122	50,628	51,619	53,239	54,315
構成比(%)	高齢者のいる世帯	33.4	33.9	34.6	35.2	36.0	36.5	36.7	37.5
	高齢者のみの世帯	6.4	6.7	7.0	7.2	7.6	7.9	8.1	8.3
	高齢者単身世帯	10.9	11.5	12.1	12.8	13.5	14.1	14.7	16.0
	その他(多世代同居等)	16.1	15.7	15.5	15.2	15.0	14.5	13.9	13.3

資料：高齢者福祉関係基礎資料（各年10月1日現在）

※構成比はすべて総世帯数に対する比率

### 高齢者世帯の推移



高齢者の独居率を日常生活圏域別に見ると、具志川北地区が33.6%、石川地区が33.3%で、他の地区より高く、3割を超えます。最も独居率が低いのは具志川東地区で27.8%となっています。

#### 日常生活圏域別独居高齢者世帯数

日常生活圏域	独居高齢者世帯			独居率(%)
	男性	女性	合計	
石川地区	581	871	1,452	33.3%
具志川北地区	558	794	1,352	33.6%
具志川東地区	485	618	1,103	27.8%
具志川西地区	453	786	1,239	30.2%
具志川南地区	482	761	1,243	29.1%
与勝西地区	479	608	1,087	29.6%
与勝東地区	470	526	996	31.4%
合計	3,508	4,964	8,472	30.7%

資料：うるま市福祉事務所概要より(令和2年3月31日現在)

※老人ホーム等施設入所者及び外国人登録者を含みます。

※独居率は、65歳以上高齢者における比率です。

### 3. 就労の状況

就労している高齢者数は3,550人(平成27年)であり、高齢者の15.0%を占めています。就労割合は平成22年まで減少で推移していましたが、平成27年は急増となっています。県と比べるとやや低いです。また、就労している高齢者数を前期・後期高齢者別に見ると、平成22年と比べて、前期高齢者、後期高齢者ともに増加しています。

労働者全体(15歳以上で就労している人)に占める高齢者の割合は7.8%(平成27年)で、平成22年より僅かながら上昇しています。

#### 高齢者の就労状況の推移

		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	沖縄県 平成27年
人数 (人)	総労働者数	43,784	43,587	42,823	45,519	
	高齢者人口	15,427	18,376	20,445	23,623	
	就労している高齢者数	2,005	2,190	2,197	3,550	
	65歳～74歳	1,659	1,807	1,747	2,862	
	75歳以上	346	383	450	688	
構成比 (%)	就労している高齢者の割合	13.0	11.9	10.7	15.0	17.9
	労働者全体に占める高齢者の割合	4.6	5.0	5.1	7.8	8.4

資料：国勢調査

※「就労している高齢者の割合」＝就労している高齢者数÷高齢者人口

※「労働者全体に占める高齢者の割合」＝就労している高齢者数÷総労働者数

高齢者の就労状況を産業別にみると、平成 27 年では「サービス業」が 29.1%で最も高いほか、「卸売・小売・飲食業」が 16.9%、「農業」が 12.2%、であり、これら 3つが高くなっています。また、サービス業の従事者は平成 12 年と比べて上昇していますが、「農業」の従事者は大きく減少しています。

### 高齢者の産業別就業者の状況

	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年		平成 27 年	
	(人)	構成比 (%)	(人)	構成比 (%)	(人)	構成比 (%)	(人)	構成比 (%)	県 (%)	国 (%)
総数	2,005	—	2,190	—	2,197	—	3,550	—	—	—
第一次産業	827	41.2	752	34.3	530	24.1	473	13.3	18.2	14.7
農業	763	38.1	680	31.1	479	21.8	433	12.2		
林業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
漁業	64	3.2	72	3.3	51	2.3	40	1.1		
第二次産業	175	8.7	200	9.1	221	10.1	449	12.6	11.4	19.1
鉱業	1	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1		
建設業	120	6.0	141	6.4	137	6.2	321	9.0		
製造業	54	2.7	59	2.7	84	3.8	126	3.5		
第三次産業	984	49.1	1,220	55.7	1,232	56.1	2,038	57.4	58.9	59.5
電気・ガス・熱供給・水道	2	0.1	4	0.2	3	0.1	6	0.2		
運輸・通信業	96	4.8	138	6.3	151	6.9	243	6.8		
卸売・小売・飲食業	421	21.0	483	22.1	405	18.4	601	16.9		
金融・保険業	8	0.4	9	0.4	11	0.5	13	0.4		
不動産業	10	0.5	23	1.1	55	2.5	81	2.3		
サービス業	404	20.1	509	23.2	567	25.8	1,033	29.1		
公務(他に分類されないもの)	43	2.1	54	2.5	40	1.8	61	1.7		
分類不能	19	0.9	18	0.8	214	9.7	590	16.6	11.5	6.8

資料：国勢調査

※項目は平成12年の分類。平成17年、平成22年は分類が変更されていますが、以下のように合算いたしました。

平成17年

1. 「情報通信業」「運輸業」→【運輸・通信業】
2. 「卸売・小売業」「飲食店・宿泊業」→【卸売・小売・飲食業】
3. 「医療・福祉」「教育・学習支援業」「複合サービス事業」「サービス業(他に分類されないもの)」→【サービス業】

平成22年

1. 「情報通信業」「運輸業、郵便業」→【運輸・通信業】
2. 「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」→【卸売・小売・飲食業】
3. 「学術研究、専門・技術サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療・福祉」「複合サービス事業」「サービス業(他に分類されないもの)」→【サービス業】



#### 4. 老人クラブ

老人クラブの加入者数は年々減少しており、平成 28 年度は 7,425 人でしたが、令和元年度には 7,067 人と減少しています。また、単位老人クラブでは休会が増えており、令和元年度は 17 か所となっています。福祉圏域別に見ると、石川地区、具志川北地区、具志川西地区では休会がありませんが、具志川東地区、与勝西地区では 3 か所、具志川南地区では 4 か所、与勝東地区では 7 か所が休会しています。

#### 老人クラブ会員数

単位：人

NO	自治会名	クラブ名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
1	曙	曙区老人クラブ	120	122	133	129
2	南栄	南栄区老人クラブ	80	106	84	85
3	城北	城北区老人クラブ	82	80	77	77
4	中央	中央区老人クラブ	98	91	102	106
5	松島	松島区老人クラブ	107	104	105	107
6	宮前	宮前区老人クラブ	90	88	69	66
7	東山	東山区老人クラブ	103	105	102	99
8	旭	旭区老人クラブ	62	58	63	71
9	港	港区老人クラブ	79	76	78	69
10	伊波	伊波区老人クラブ	134	101	110	114
11	嘉手苅	嘉手苅区老人クラブ	60	61	40	40
12	山城	山城区老人クラブ	109	108	68	67
	石川地区		1,124	1,100	1,031	1,030
13	天願	天願老人クラブ清流会	211	230	218	211
14	昆布	昆布老人クラブ	140	139	127	123
15	栄野比	栄野比老人クラブ	114	106	232	276
16	川崎	川崎老人クラブ若水会	195	160	155	179
17	みどり町 1・2	みどり町 1・2 丁目むつみクラブ	104	103	107	93
18	みどり町 3・4	みどり町 3・4 丁目老人クラブ	121	126	127	99
19	みどり町 5・6	みどり町 5・6 丁目老人クラブ	179	174	161	276
20	石川前原	前原区老人クラブ	107	111	113	112
21	東恩納	東恩納区老人クラブ	143	146	155	155
22	美原	美原区老人クラブ	76	73	67	60
	具志川北地区		1,390	1,368	1,462	1,584
23	具志川	具志川黄金友	338	322	174	161
24	田場	田場老人クラブ	452	380	377	433
25	赤野	赤野楽寿会	168	休会	休会	休会
26	宇堅	宇堅老人クラブ	休会	休会	休会	休会
27	上江洲	上江洲老人クラブ福栄会	148	157	140	138
28	大田	大田老人クラブ	休会	休会	休会	休会
29	川田	川田老人クラブ	87	71	97	114
	具志川東地区		1,193	930	788	846

NO	自治会名	クラブ名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
30	安慶名	安慶名老人クラブ	266	334	274	329
31	平良川	平良川命伸会	297	296	298	298
32	西原	西原区願寿会	183	186	73	164
33	上平良川	上平良川老人クラブ	219	210	199	187
34	兼箇段	兼箇段老人クラブ	98	123	113	92
35	米原	米原老人クラブ	177	184	165	122
36	喜仲	喜仲老人クラブ	279	267	237	235
	具志川西地区		1,519	1,600	1,359	1,427
37	赤道	赤道老人クラブ	187	165	130	130
38	江洲	江洲豊和会	104	174	335	364
39	宮里	宮里ことぶき会	休会	休会	休会	休会
40	塩屋	塩屋老人クラブ	休会	休会	休会	休会
41	豊原	豊原老人クラブ長生会	144	143	223	休会
42	高江洲	高江洲老人クラブ	133	120	124	117
43	前原	前原老人クラブ長寿会	休会	休会	休会	休会
44	志林川	志林川かりゆし会	161	150	143	139
45	新赤道	新赤道老人クラブ	129	139	126	128
	具志川南地区		858	891	1,081	878
46	南風原	南風原長寿クラブ	259	304	304	218
47	平安名	平安名長寿クラブ	408	405	839	506
48	内間	内間寿クラブ	242	休会	休会	休会
49	平敷屋	平敷屋長寿クラブ	休会	休会	休会	休会
50	津堅	津堅長寿クラブ	休会	休会	休会	休会
51	与那城西原	与那城西原老人クラブ	127	150	136	181
	与勝西地区		1,036	859	1,279	905
52	浜	浜更生クラブ	51	50	96	76
53	比嘉	比嘉若寿会	25	25	20	20
54	照間	照間老人クラブ	休会	休会	休会	休会
55	与那城	与那城区老人クラブ	休会	休会	休会	休会
56	饒辺	饒辺老人クラブ	休会	休会	休会	休会
57	屋慶名	屋慶名区老人クラブ	休会	休会	20	25
58	平安座	平安座老人クラブ	182	182	181	206
59	桃原	桃原老人クラブ	47	62	72	70
60	上原	上原老人クラブ	休会	休会	休会	休会
61	宮城	宮城老人クラブ	休会	休会	休会	休会
62	池味	池味老人クラブ	休会	休会	休会	休会
63	伊計	伊計老人クラブ	休会	休会	休会	休会
	与勝東地区		305	319	389	397
	合計		7,425	7,067	7,389	7,067

資料：うるま市福祉事務所概要

※令和元年度 活動中老人クラブ 46 クラブ、休会中老人クラブ 17 クラブ

## 5. 介護保険の状況

### (1) 要介護認定者数の推移

介護保険の認定者数は年々増加しており、令和元年10月では5,293人となっています。また、認定者5,293人のうち、第1号被保険者は5,124人、第2号被保険者は169人となっています。

第1号被保険者の認定者を前期高齢者・後期高齢者別に見ると、後期高齢者の割合が8割半ばとなっており、認定者のほとんどが後期高齢者であることがわかります。

認定率は、平成24年の19.3%から27年には20.1%へと上昇しましたが、28年以降減少し、令和元年では18.8%となっています。また、認定率は県や国と比べてやや高くなっています。

認定率(令和元年)を前期・後期高齢者別に見ると、前期高齢者は5.0%と非常に低いのに対し、後期高齢者では33.7%と3割余りを占めており、75歳以上の後期高齢者になると介護が必要となる割合が急増することがわかります。

#### 介護認定者数の推移

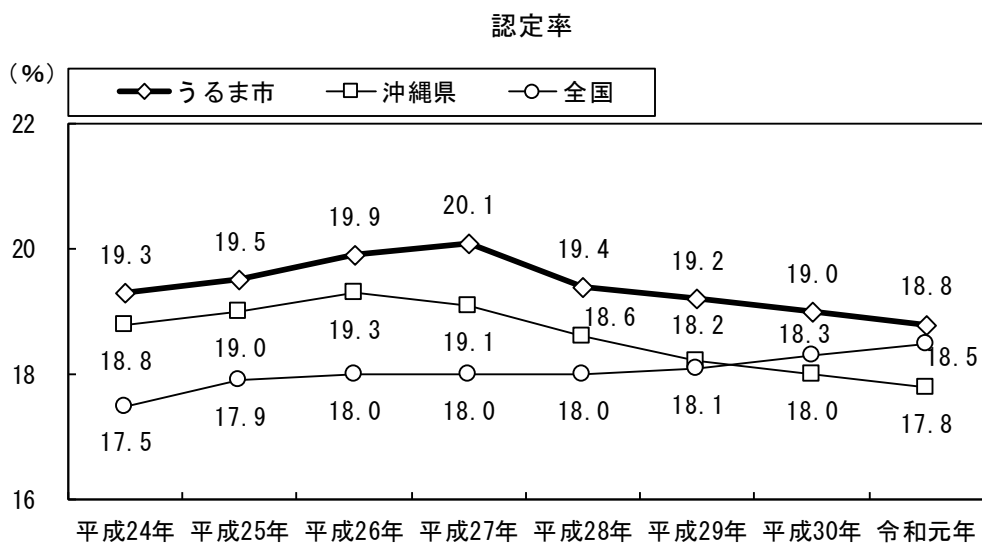
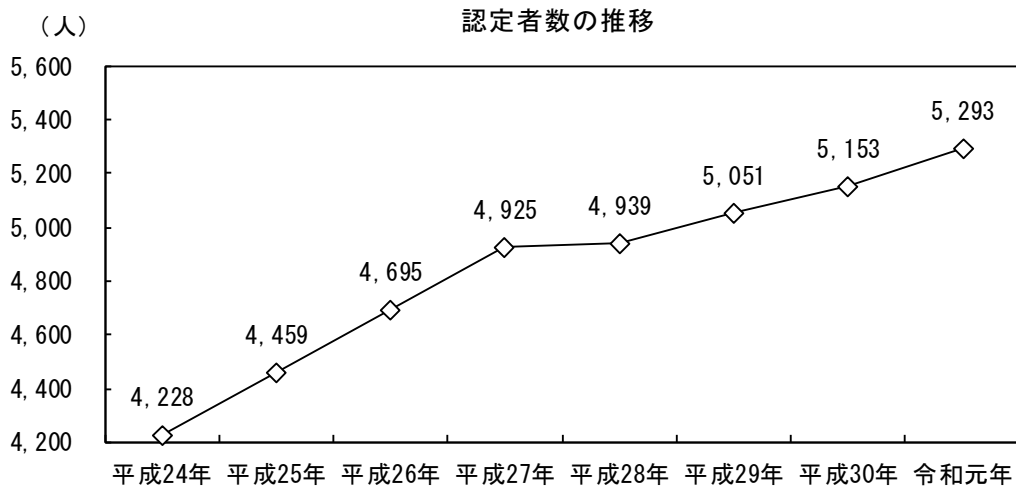
		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
人数 (人)	認定者数	4,228	4,459	4,695	4,925	4,939	5,051	5,153	5,293
	第1号被保険者	4,071	4,290	4,531	4,764	4,787	4,895	4,991	5,124
	前期高齢者	526	555	579	613	650	677	685	702
	後期高齢者	3,545	3,735	3,952	4,151	4,137	4,218	4,306	4,422
	第2号被保険者	157	169	164	161	152	156	162	169
構成比 (%)	前期高齢者	12.9	12.9	12.8	12.9	13.6	13.8	13.7	13.7
	後期高齢者	87.1	87.1	87.2	87.1	86.4	86.2	86.3	86.3
	認定率(第1号被保険者)	19.3	19.5	19.9	20.1	19.4	19.2	19.0	18.8
	前期高齢者	5.2	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.1	5.0
	後期高齢者	32.1	32.6	33.5	34.3	33.3	33.2	33.4	33.7

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

※認定率は、第1号被保険者の認定率として記載(第1号被保険者の認定者数÷第1号被保険者)

※前期高齢者の認定率＝前期高齢者の認定者数÷第1号被保険者のうち前期高齢者数

※後期高齢者の認定率＝後期高齢者の認定者数÷第1号被保険者のうち後期高齢者数



## (2) 要介護度別の認定者数の推移

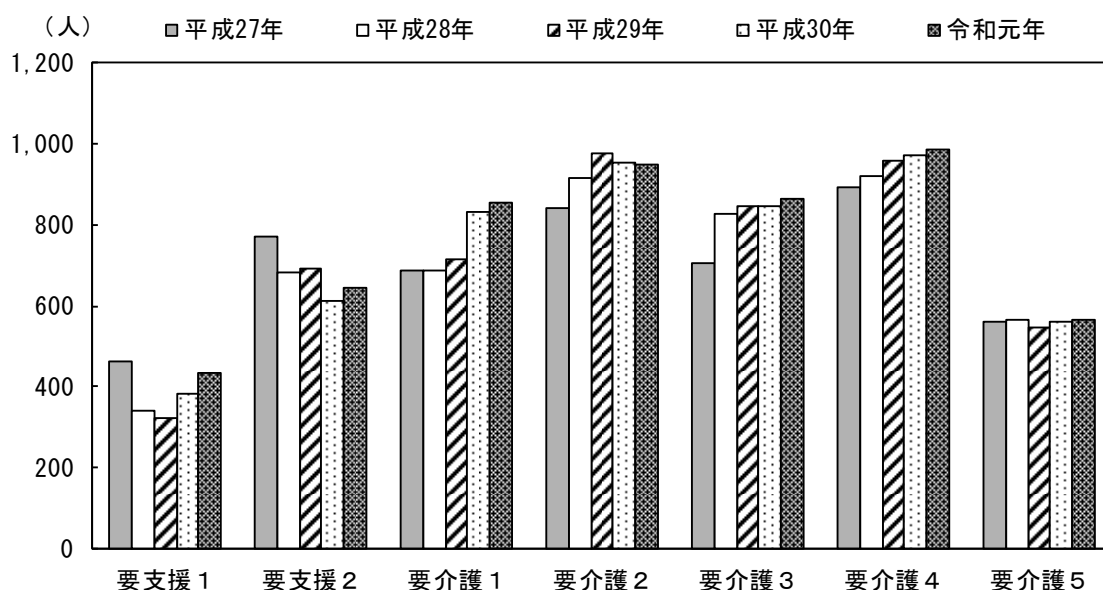
要介護度別の認定者について構成比で見ると、令和元年では、要介護4が18.6%、要介護2が17.9%を占めており、比較的高くなっています。また、平成29年まで要介護2より重い要介護度では割合がやや上昇で推移し、平成30年から僅かながら減少したものの、依然として中度者から重度者の占める割合が高い傾向となっています。

### ・介護度別認定者数

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
人数 (人)	認定者数(再)	4,228	4,459	4,695	4,925	4,939	5,051	5,153	5,293
	要支援1	371	404	430	461	343	323	382	433
	要支援2	629	686	734	772	682	692	612	644
	要支援(小計)	1,000	1,090	1,164	1,233	1,025	1,015	994	1,077
	要介護1	654	685	672	689	686	714	831	853
	要介護2	720	763	815	842	917	975	954	948
	要介護3	609	659	692	708	825	844	845	864
	要介護4	700	740	843	893	921	956	970	987
	要介護5	545	522	509	560	565	547	559	564
構成比 (%)	要支援1	8.8	9.1	9.2	9.4	6.9	6.4	7.4	8.2
	要支援2	14.9	15.4	15.6	15.7	13.8	13.7	11.9	12.2
	要支援(小計)	23.7	24.4	24.8	25.0	20.8	20.1	19.3	20.3
	要介護1	15.5	15.4	14.3	14.0	13.9	14.1	16.1	16.1
	要介護2	17.0	17.1	17.4	17.1	18.6	19.3	18.5	17.9
	要介護3	14.4	14.8	14.7	14.4	16.7	16.7	16.4	16.3
	要介護4	16.6	16.6	18.0	18.1	18.6	18.9	18.8	18.6
	要介護5	12.9	11.7	10.8	11.4	11.4	10.8	10.8	10.7

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

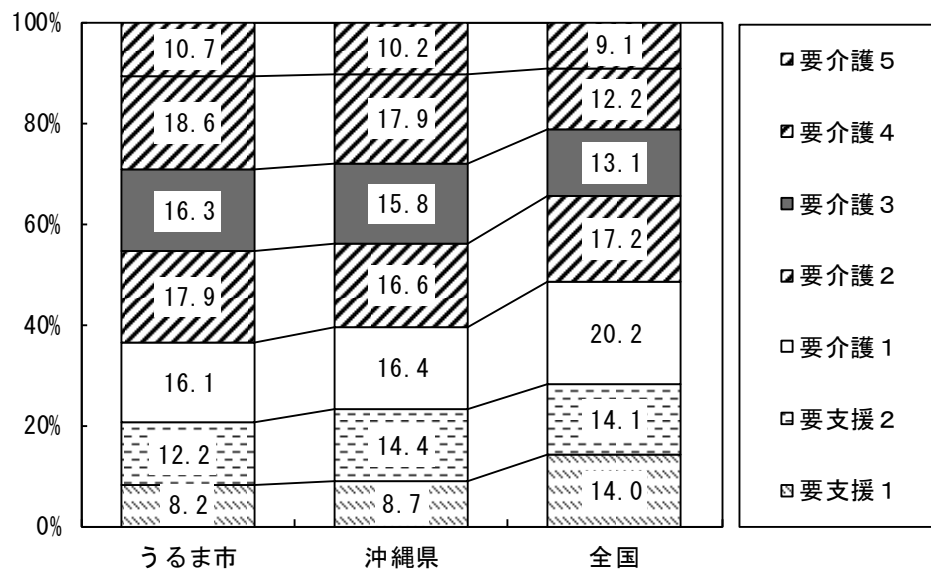
### 要介護度別の認定者数の推移



中度者、重度者の占める割合については、県や全国の数より高くなっています。また要介護4、5の重度者は、市では29.3%であるのに対し、県は28.1%、全国は21.3%であり、県や全国を上回っています。

反対に、要支援及び要介護1の軽度者については、市では36.5%であるのに対し、県は39.5%、全国は48.3%であり、県や全国を下回っています。

要介護度別認定者の状況（令和元年10月）



### (3) 介護サービスの受給者数の推移

サービス類型別に介護サービスの受給者数をみると、平成 29 年度以降は居宅サービス利用者と地域密着型サービスは微増傾向、施設サービス利用者は概ね横ばいで推移しています。サービス利用者の大半は居宅サービス受給者であり、受給者の 7 割を占めています。

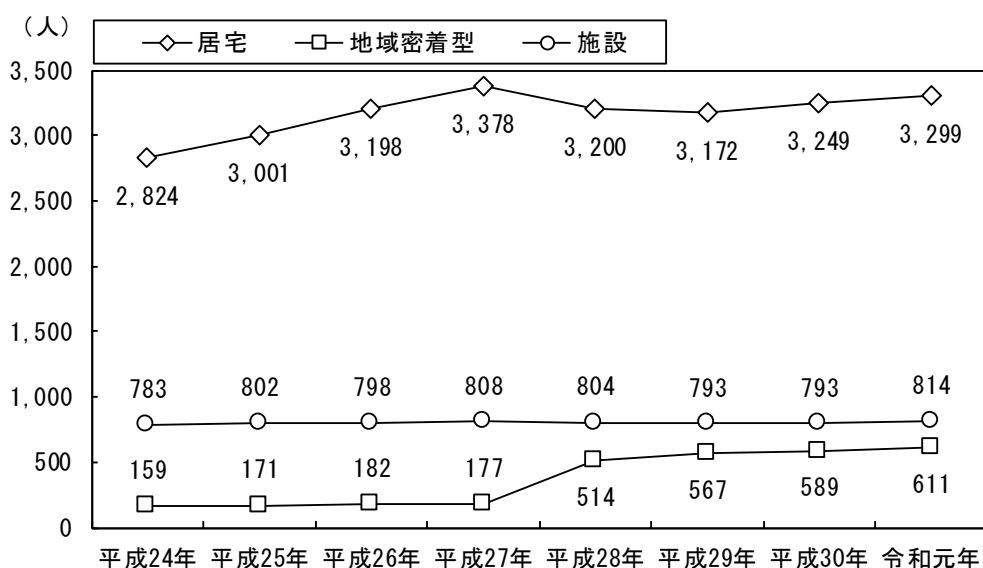
また、平成 28 年には居宅サービス受給者が大幅減、地域密着型サービス受給者が大幅増となっています。制度改正で通所介護のうち小規模の事業所が地域密着型サービスに移行(地域密着型通所介護)し、これにともなって受給者も移行したことが影響しています。

#### ①、地域密着型、施設サービス別受給者数

	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成30年		令和元年	
	24年	25年	26年	27年	28年	29年		構成比 (%)		構成比 (%)
受給者数(人)	3,766	3,974	4,178	4,363	4,518	4,532	4,631		4,724	
居宅(人)	2,824	3,001	3,198	3,378	3,200	3,172	3,249	70.0	3,299	70.2
地域密着型(人)	159	171	182	177	514	567	589	12.5	611	12.7
施設(人)	783	802	798	808	804	793	793	17.5	814	17.1

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

介護サービスの受給者数の推移



#### (4) 居宅サービス別利用状況

居宅サービスのサービス別に1か月あたりの利用人数を見ると、平成26年、27年は通所介護が圧倒的に多く、2,000件を超えていました。平成28年は通所介護事業所の一部が地域密着型通所介護に移行する制度改正の影響で、大きく減少しましたが、それでも福祉用具貸与に次いで2番目に多く、他のサービスを大きく引き離しています。令和元年の通所介護は1,745件となっています。

サービス別の利用件数

単位：件

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
訪問介護	678	733	648	605	573	602
訪問入浴介護	23	25	26	23	30	23
訪問看護	78	88	105	105	126	132
訪問リハビリテーション	58	55	58	49	53	32
居宅療養管理指導	134	155	155	171	164	168
通所介護	2,061	2,272	1,722	1,628	1,755	1,745
通所リハビリテーション	721	706	719	699	699	698
短期入所生活介護	148	126	143	135	134	130
短期入所療養介護	37	30	33	42	34	41
福祉用具貸与	1,526	1,711	1,845	1,977	2,012	2,154
特定施設入所者生活介護	58	61	60	61	70	62
居宅サービスの利用件数	5,522	5,962	5,514	5,495	5,650	5,787

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月



構成比をみると、令和元年では福祉用具貸与が37.2%、通所介護が30.2%であり、これら2つのサービスが非常に高くなっています。また、通所リハビリテーションが12.1%、訪問介護が10.4%で比較的高いほかは、5%未満の利用にとどまっています。

通所介護と通所リハビリテーションを合わせると、居宅サービス利用の42.3%を占めます。

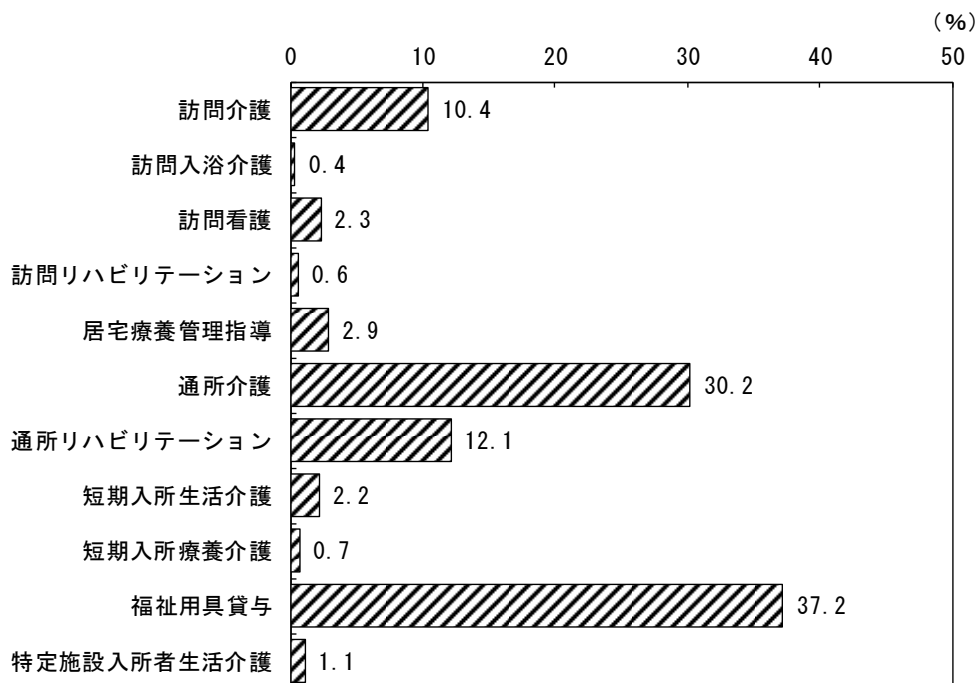
サービス利用の構成比

単位：%

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
訪問介護	12.3	12.3	11.8	11.0	10.1	10.4
訪問入浴介護	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5	0.4
訪問看護	1.4	1.5	1.9	1.9	2.2	2.3
訪問リハビリテーション	1.1	0.9	1.1	0.9	0.9	0.6
居宅療養管理指導	2.4	2.6	2.8	3.1	2.9	2.9
通所介護	37.3	38.1	31.2	29.6	31.1	30.2
通所リハビリテーション	13.1	11.8	13.0	12.7	12.4	12.1
短期入所生活介護	2.7	2.1	2.6	2.5	2.4	2.2
短期入所療養介護	0.7	0.5	0.6	0.8	0.6	0.7
福祉用具貸与	27.6	28.7	33.5	36.0	35.6	37.2
特定施設入所者生活介護	1.1	1.0	1.1	1.1	1.2	1.1

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

居宅サービス利用の構成比（令和元年）



## (5) 地域密着型サービスの利用状況

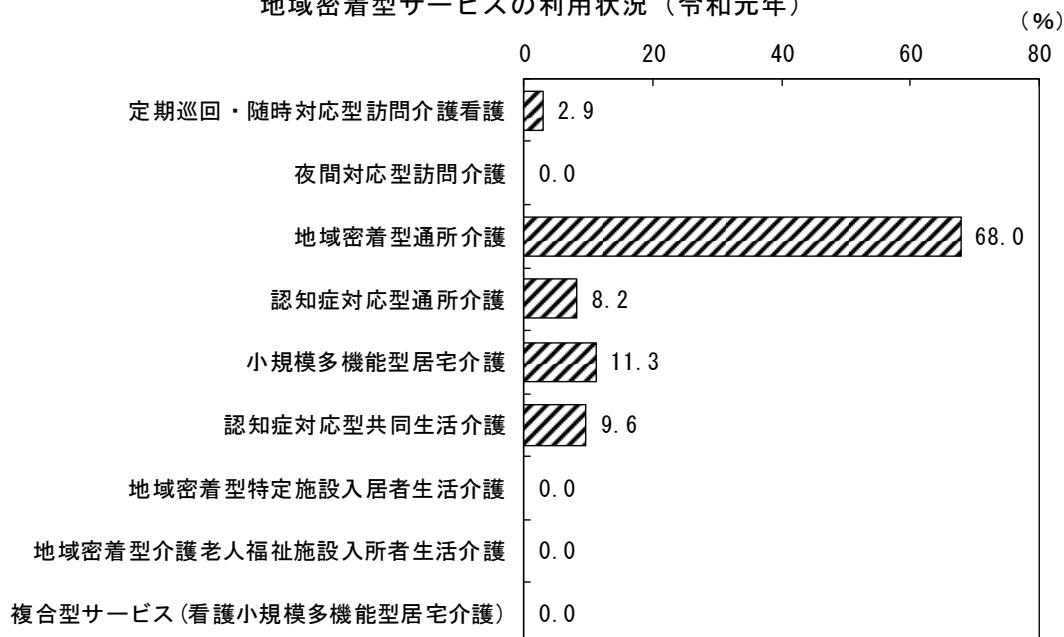
平成28年からは制度改正により小規模の通所介護事業所が地域密着型通所介護に移行され、地域密着型サービスの利用者数が急増しています。サービスの構成比を見ると、地域密着型通所介護の占める割合は6割を超えており、その他のサービスは1割以下となっています。

地域密着型サービス別の利用状況

		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
件数 (件)	地域密着型サービス	183	177	518	572	592	613
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	8	14	19	20	17	18
	夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0
	地域密着型通所介護			328	373	410	417
	認知症対応型通所介護	48	44	53	57	46	50
	小規模多機能型居宅介護	64	54	59	62	62	69
	認知症対応型共同生活介護	62	64	58	60	57	59
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	1	1	0	0	0
	複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	0	0	0	0	0	0
構成比 (%)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4.4	7.9	3.7	3.5	2.9	2.9
	夜間対応型訪問介護	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	0.0	0.0	63.3	65.2	69.3	68.0
	認知症対応型通所介護	26.2	24.9	10.2	10.0	7.8	8.2
	小規模多機能型居宅介護	35.0	30.5	11.4	10.8	10.5	11.3
	認知症対応型共同生活介護	33.9	36.2	11.2	10.5	9.6	9.6
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.5	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0
	複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

地域密着型サービスの利用状況（令和元年）



## (6) 施設サービス別の利用状況

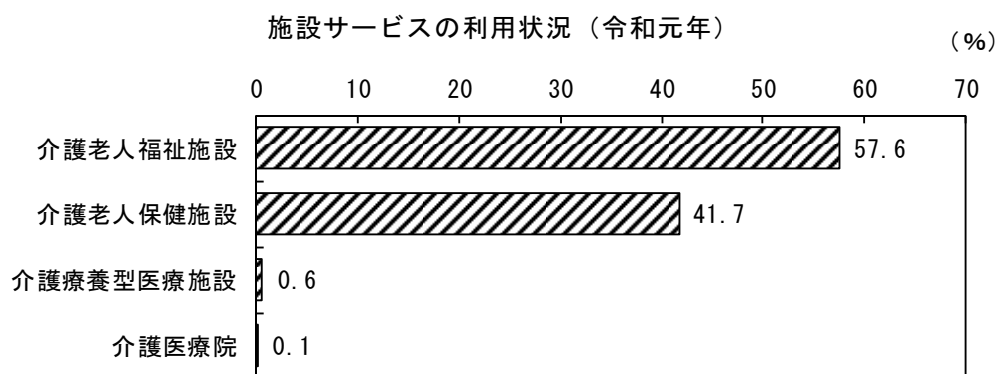
施設サービスでは、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)の利用が最も多く、令和元年では1か月あたり470人が利用し、施設サービス利用者の6割弱を占めています。

また、介護老人保健施設は340人で41.7%、介護療養型医療施設は5人で0.6%となっています。

施設サービスの利用件数

		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
件数 (件)	施設利用件数	801	810	804	794	793	816
	介護老人福祉施設	456	482	477	478	468	470
	介護老人保健施設	319	312	314	305	320	340
	介護療養型医療施設	26	16	13	11	5	5
	介護医療院					1	1
構成比 (%)	介護老人福祉施設	56.9	59.5	59.3	60.2	59.0	57.6
	介護老人保健施設	39.8	38.5	39.1	38.4	40.4	41.7
	介護療養型医療施設	3.2	2.0	1.6	1.4	0.6	0.6
	介護医療院					0.1	0.1

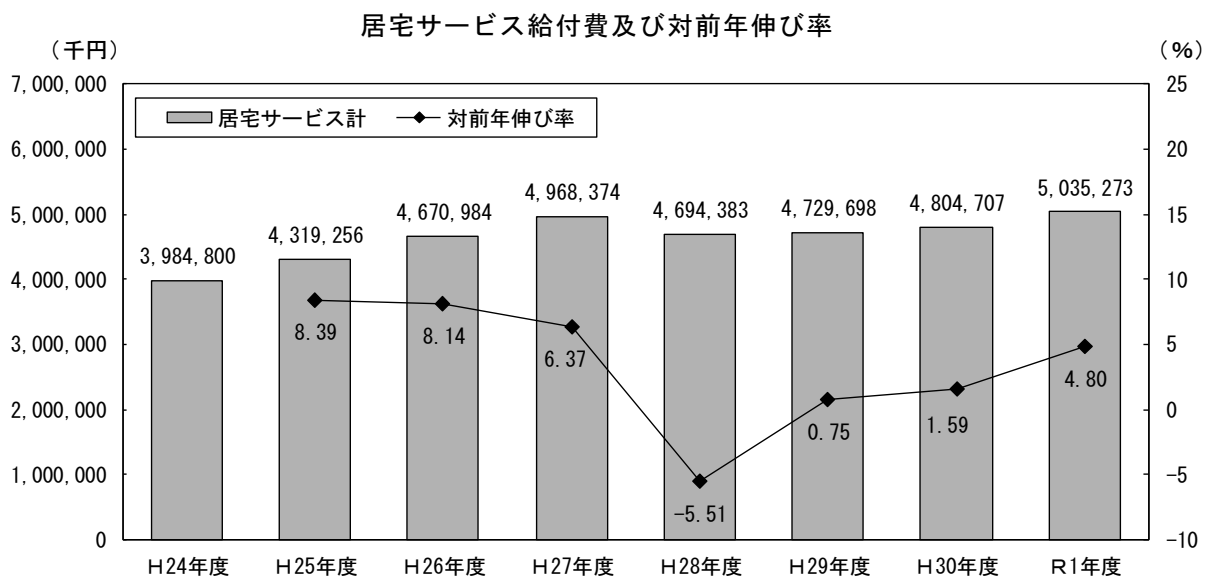
資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月



## (7) 給付費の推移

### ① 居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービスの給付費

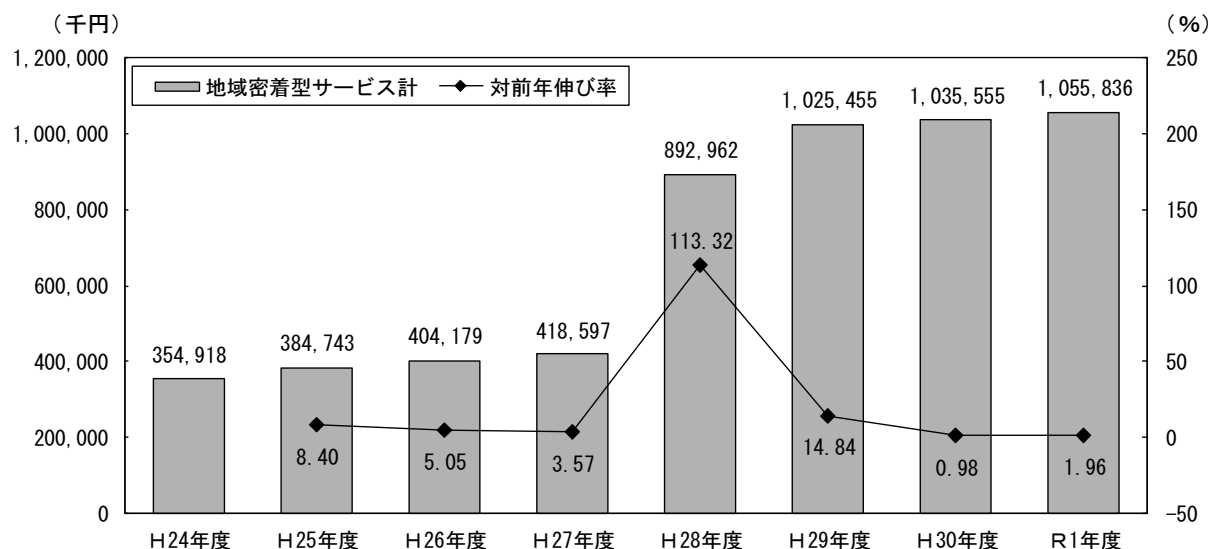
居宅サービスの給付費は、平成27年度まで一貫して増加し、平成28年度には通所介護の一部が地域密着型サービスに移行したことから減少しましたが、翌年の平成29年度以降、再度増加で推移しています。給付費は、平成27年度が49億円超、平成28年度が47億円弱に減少、その後増加し、令和元年度は50億円を超えています。対前年伸び率は、平成27年度以前は8%台ですが、令和元年度では4.80%となっています。



地域密着型サービスは、市町村が事業所指定を行うものであり、介護保険事業計画にもとづいて整備を行っています。給付費は、平成 24 年度に新たな整備を行ったことから 3 億円台に伸び、その後も増加しています。平成 28 年度は地域密着型通所介護が開始したことで 113.32% 給付費が伸び、9 億円弱となっています。

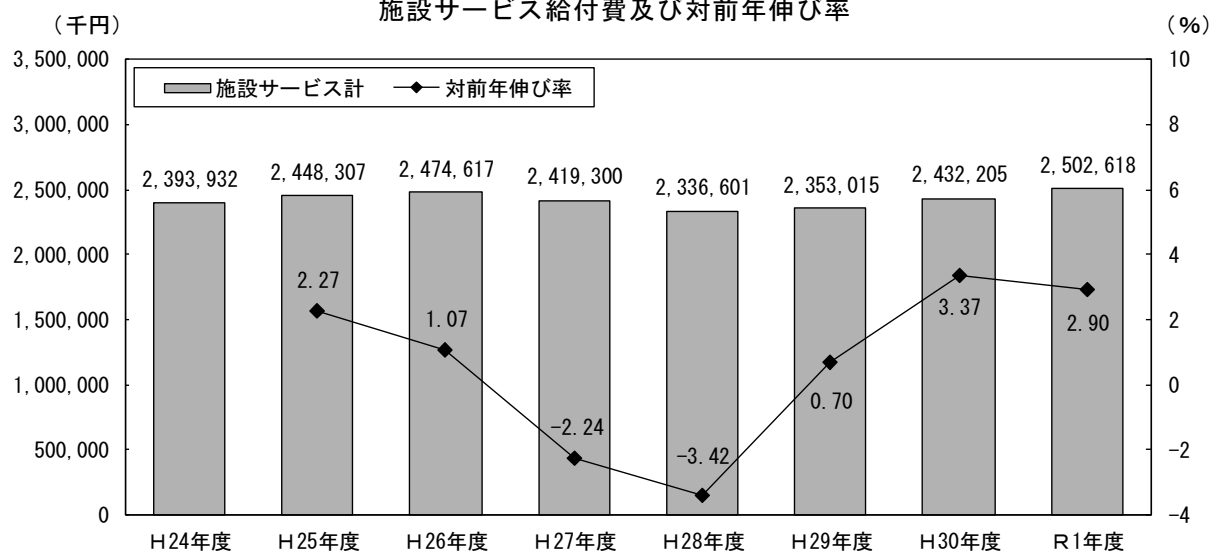
平成 29 年度では、給付費が 10 億円を超え、対前年伸び率も 14.84% でしたが、令和元年度は対前年伸び率が 1.96% と緩やかになっています。

地域密着型サービス給付費及び対前年伸び率



施設サービスの給付費は平成 29 年度から増加し、令和元年度は 25 億超となっています。対前年伸び率では、平成 30 年度は 3.37% と過去 5 年間で最も高い伸び率となっています。

施設サービス給付費及び対前年伸び率



## ②居宅サービスの内訳

居宅サービスでは、通所系の給付費が圧倒的に高く、令和元年度では34億円と、居宅サービス給付費の69.0%を占めています。前項で掲載した施設サービス給付費(25億円)を上回っており、通所系サービスが給付の増大につながっています。

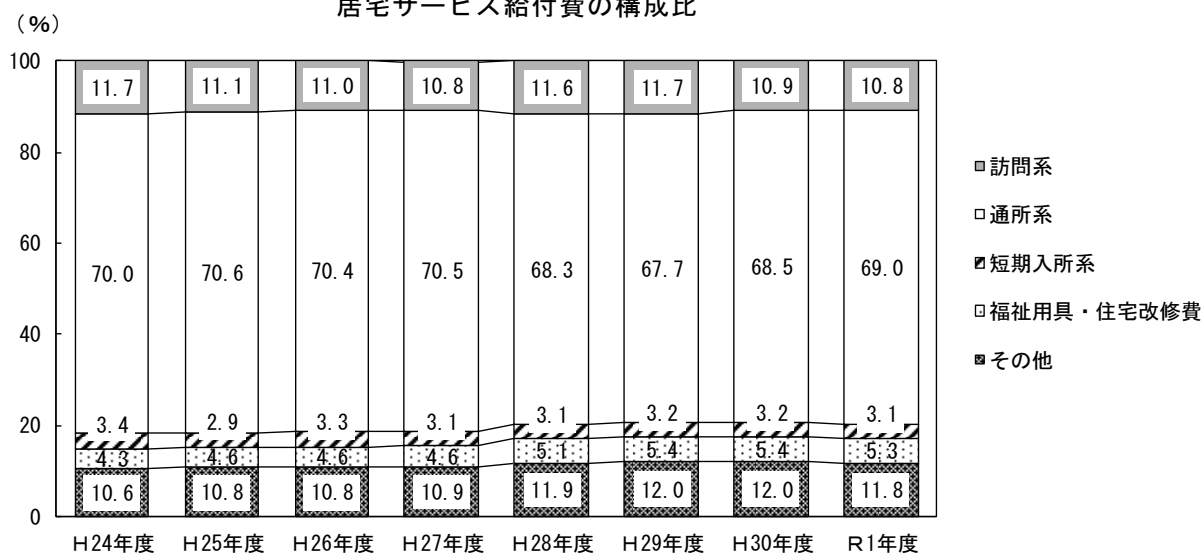
居宅サービス給付費

単位：千円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
訪問系	464,261	478,360	512,302	536,113	542,621	552,476	524,518	545,702
通所系	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,204,995	3,203,614	3,292,185	3,471,920
短期入所系	134,130	127,323	152,959	155,783	145,274	152,181	151,958	156,330
福祉用具・住宅改修費	172,904	200,297	213,000	230,209	240,756	255,892	259,070	266,913
その他	423,956	464,929	505,372	541,876	560,736	565,534	576,976	594,407
居宅サービス計	3,984,800	4,319,256	4,670,984	4,968,374	4,694,383	4,729,698	4,804,707	5,035,273
伸び率 (対前年度)	—	8.39	8.14	6.37	-5.51	0.75	1.59	4.80

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（令和元年度は月報の合計値）

居宅サービス給付費の構成比



## 7) 訪問系サービス

訪問系サービスの給付費を要介護度別にみると、要介護4と要介護5で非常に高く、また要介護度が高くなるとともに給付費も上がる傾向となっています。令和元年度では要介護4と5の給付費が49.5%と約半数を占めています。

要介護度別の年度推移を見ると、平成29年度まで要介護4の伸びが非常に大きく推移していましたが、平成30年度は減少し、令和元年度では再び増加しています。要介護5は平成27年度まで減少で推移していましたが、平成28年度に一旦増加し、以降は再度減少で推移しています。

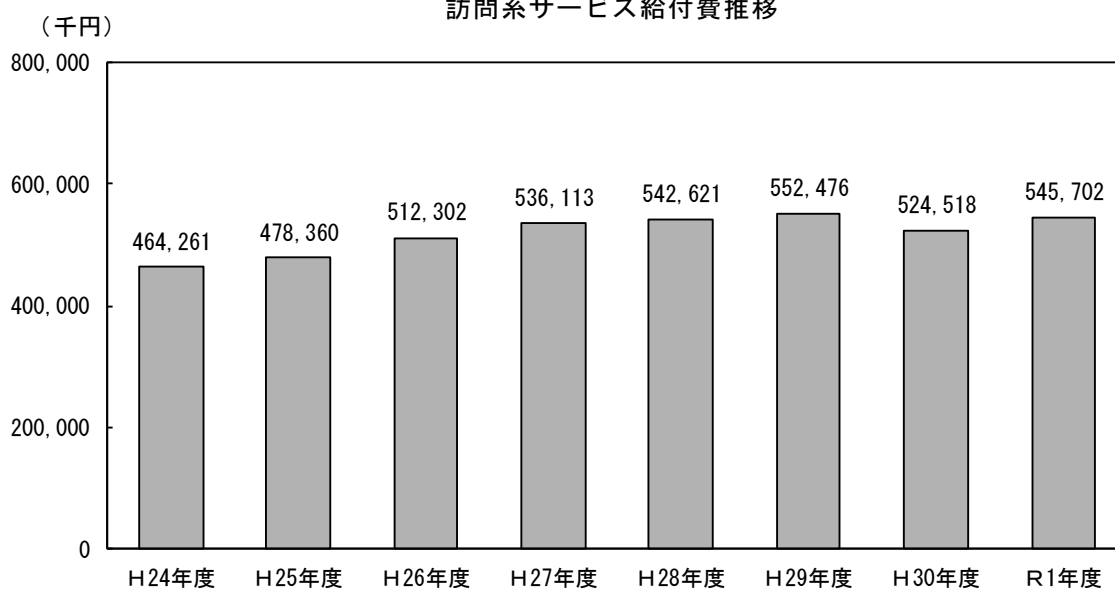
### 訪問系サービス給付費

単位：千円

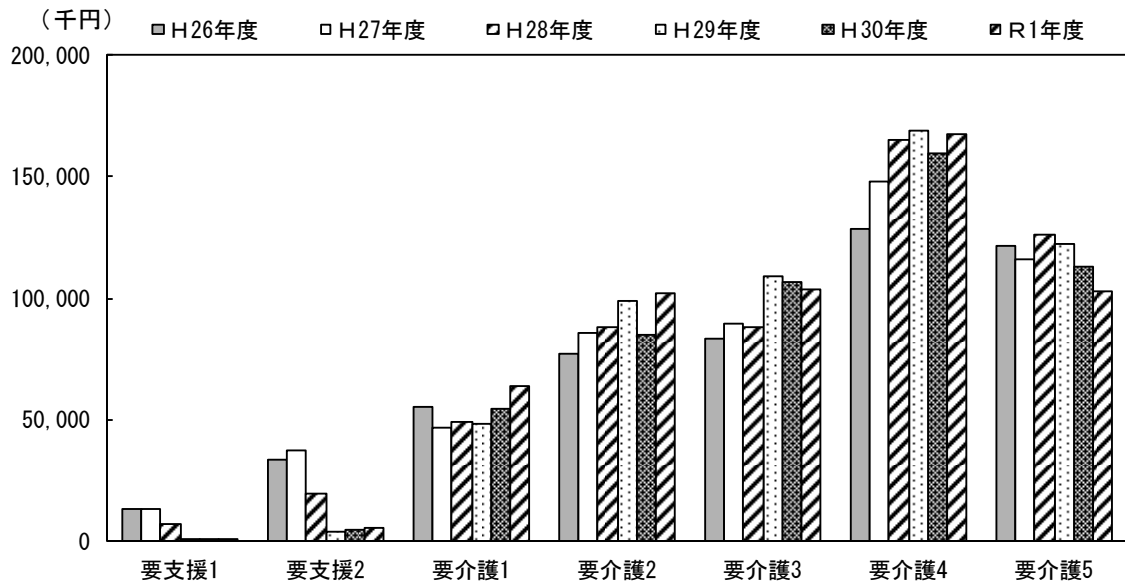
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
要支援1	11,352	11,736	13,199	13,559	6,779	1,190	1,144	841
要支援2	31,057	33,189	33,911	37,477	19,309	3,612	4,923	5,247
要介護1	57,668	57,078	55,026	46,420	49,163	48,592	54,510	63,995
要介護2	69,167	71,397	77,058	85,404	87,813	98,982	84,875	101,911
要介護3	65,814	65,384	83,644	89,563	88,069	108,779	106,846	103,710
要介護4	97,432	115,580	128,280	147,612	165,441	169,240	159,482	167,421
要介護5	131,771	123,997	121,184	116,078	126,048	122,083	112,739	102,576
計	464,261	478,360	512,302	536,113	542,621	552,476	524,518	545,702
要介護4と5の占有率	49.4%	50.1%	48.7%	49.2%	53.7%	52.7%	51.9%	49.5%

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（令和元年度は月報の合計値）

訪問系サービス給付費推移



訪問系サービス給付費推移（要介護度別）



1) 通所系サービス

通所系サービスの給付費を要介護度別にみると、要介護2～4で高く、令和元年度では要介護2と3がそれぞれ7億円台、要介護4が8億円となっています。また要介護2より重い介護度では給付費の増加傾向が見られ、特に要介護4の増加が大きいです。

要介護2～要介護4の割合をそれぞれ見ると、令和元年度では、要介護2が22.7%、要介護3は23.0%、要介護4は25.1%となっています。

通所系サービス給付費

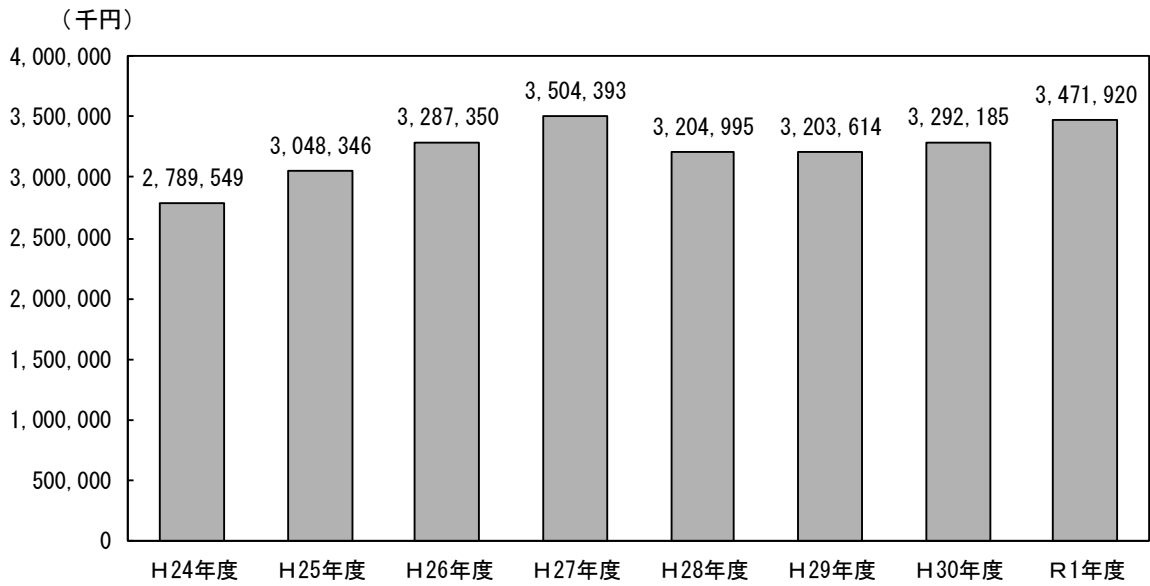
単位：千円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
要支援1	56,314	63,749	71,909	56,977	29,014	10,068	10,811	15,457
要支援2	221,103	234,761	241,741	223,379	146,106	63,179	63,501	59,852
要介護1	433,629	447,230	433,020	472,487	419,347	425,019	439,551	479,354
要介護2	621,364	692,581	717,094	764,289	714,413	744,776	759,905	787,034
要介護3	569,978	643,140	729,456	750,050	721,857	772,818	772,206	797,867
要介護4	552,924	592,344	693,671	792,267	766,795	792,918	817,643	872,804
要介護5	334,238	374,540	400,459	444,943	407,462	394,836	428,568	459,551
計	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,204,995	3,203,614	3,292,185	3,471,920
要介護2の占有率	22.3%	22.7%	21.8%	21.8%	22.3%	23.2%	23.1%	22.7%
要介護3の占有率	20.4%	21.1%	22.2%	21.4%	22.5%	24.1%	23.5%	23.0%
要介護4の占有率	19.8%	19.4%	21.1%	22.6%	23.9%	24.8%	24.8%	25.1%

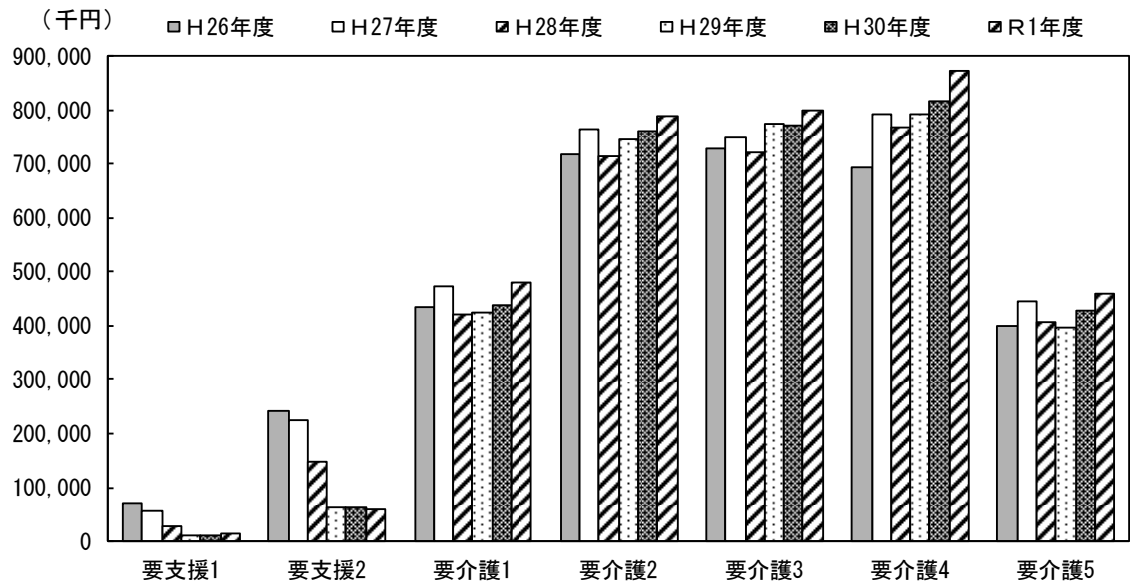
資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（令和元年度は月報の合計値）



### 通所系サービス給付費推移



### 通所系サービス給付費推移 (要介護度別)



### ③地域密着型サービスの内訳

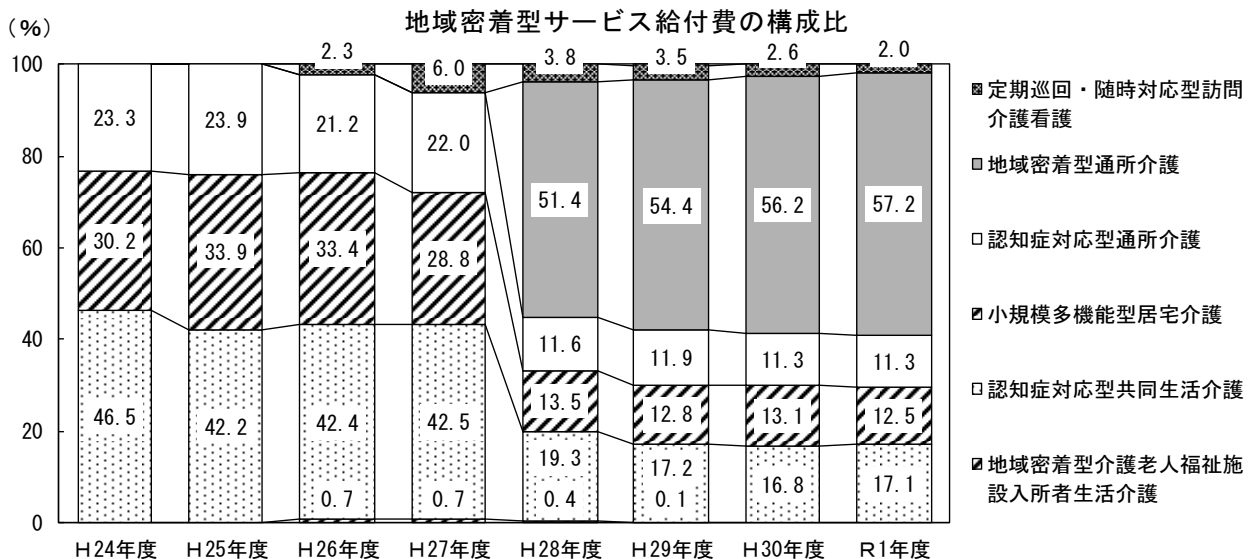
地域密着型サービスのサービス別給付費を見ると、平成 28 年度以降では認知症対応型共同生活介護(グループホーム)が1億7,000万円～1億8,000万円程度、小規模多機能型居宅介護が1億2,000万円～1億3,000万円程度、認知症対応型通所介護が1億円～1億2,000万円程度で推移しており、この3つが本市の地域密着型サービスの柱となってきました。

平成 26 年度からは定期巡回・随時対応型訪問介護看護も開始したほか、平成 28 年度は通所介護から一部事業所が移行した地域密着型通所介護が開始しており、令和元年度では、給付費が6億円となり、地域密着型サービスの5割半ばを占めることとなります。

地域密着型サービス給付費

単位：千円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	9,265	25,265	33,848	36,368	26,921	20,716
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型通所介護	0	0	0	0	459,387	557,907	581,983	603,447
認知症対応型通所介護	82,523	92,075	85,616	92,051	103,676	122,472	117,380	119,664
小規模多機能型居宅介護	107,301	130,314	135,159	120,467	120,114	130,998	135,660	131,949
認知症対応型共同生活介護	165,094	162,355	171,233	177,761	172,706	176,590	173,611	180,060
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	2,905	3,053	3,231	1,121	0	0
複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型サービス計	354,918	384,743	404,179	418,597	892,962	1,025,455	1,035,555	1,055,836
伸び率(対前年度)	—	8.40	5.05	3.57	113.32	14.84	0.98	1.96



#### ④施設サービスの内訳

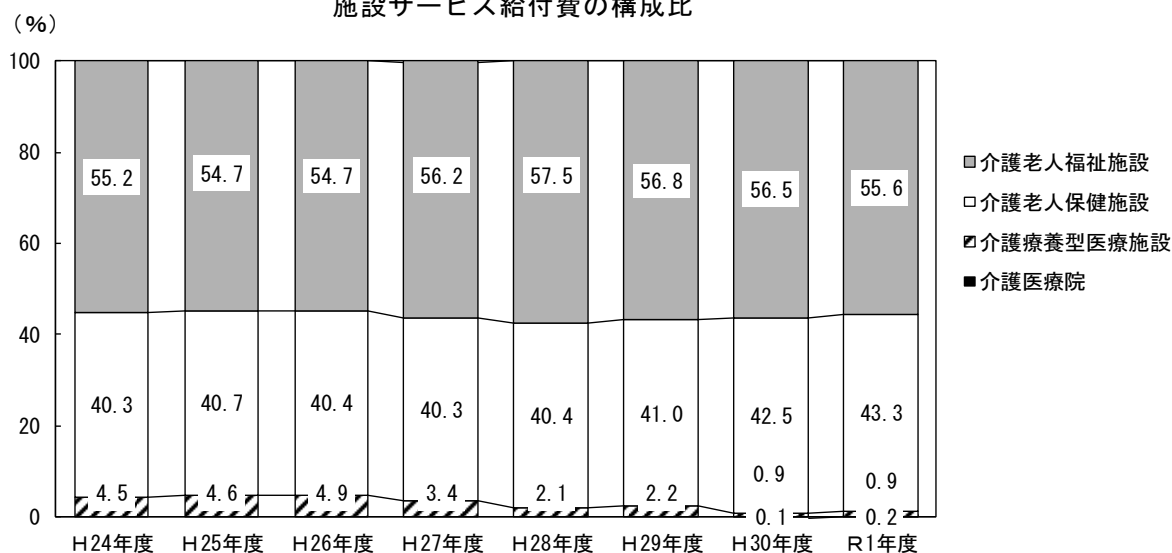
施設サービスのサービス別給付費を見ると、介護老人福祉施設は概ね 13 億円台となっています。介護老人保健施設は平成 28 年度以降、増加傾向にあり、令和元年度は 10 億円程度です。介護療養型医療施設は平成 24 年度の 1 億円程度が平成 30 年度では 2,000 万円台に減少しています。また、平成 30 年度より介護医療院が開始しています。

施設サービス給付費

単位：千円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
介護老人福祉施設	1,320,546	1,338,267	1,354,819	1,360,615	1,343,270	1,337,288	1,374,461	1,391,347
介護老人保健施設	965,556	996,326	998,869	976,134	943,993	963,762	1,032,751	1,084,577
介護療養型医療施設	107,830	113,713	120,929	82,551	49,338	51,965	22,844	22,072
介護医療院							2,149	4,623
施設サービス計	2,393,932	2,448,307	2,474,617	2,419,300	2,336,601	2,353,015	2,432,205	2,502,618
伸び率 (対前年度)	—	2.27	1.07	-2.24	-3.42	0.70	3.37	2.90

施設サービス給付費の構成比



## (8) 通所介護と地域密着型通所介護

### ① 給付費

通所介護と地域密着型通所介護を合わせた給付費(令和元年度)について見ると、通所介護は約 27 億円、地域密着型通所介護は 6 億円であり、合計約 33 億円に上ります。これは平成 30 年度までの通所介護の給付額(約 32 億円)を上回っており、第 7 期においても通所介護の給付費が着実に伸びていることがわかります。

また、要介護度別に給付費の伸びを見ると、要介護 1 から要介護 5 まで、令和元年度においても前年度を概ね上回っており、特に要介護 4 の伸びが大きくなっています。

通所介護の要支援 1・2 は、平成 28 年度より総合事業に移行することから、通所介護の利用は減少しています。

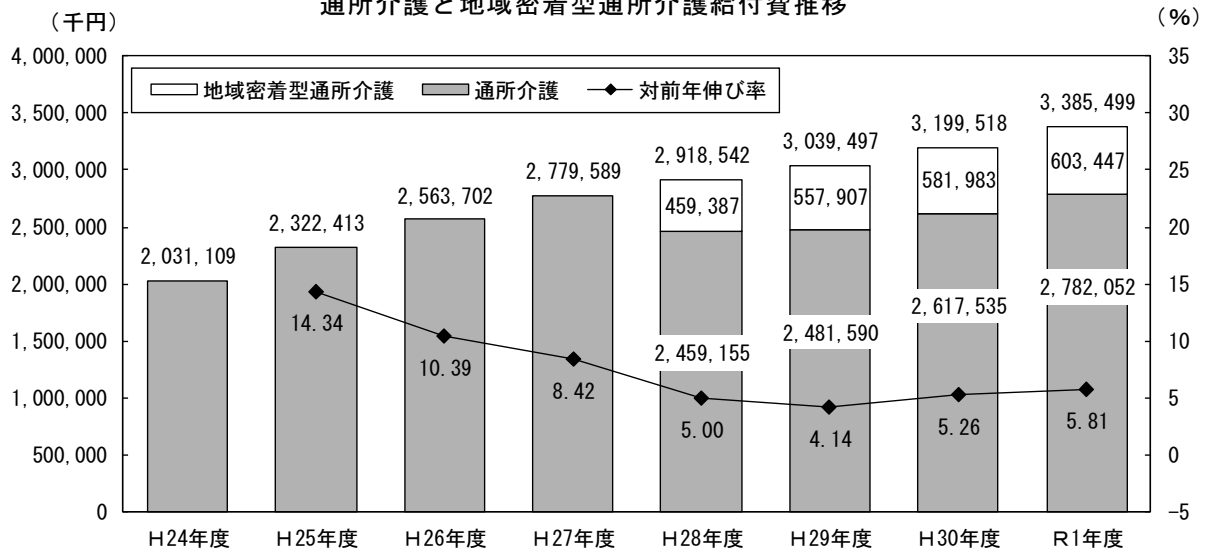
通所介護及び地域密着型通所介護の給付費

単位：千円

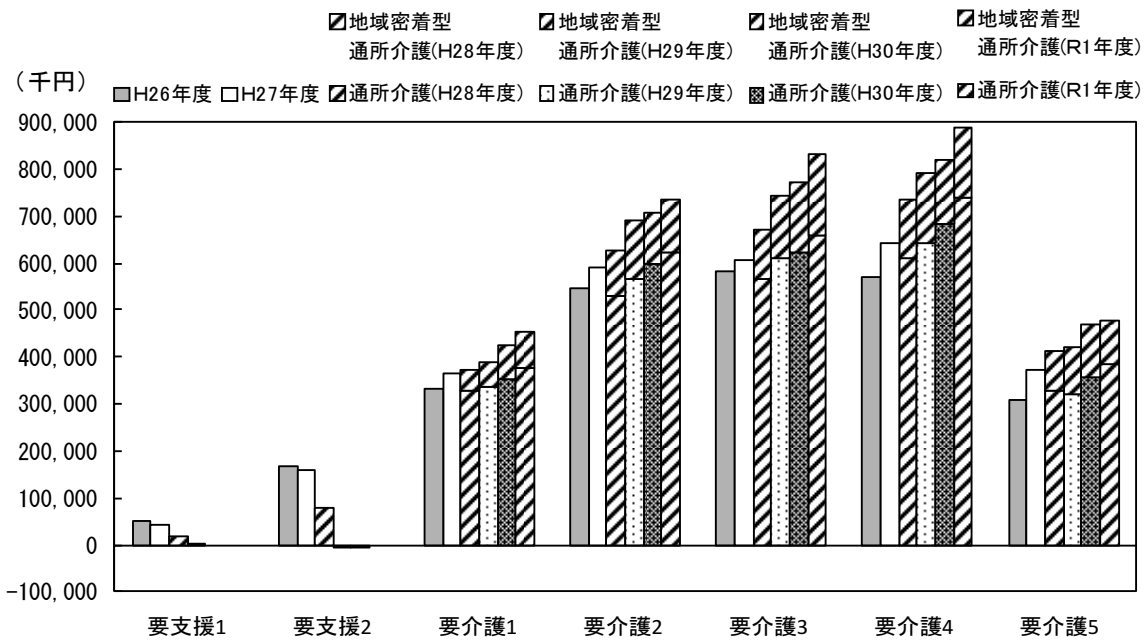
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
通所介護	要支援 1	38,932	47,491	52,943	43,790	18,772	19	0	0
	要支援 2	145,978	163,513	168,845	158,946	77,702	-145	-37	0
	要介護 1	297,649	327,891	332,424	365,481	329,364	337,886	353,567	376,399
	要介護 2	428,191	510,538	547,264	591,219	529,568	566,755	598,163	624,037
	要介護 3	418,421	499,268	583,571	606,662	566,366	611,409	622,806	657,730
	要介護 4	444,762	477,550	570,295	641,836	609,401	644,536	684,833	740,220
	要介護 5	257,176	296,161	308,361	371,655	327,981	321,130	358,204	383,667
	計	2,031,109	2,322,413	2,563,702	2,779,589	2,459,155	2,481,590	2,617,535	2,782,052
地域密着型通所介護	要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護 1	0	0	0	0	45,493	51,954	72,891	77,920
	要介護 2	0	0	0	0	97,467	123,513	111,187	111,134
	要介護 3	0	0	0	0	103,530	131,417	149,248	172,994
	要介護 4	0	0	0	0	126,449	148,770	136,049	146,559
	要介護 5	0	0	0	0	86,448	102,253	112,608	94,840
	計	0	0	0	0	459,387	557,907	581,983	603,447
合計	2,031,109	2,322,413	2,563,702	2,779,589	2,918,542	3,039,497	3,199,518	3,385,499	
前年伸び率	—	14.34	10.39	8.42	5.00	4.14	5.26	5.81	

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（令和元年度は月報の合計値）

### 通所介護と地域密着型通所介護給付費推移

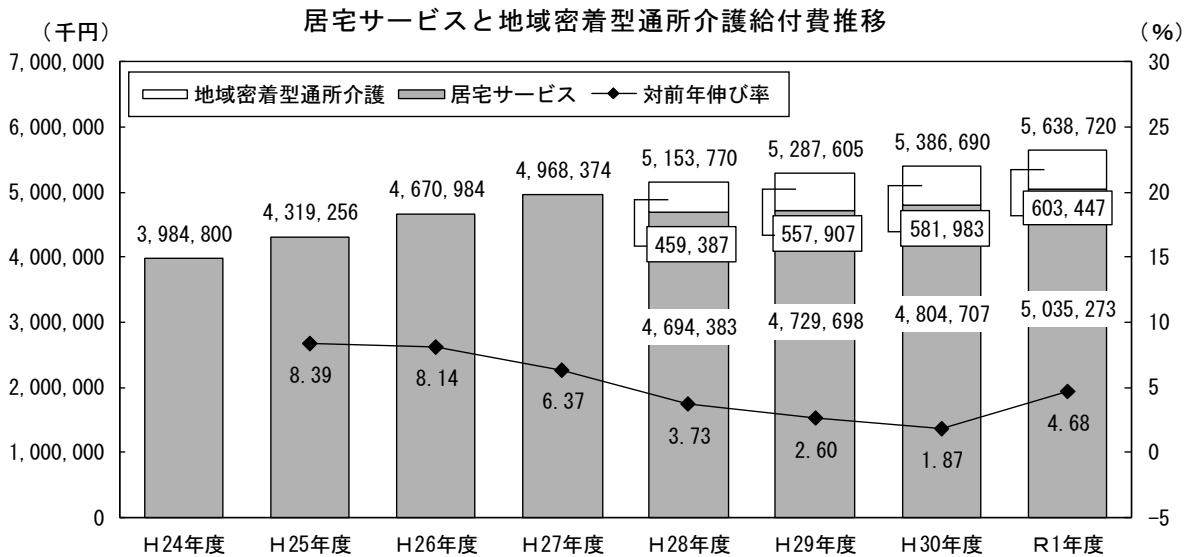


### 通所介護と地域密着型通所介護給付費推移 (要介護度別)



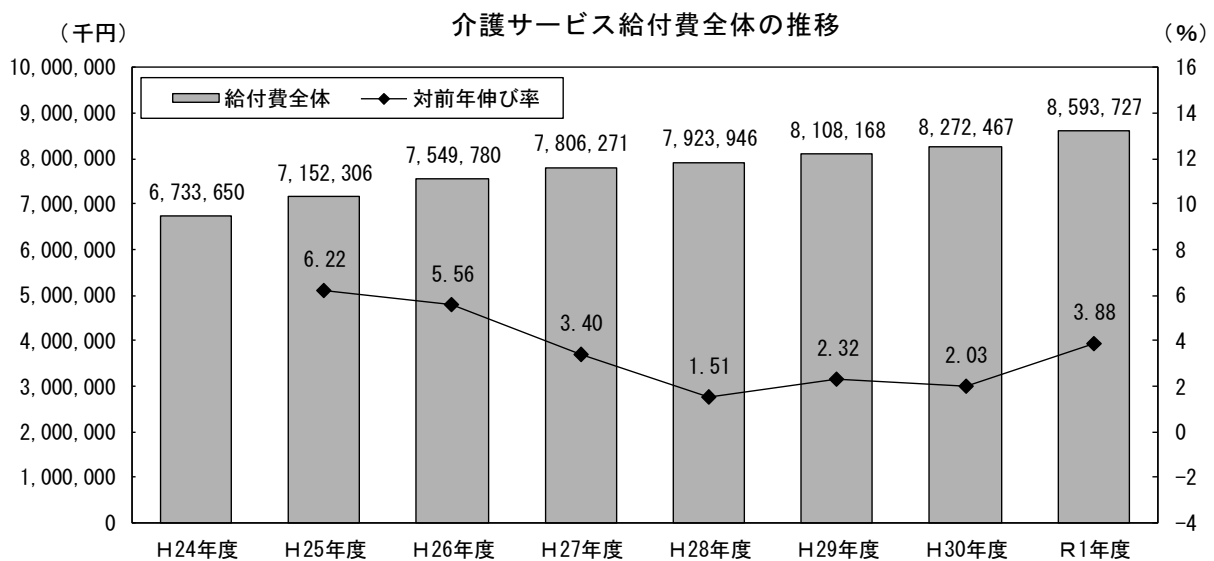
### (9) 居宅サービスと地域密着型通所介護給付費推移

居宅サービスの給付費は、平成 28 年度では前年度より減少していますが、これは通所介護事業所の一部が地域密着型通所介護に移行したことが一因となっています。実際、居宅サービスの給付費に地域密着型通所介護の給付費を合わせると平成 28 年度は 51 億 5,000 万円、令和元年度では、56 億円となり、平成 27 年度の居宅サービス給付費を上回っています



### (10) 介護サービス給付費全体の推移

居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービスを合わせた介護サービス全体の給付費は、令和元年度まで一貫して増加しています。令和元年度の給付費は 85 億円であり、前年度より約 3 億円増となっています。前年伸び率は緩やかに増加している傾向があり、平成 30 年度では 2.03%の伸び率でしたが、令和元年度は 3.88%になっています。



## 第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

### 第1節 調査の概要について

#### 1. 調査概要

##### (1) 調査の目的

本調査は、地域における高齢者の身体状況及び要介護状態になるリスク発生状況を把握するとともに、生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い、介護予防などの実態等を把握し、市の高齢者福祉計画・介護保険事業計画を見直す際の基礎資料として活用することを目的とします。

##### (2) 調査の対象者と配布件数

- ・本調査の対象者は、市内在住で在宅の65歳以上高齢者22,783人（※要介護1～5を除いた数）。
- ・市の介護保険被保険者台帳より4,000人を無作為に抽出して配布。

##### (3) 調査の方法

- ・郵送による配布・回収
- ・回収率向上のため、お礼状兼督促状の配布（1回）を実施。

##### (4) 調査期間

基準日：令和元年11月1日

調査期間：令和元年11月22日～令和元年12月18日

##### (5) 回収率

	配布数	有効回答数	回収率 (有効回答率)
回収率	4,000件	2,414件	60.4%

(参考：圏域別の回収状況)

圏域	回収数	構成比(A)	実際の構成比(B) (住基R1.10.1)	差 (A-B)
石川圏域	402	16.6%	14.5%	2.1
具志川北圏域	355	14.7%	16.0%	-1.3
具志川東圏域	307	12.7%	15.2%	-2.5
具志川西圏域	402	16.6%	15.0%	1.6
具志川南圏域	406	16.8%	19.4%	-2.6
与勝第1圏域	302	12.5%	11.4%	1.1
与勝第2圏域	241	10.0%	8.4%	1.6
合計	2,415	100.0%	100.0%	-

## (6) サンプル数(有効回答数)について

母集団への調査(全数調査)とサンプリング調査との誤差はサンプル数で変わります。サンプル数が少ないほど誤差は大きくなるため、精度を上げようとするればたくさんのサンプル数が必要となります。今回のサンプル数について、以下の計算式により調査の標本誤差を算出しました。(信頼度 95%の調査として設定)

算式

$$n \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{1.96}\right)^2 \left(\frac{N-1}{p(1-p)}\right) + 1}$$

※ n = 標本数またはサンプル数  
 ※ N = 母集団数 (今回の場合は調査対象の高齢者数)  
 ※ e = 標本誤差 (標本値と母集団値との差)  
 ※ p = 回答比率 (通常 50%として設定)  
 ※ 1.96 は信頼度 95%とした場合の定数。

サンプル数 (標本数)	標本誤差
378 件	±5.0%
585 件	±4.0%
1,019 件	±3.0%
2,172 件	±2.0%
2,414 件	±1.89%

計算によると、本調査の母集団(22,783 人)に対するサンプル数(2,414 人)の標本誤差は±1.89%となります。一般的には標本誤差±3～4%の範囲内が許容であり、本調査結果は母集団の声を反映していると言えます。

## (7) 調査項目

- ・国から示された調査票(必須項目+オプション項目)及び市の独自項目で実施



【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票：必須項目】

No.	項目	設問内容
問1	家族の生活状況について	基本情報
問2	からだを動かすことについて	運動機能の低下、転倒リスク、閉じこもり傾向を把握
問3	食べることについて	口腔機能の低下、低栄養の傾向を把握
問4	毎日の生活について	認知機能の低下、IADLの低下を把握
問5	地域での活動について	ボランティア等への参加状況、今後の参加意向
問6	たすけあいについて	うつ傾向を把握
問7	健康について	知的能動性、社会的役割、社会参加の状況等を把握

【オプション項目】

No.	項目	設問内容
問1	家族の生活状況について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護・介助が必要になった原因</li> <li>・主な介護・介助者の状況</li> <li>・住まいの状況</li> </ul>
問2	からだを動かすことについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出を控えているか その理由</li> <li>・外出の際の交通手段</li> </ul>
問3	食べることについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むせることがあるか</li> <li>・口の渇きが気になるか</li> <li>・歯みがきの状況</li> <li>・噛み合わせの状況</li> <li>・入れ歯の手入れ状況</li> <li>・体重の減少</li> </ul>
問4	毎日の生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話番号を調べ電話をかけられるか</li> <li>・今日の日付がわからないときがあるか</li> <li>・年金などの書類が書けるか</li> </ul>
問5	地域での活動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブ、町内会、自治会</li> <li>・収入のある仕事の状況</li> </ul>
問6	たすけあいについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や有人以上で相談する相手は？</li> <li>・友人、知人と会う頻度</li> <li>・この1ヶ月で何人の友人に会ったか</li> <li>・よく合う友人と、知人との関係</li> </ul>
問7	健康について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲酒の頻度</li> </ul>

【市の独自項目】

No.	項目	設問内容の意図
問4	毎日の生活状況について	・仕舞い忘れについて(日機能に関する設問として)
問8	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援の要望</li> <li>・健康づくりや介護予防の支援の要望</li> </ul>

## 2. 集計について

- 各設問に示している「回答者実数」は、全員に回答してもらう設問では有効回答数と同数であるが、回答者を限定している設問では、その条件に合う人のみが対象となるため、有効回答数を下回っている。(例：健診を受けている人だけ回答するなど)
- 集計では、小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合を合計しても100.0%にならない場合がある。
- 複数回答の設問については、回答数の合計が回答者実数を上回ることがある。このため、割合の合計が100%を超える場合がある。
- 集計によっては、回答者実数が10人未満と非常に少ない場合もあり、このような集計は参考程度として見る必要がある。

### 3. 各種リスクの把握について

#### (1) リスク判定

本調査は、要介護状態になるリスク(各種リスク)の発生状況を把握するとともに、各種リスクに影響を与える日常生活(社会参加状況)の状況を把握し、各種リスク者等の特徴(性別、年齢別、地域別、世帯別など)から地域診断を行うことを目的としています。

このため、各種リスクの把握においては、国から示された以下の項目等にもとづいて、リスク把握項目を集計し、身体機能等のリスクを有しているかどうか判定を行い分析しています。

#### 【各種リスク把握項目】

リスク項目	関連設問	備 考
①運動器	問 2	今回国から示されたリスク判定方法を使用
②転倒	問 2	
③閉じこもり	問 2	
④栄養(低栄養)	問 3	
⑤口腔機能	問 3	
⑥認知機能	問 4	
⑦ I A D L (6期条件を使用)	問 4	今回は国からリスク判定を示されていないが、これらのリスク者把握が調査項目から可能であるため、第6期に示された条件で判定を行った
⑧知的能動性(低下者) (6期条件を使用)	問 4	
⑨社会的役割(低下者) (6期条件を使用)	問 4	
⑩うつ	問 7	今回国から示されたリスク判定方法を使用
⑪二次予防事業対象者 (6期条件を使用)	問 1	今回は国からリスク判定を示されていないが、一般高齢者と要介護となるおそれのある人を比較するため、第6期に示された条件で判定を行った

## (2) 各種リスク判定方法

各種リスク判定の際に使用する調査項目と判定方法を示しております。

### ①運動器の機能低下リスク

設問番号	設問内容
2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
2(3)	15分位続けて歩いていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
2(4)	過去1年間に転んだことがありますか 1. 何度もある    2. 1度ある    3. ない
2(5)	転倒に対する不安は大きいですか 1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない
この設問で3問以上、該当する選択肢(上の表の□の選択肢)が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者(リスク者)になります	

### ②転倒リスク

設問番号	設問内容
2(4)	過去1年間に転んだことがありますか 1. 何度もある    2. 1度ある    3. ない
2(4)で「1. 何度もある」「2. 1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者になります	

### ③閉じこもりリスク

設問番号	設問内容
2(6)	週に1回以上は外出していますか <input type="checkbox"/> 1. ほとんど外出しない <input type="checkbox"/> 2. 週1回 <input type="checkbox"/> 3. 週2~4回 <input type="checkbox"/> 4. 週5回以上
2(6)で「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者(リスク者)になります。	

### ④栄養(低栄養)リスク

設問番号	設問内容
3(1)	身長、体重 身長 (      ) c m      BMI 18.5 以下 体重 (      ) k g
3(8) オプション	6カ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか <input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
身長・体重から算出されるBMIが18.5 以下 の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。低栄養状態を確認する場合は、オプション項目にある設問のうち、体重の減少傾向を把握する「6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか」も併せて確認し、2設問ともに該当した場合は、低栄養状態にある高齢者(リスク者)になります。	

### ⑤口腔機能リスク

設問番号	設問内容
3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか <input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
3(3) オプション	お茶や汁物等でむせることがありますか <input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
3(4) オプション	口の渇きが気になりますか <input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
3(2)で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。 口腔機能の低下を確認する場合は、オプション項目にある設問のうち、嚥下機能の低下を把握する「お茶や汁物等でむせることがありますか」、肺炎発症リスクを把握する「口の渇きが気になりますか」も併せて確認し、3設問のうち2設問に該当した場合は、口腔機能の低下している高齢者(リスク者)になります。	

### ⑥ 認知機能リスク

設問番号	設問内容
4(1)	物忘れが多いと感じますか。 1. はい                      2. いいえ
4(1)で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者(リスク者)になります。	

### ⑦ IADL低下リスク

設問番号	設問内容
4(5)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可） 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
4(6)	自分で食品・日用品の買い物をしていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
4(7)	自分で食事の用意をしていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
4(8)	自分で請求書の支払いをしていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
4(9)	自分で預貯金の出し入れをしていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
上記の設問で「1. できるし、している」「2. できるけどしていない」の回答を1点とし、配点合計が、5点：高い    4点：やや低い    0～3点：低い（リスク者）	

⑧知的能動性低下リスク

設問番号	設問内容
4(10) オプション	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか 1. はい 2. いいえ
4(11) オプション	新聞を読んでいますか 1. はい 2. いいえ
4(12) オプション	本や雑誌を読んでいますか 1. はい 2. いいえ
4(13) オプション	健康についての記事や番組に関心がありますか 1. はい 2. いいえ
上記の設問で「1. はい」の回答を1点とし、 配点合計が、4点：高い 3点：やや低い 0～2点：低い（リスク者）	

⑨社会的役割低下リスク

設問番号	設問内容
4(14) オプション	友人の家を訪ねていますか 1. はい 2. いいえ
4(15) オプション	家族や友人の相談にのっていますか 1. はい 2. いいえ
4(16) オプション	病人を見舞うことができますか 1. はい 2. いいえ
4(17) オプション	若い人に自分から話しかけることがありますか 1. はい 2. いいえ
上記の設問で「1. はい」の回答を1点とし、 配点合計が、4点：高い 3点：やや低い 0～2点：低い（リスク者）	

⑩うつリスク

設問番号	設問内容
7(6)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか 1. はい 2. いいえ
7(7)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか 1. はい 2. いいえ
7(6)、7(7)でいずれか1つでも「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者(リスク者)になります	

## 第2節 調査結果

### 1. 回答者の基本属性等

#### (1) 性別、年齢

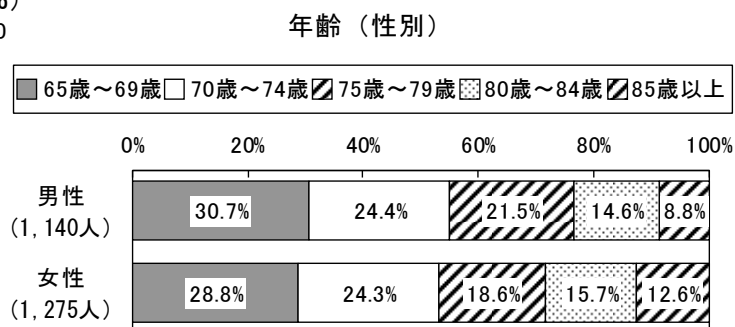
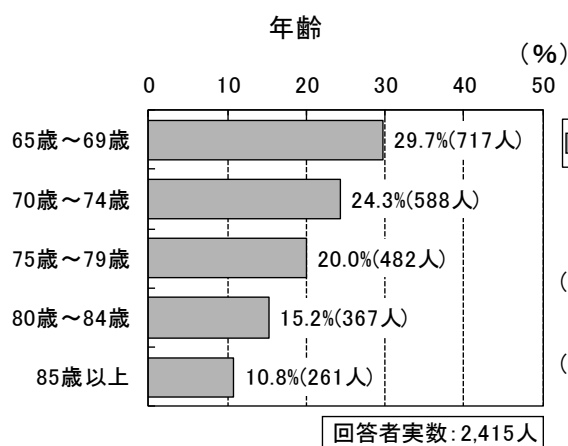
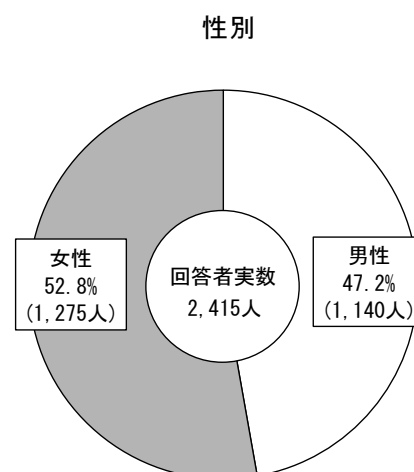
調査対象者の性別は、「男性」が47.2%、「女性」が52.8%であり、女性の方が多くなっています。

年齢は、「65歳～69歳」が29.7%、「70歳～74歳」が24.3%であり、これらを合わせた前期高齢者（65歳以上75歳未満）の占める割合が54.0%と、半数を超えています。また、前期高齢者は男性の方が多く、後期高齢者は女性の方で多くなっています。

年齢について圏域別に見ると、「具志川西圏域」と「与勝第2圏域」では後期高齢者が多く、それ以外の圏域では前期高齢者が多くなっています。

年齢（性別、圏域別）

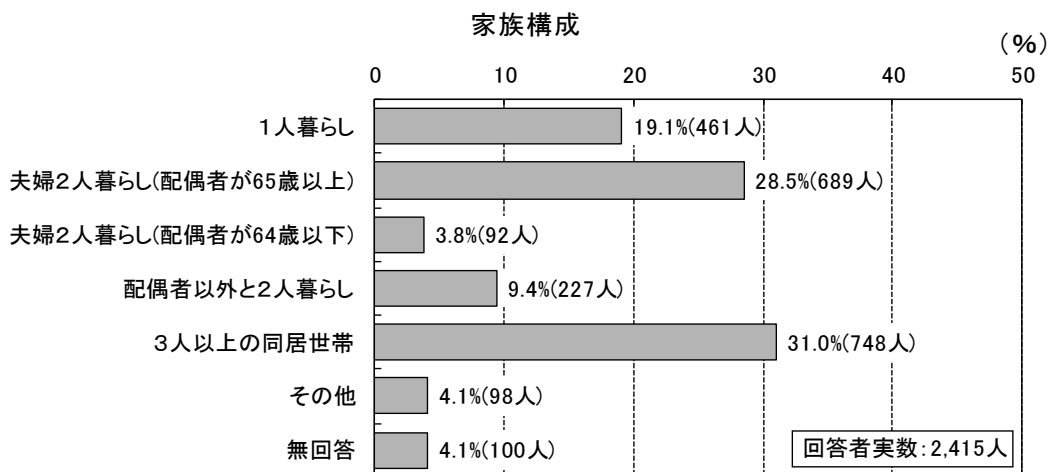
	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全体	100.0% (2,415人)	54.0% (1,305人)	46.0% (1,110人)
男性	47.2% (1,140人)	55.1% (628人)	44.9% (512人)
女性	52.8% (1,275人)	53.1% (677人)	46.9% (598人)
石川圏域	16.6% (402人)	54.0% (217人)	46.0% (185人)
具志川北圏域	14.7% (355人)	55.8% (198人)	44.2% (157人)
具志川東圏域	12.7% (307人)	58.0% (178人)	42.0% (129人)
具志川西圏域	16.6% (402人)	48.3% (194人)	51.7% (208人)
具志川南圏域	16.8% (406人)	56.2% (228人)	43.8% (178人)
与勝第1圏域	12.5% (302人)	57.0% (172人)	43.0% (130人)
与勝第2圏域	10.0% (241人)	49.0% (118人)	51.0% (123人)





## (2) 家族構成

家族構成を見ると、「3人以上の同居世帯」が31.0%で最も高く、また、「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」が28.5%でこれについて高くなっています。「一人暮らし」は19.1%となっています。

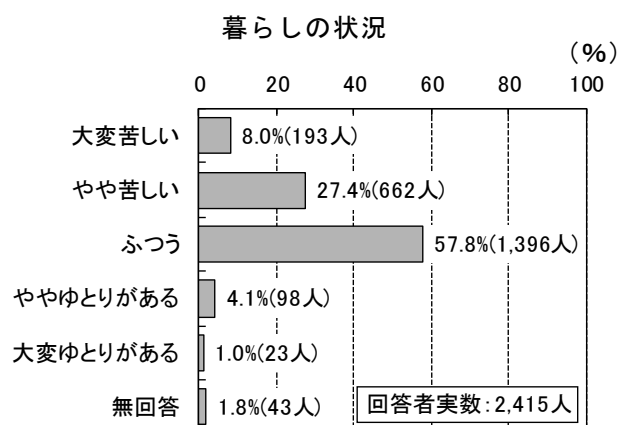


## (3) 暮らしの状況（経済的に見て）

経済的な面での暮らしの状況を尋ねました。最も高いのは「ふつう」の57.8%であり、約6割近くは普通であると回答しています。

性別に見ると、回答の構成比に男女差はあまりありませんが、「普通」という回答は女性の方で若干高く、また生活が苦しいという回答は男性の方で僅かに高くなっています。

年齢別では、「ふつう」は80歳以上で他の年代よりやや高くなっています。また、生活が苦しいという回答は、80歳以上の年代でやや低くなる傾向が見られます。

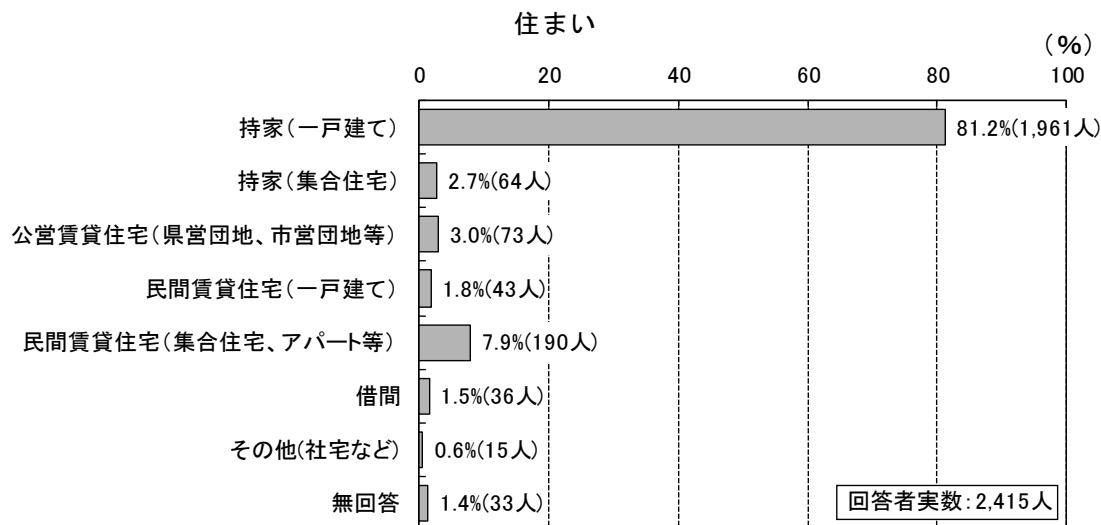


### 暮らしの状況（性別、年齢別）

	回答者実数	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答
男性	1,140人	8.5% (97人)	28.3% (323人)	56.6% (645人)	3.9% (45人)	1.1% (12人)	1.6% (18人)
女性	1,275人	7.5% (96人)	26.6% (339人)	58.9% (751人)	4.2% (53人)	0.9% (11人)	2.0% (25人)
65歳～69歳	717人	10.3% (74人)	26.1% (187人)	56.6% (406人)	4.5% (32人)	1.0% (7人)	1.5% (11人)
70歳～74歳	588人	6.6% (39人)	30.1% (177人)	55.6% (327人)	4.9% (29人)	1.2% (7人)	1.5% (9人)
75歳～79歳	482人	7.5% (36人)	31.7% (153人)	55.8% (269人)	3.3% (16人)	0.2% (1人)	1.5% (7人)
80歳～84歳	367人	8.7% (32人)	24.0% (88人)	61.0% (224人)	3.3% (12人)	0.5% (2人)	2.5% (9人)
85歳以上	261人	4.6% (12人)	21.8% (57人)	65.1% (170人)	3.4% (9人)	2.3% (6人)	2.7% (7人)

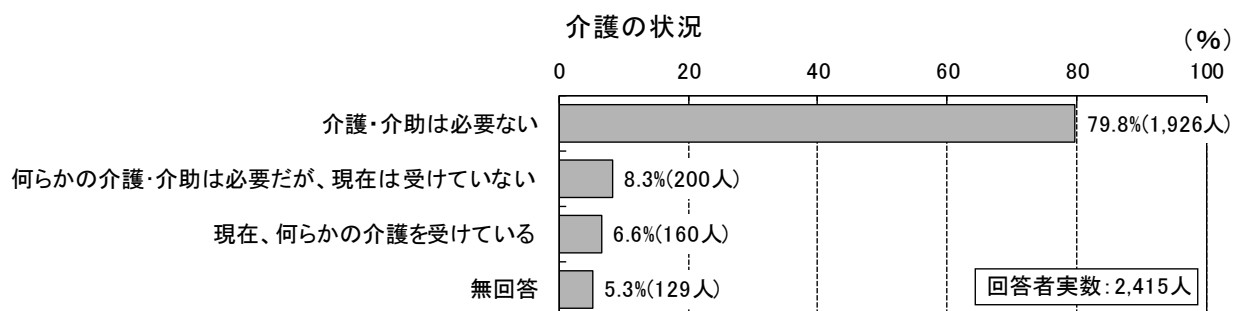
#### (4) 住まい

住まいについては、「持家(一戸建て)」が81.2%で圧倒的に高くなっています。



#### (5) 介護の状況

介護について見ると、「介護・介助は必要ない」が79.8%となっています。本調査の対象者が要介護1～5を除いた在宅の高齢者(一般高齢者と要支援者)であることから、介護を必要とする割合は低いものと考えられます。比較的元気な高齢者への調査ではありますが、約15%は介護や介助を必要としており、調査票回収者の中で要支援者は117人であり、介護認定を受けていないが介護を必要としている人も少し見られることがわかります。また、介護が必要であったり介護を受けている割合は、年齢が上がるとともに上昇する傾向となっています。



#### 介護の状況 (年齢別)

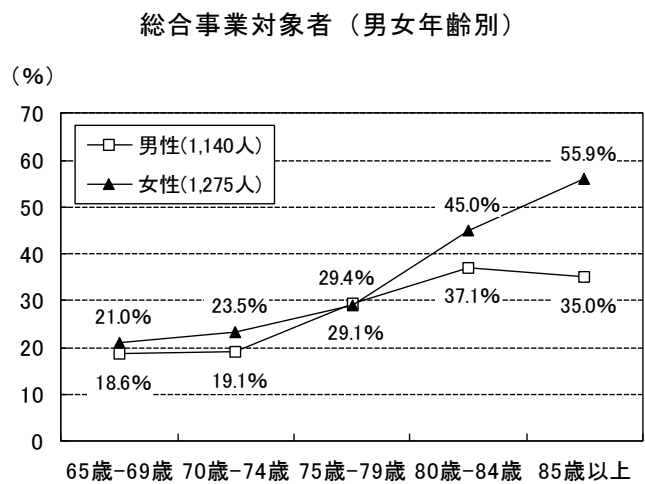
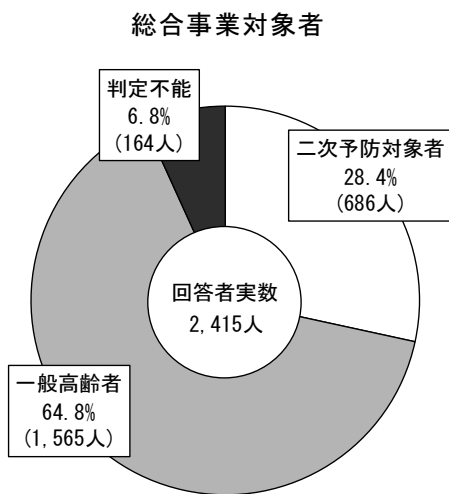
	回答者実数	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている	無回答
65歳～69歳	717人	90.8% (651人)	3.9% (28人)	2.5% (18人)	2.8% (20人)
70歳～74歳	588人	85.5% (503人)	6.3% (37人)	2.4% (14人)	5.8% (34人)
75歳～79歳	482人	80.3% (387人)	7.5% (36人)	6.0% (29人)	6.2% (30人)
80歳～84歳	367人	66.8% (245人)	14.7% (54人)	11.7% (43人)	6.8% (25人)
85歳以上	261人	53.6% (140人)	17.2% (45人)	21.5% (56人)	7.7% (20人)

## (6) 総合事業対象者

第7期計画策定の際には、調査結果より身体機能低下者を集計し、これを総合事業対象者として要介護状態に陥るおそれのある人の把握を行いました。本調査においてもこの対象を把握し、集計しています。(新しい総合事業の対象者にも概ね相当すると考えられるため)

総合事業対象者について見ると、対象となる人は28.4%で約3割となっています。

性別年齢別に見ると、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともにこの割合が上昇しており、75歳～79歳では男女ともに約3割、80歳以上になると女性では4割半ばを超えています。



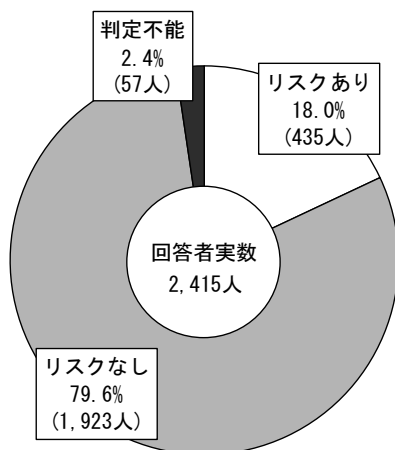
## 2. 体を動かすことについて

### (1) 運動器の機能低下者（リスク者）

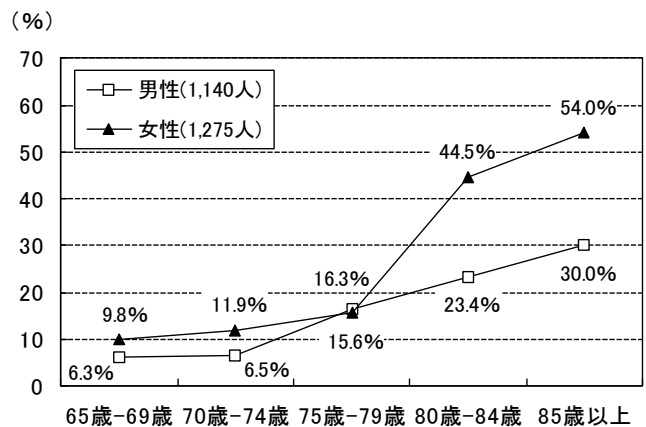
運動器のリスク者は18.0%で2割弱となっています。

性別年齢別に見ると、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともにこの割合が上昇しています。男性では80歳～84歳で2割余り、85歳以上では3割を占め、女性では75歳～79歳で1割半ば、80歳～84歳では4割半ば、85歳以上では5割半ばを占めています。

運動器の機能低下者



運動器の機能リスク（男女年齢別）

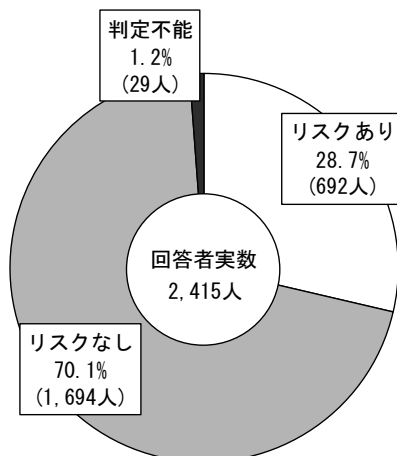


### (2) 転倒リスク者

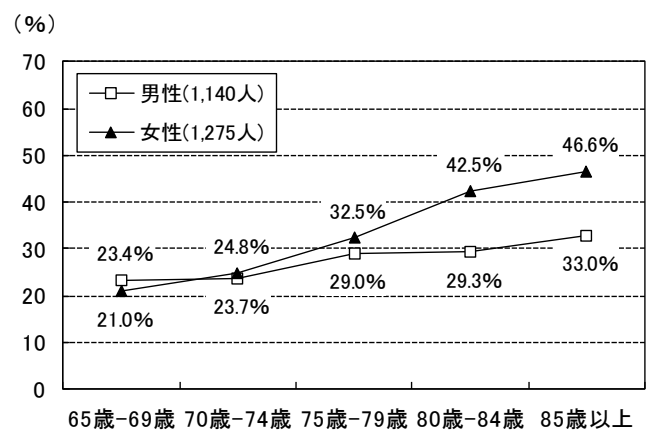
転倒のリスク者は28.7%で約3割となっています。

性別年齢別に見ると、男性に比べて女性の方がやや高く、また年齢が上がるとともにこの割合が上昇しています。男性では75歳～79歳で3割、85歳以上では3割余りとなります。女性でも75歳～80歳までは概ね男性と同様の推移をしていますが、85歳以上では4割半ばを占めています。

転倒リスク者



転倒リスク者（男女年齢別）



転倒に対する不安について、転倒リスクの有無別に見ると、「リスクあり」の方で不安を感じているものが多く、特に「とても不安である」は「リスクあり」で 32.4%、「リスクなし」で 10.6%とその差が大きくなっています。

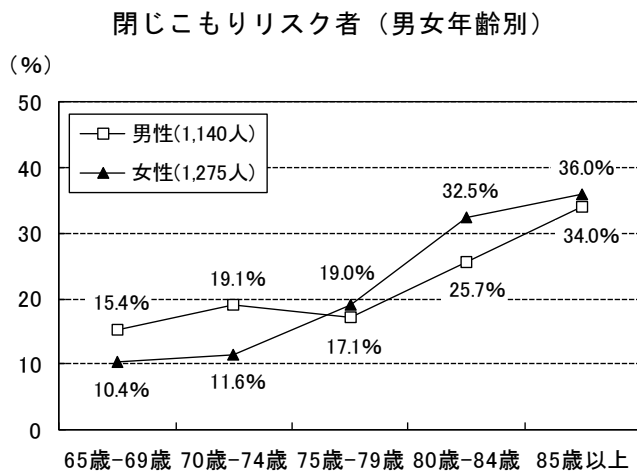
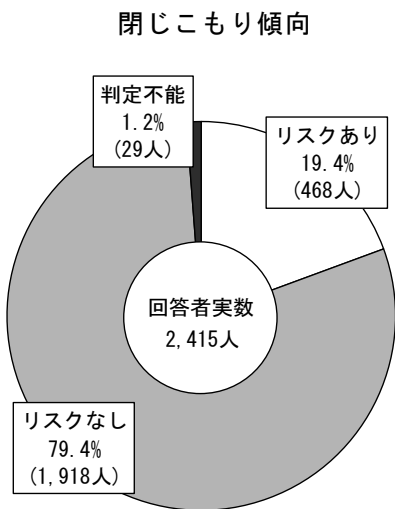
転倒に対する不安はあるか（転倒リスク別）

	回答者実数	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
リスクあり	692 人	32.4% (224 人)	46.5% (322 人)	14.2% ( 98 人)	6.6% ( 46 人)	0.3% ( 2 人)
リスクなし	1,694 人	10.6% (179 人)	31.1% (526 人)	25.8% (437 人)	31.1% (526 人)	1.5% ( 26 人)

(3) 閉じこもり傾向（リスク者）

閉じこもりのリスク者は 19.4%で約 2 割となっています。

性別年齢別に見ると、70 歳～74 歳では男性が約 2 割、女性が約 1 割となっており、74 歳までは女性の方が高い傾向となっています。年齢が上がるとともにリスク者の割合は上昇しており、80 歳～84 歳以上では男性が 2 割半ば、女性が 3 割余りとなり、85 歳以上では、男女ともに 3 割半ばとなっています。



外出回数の減少について、閉じこもりリスクの有無別に見ると、「リスクあり」の方で減少しているという声が多く、「とても減っている」と「減っている」を合わせた割合は、「リスクあり」で 65.9%、「リスクなし」で 17.5%となっています。

昨年と比べて外出の回数が減っているか（閉じこもり傾向別）

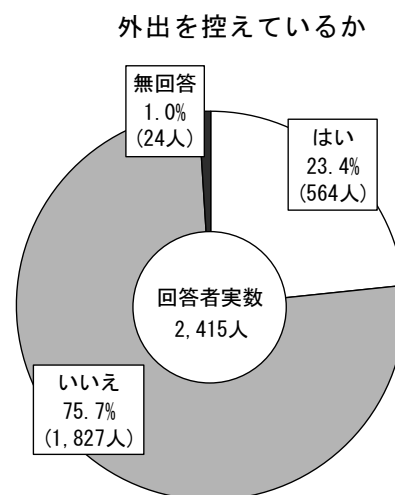
	回答者実数	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
リスクあり	468 人	21.2% ( 99 人)	44.7% (209 人)	16.7% ( 78 人)	14.5% ( 68 人)	3.0% ( 14 人)
リスクなし	1,918 人	1.5% ( 29 人)	16.0% (307 人)	30.9% (592 人)	51.1% (981 人)	0.5% ( 9 人)

#### (4) 外出の状況

##### ①外出を控えているか

外出を控えているか尋ねたところ、「はい」が23.4%、「いいえ」が75.7%となっています。

年齢別に見ると、外出を控えている人は年齢が上がるるとともに高くなっており、75歳未満では2割以下ですが、75歳～79歳で2割余り、80歳～84歳では3割余り、85歳以上では5割近くに昇ります。

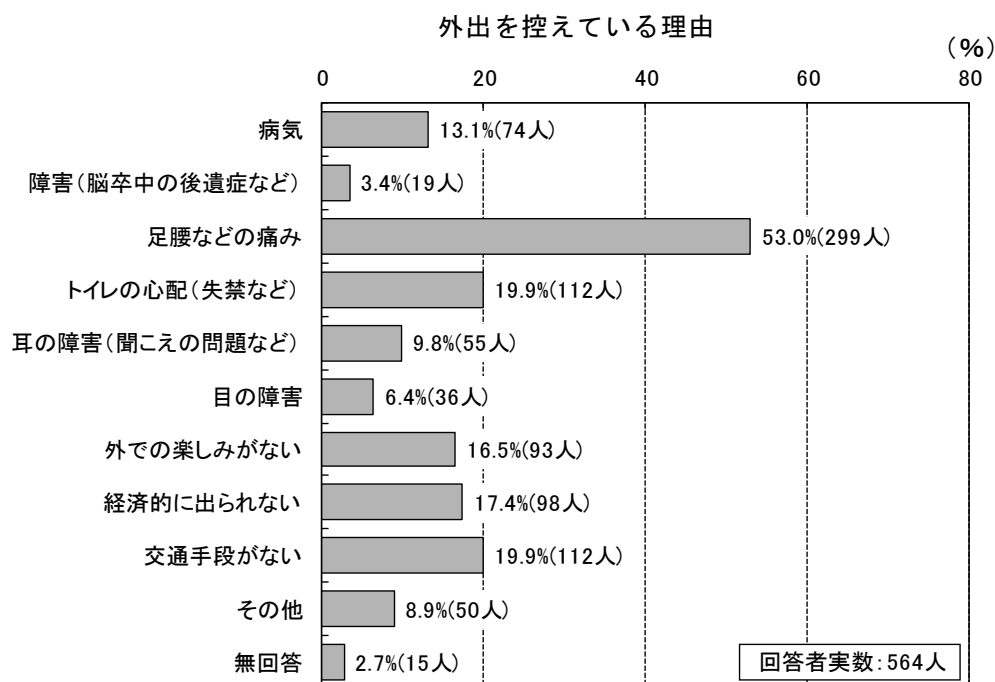


##### 外出を控えているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	717人	15.1% (108人)	84.1% (603人)	0.8% (6人)
70歳～74歳	588人	16.5% (97人)	82.0% (482人)	1.5% (9人)
75歳～79歳	482人	22.4% (108人)	76.8% (370人)	0.8% (4人)
80歳～84歳	367人	33.8% (124人)	65.7% (241人)	0.5% (2人)
85歳以上	261人	48.7% (127人)	50.2% (131人)	1.1% (3人)

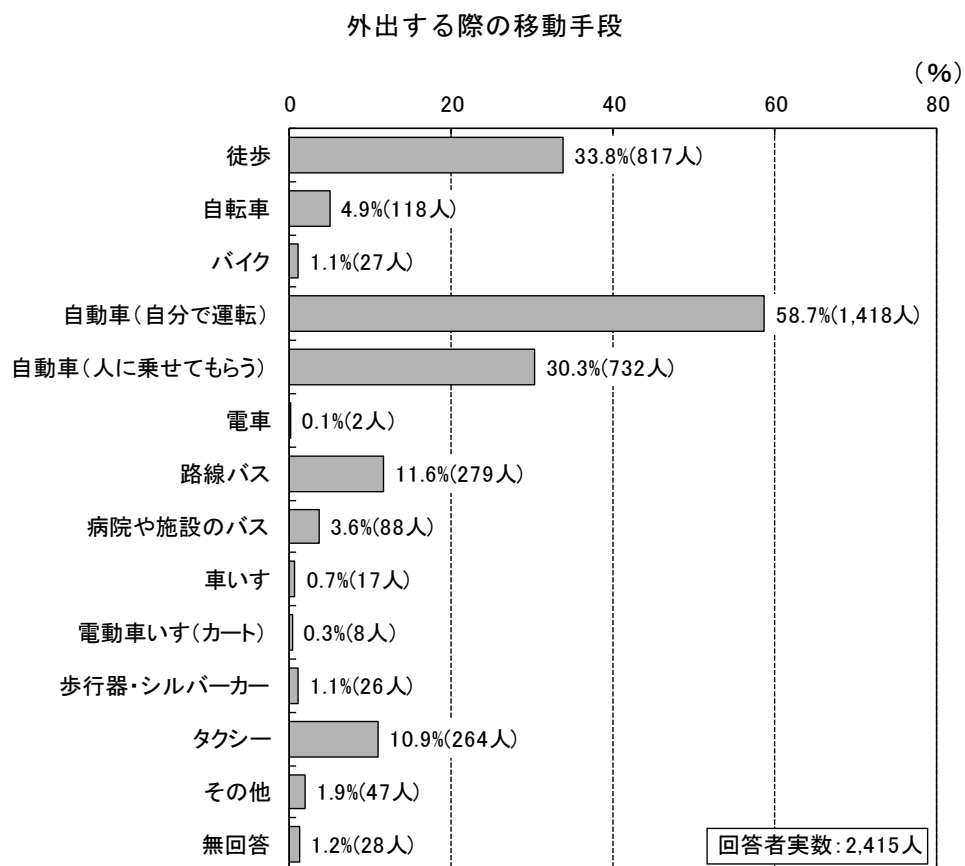
##### ②外出を控えている理由

外出を控えている理由を見ると、「足腰などの痛み」が53.0%で圧倒的に高くなっています。また、「交通手段がない」と「トイレの心配」がいずれも19.9%で約2割となっています。



### ③外出する際の移動手段

外出する際の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が 58.7%で最も高く、6割弱を占めています。また、「徒歩」(33.8%)、と「自動車(乗せてもらう)」(30.3%)がそれぞれ約3割で比較的高く、その他の移動手段は15%未満となっています。



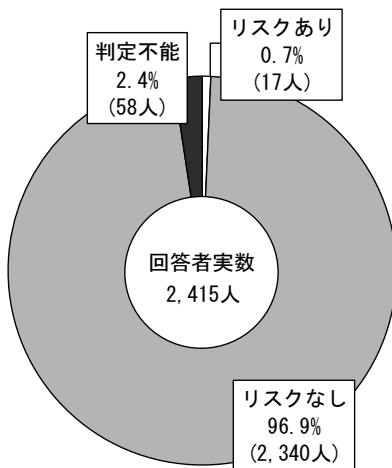
### 3. 食べることについて

#### (1) 低栄養の傾向（リスク者）

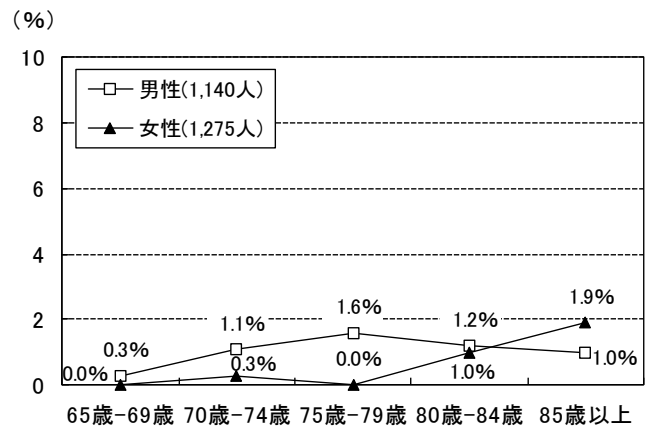
低栄養のリスク者は0.7%で非常に低くなっています。

性別年齢別に見ると、男女及び年齢による大きな差は見られませんが、僅かながら、84歳までは女性より男性の方が高く、85歳以降では女性の方が高くなっています。

低栄養の傾向



低栄養のリスク者（男女年齢別）



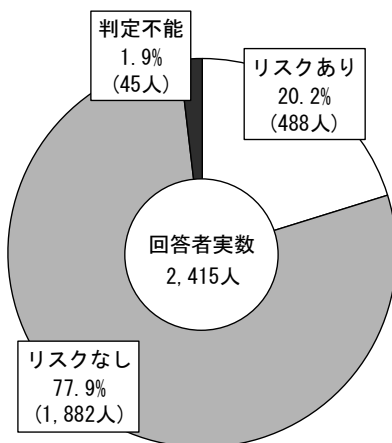
#### (2) 口腔機能低下

##### ① 口腔機能の低下者（リスク者）

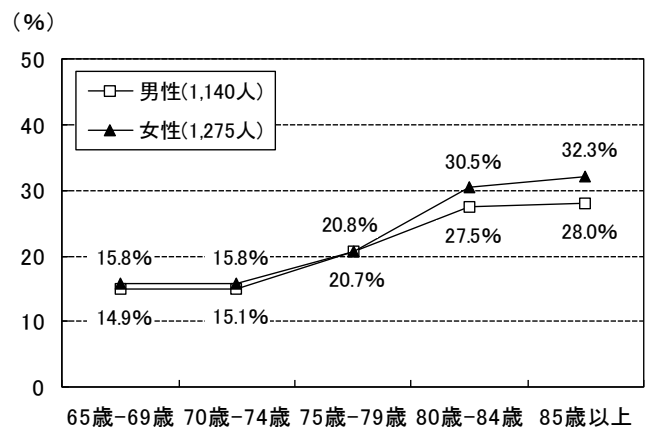
口腔機能のリスク者は20.2%で2割となっています。

性別年齢別に見ると、男女差はあまりなく、また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しており、75歳～79歳では2割程度、85歳以上では約3割を占めています。

口腔機能の低下



口腔機能のリスク者（男女年齢別）





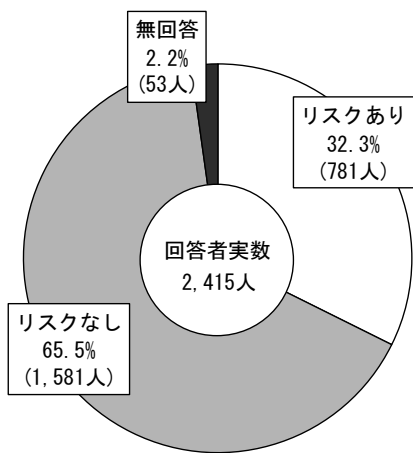
## ②咀嚼機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「半年前より固いものが食べにくくなったか」を尋ね、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

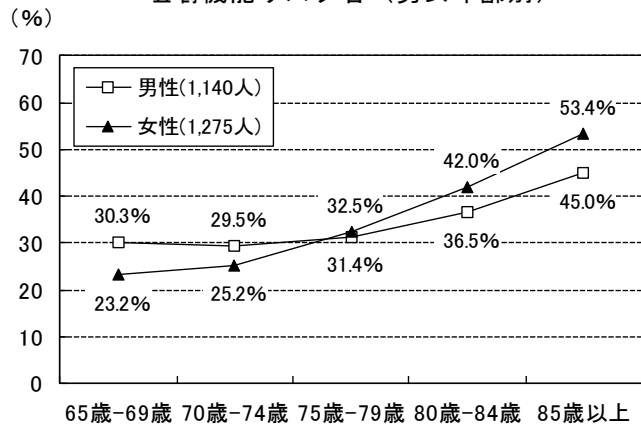
咀嚼機能のリスク者は32.3%で3割余りとなっています。

性別年齢別に見ると、65歳～74歳までは男性の方でリスク者が高く、75歳以上では女性の方がやや高くなっています。また年齢が上がるともにリスク者の割合が上昇しており、男性では65歳～69歳の約3割が85歳以上では4割半ばとなっています。女性では、65歳～69歳の約2割余りが85歳以上では5割余りへと伸びています。

咀嚼機能の低下者



咀嚼機能リスク者（男女年齢別）



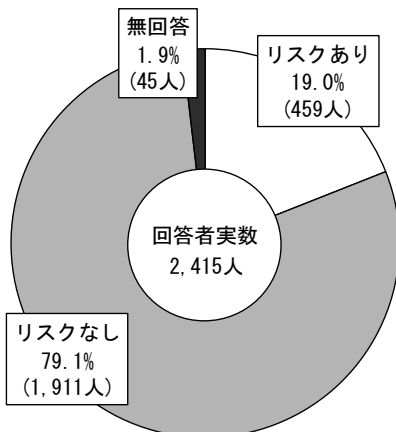
## ③嚥下機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「お茶等でむせることがあるか」を尋ね、嚥下機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

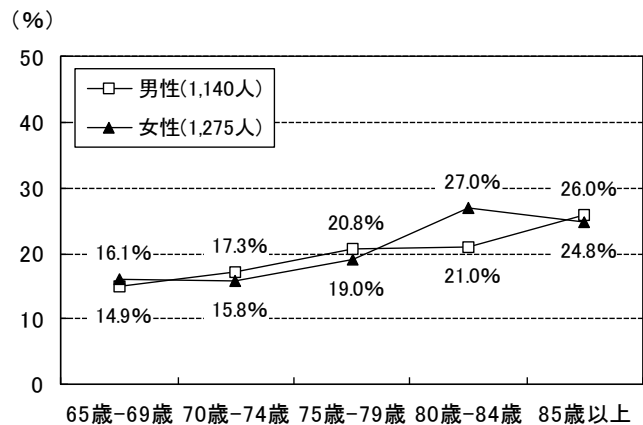
嚥下機能のリスク者は19.0%で2割近くとなっています。

性別年齢別に見ると、男女及び年齢による大きな差は見られませんが、80歳～84歳では、女性の方が男性よりややリスク者割合が高くなっています。

嚥下機能の低下者



嚥下機能のリスク者（男女年齢別）



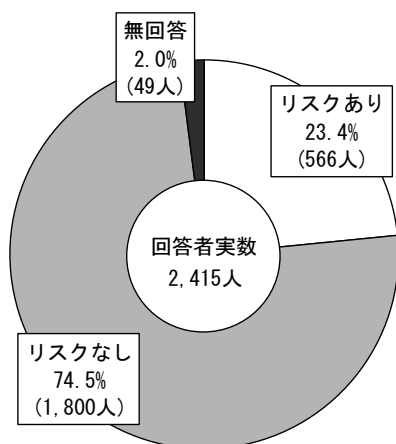
#### ④肺炎発症リスク者

口腔機能のうち、「口の渇きが気になるか」を尋ね、肺炎発症リスクが疑われる高齢者を把握しました。

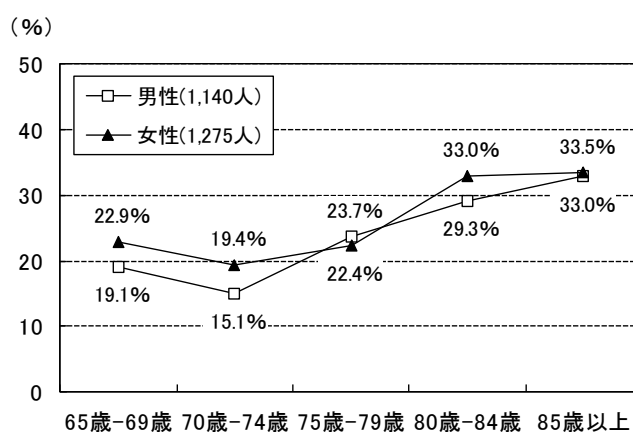
肺炎発症リスク者は23.4%で2割余りとなっています。

性別年齢別に見ると、65歳～74歳までは女性の方が男性より高くなっています。70歳以降は男女一緒に年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向にあります。85歳以上で男女ともに約33%となっています。

肺炎発症のリスク



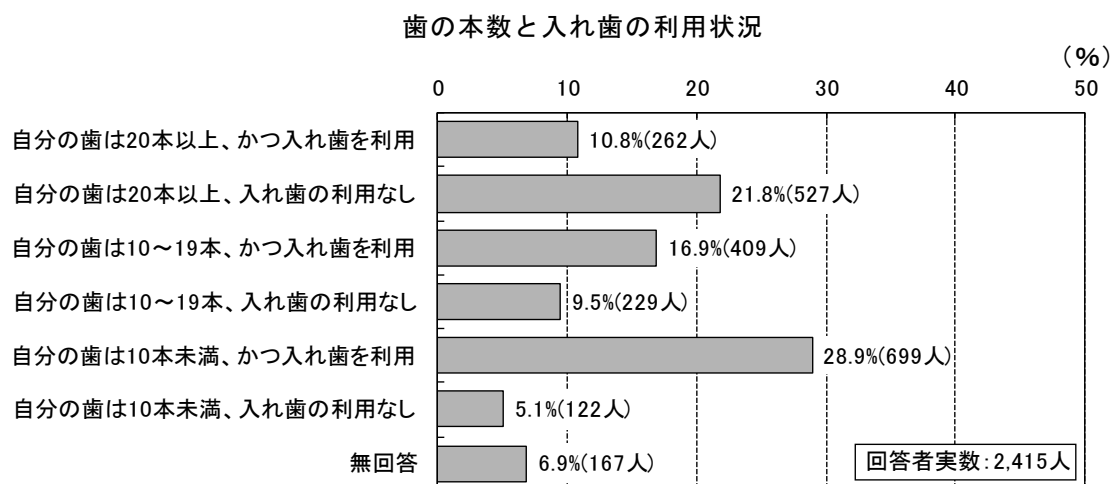
肺炎発症リスク者（男女年齢別）



### (3) 歯の健康

#### ① 歯の本数と入れ歯の利用状況

歯の本数と入れ歯の利用について見ると、「自分の歯は10本未満、かつ入れ歯を利用」という回答が28.9%で最も高くなっています。歯が20本以上ある人は32.6%、入れ歯を利用していない人は36.4%であり、それぞれ3割台となっています。



年齢別に見ると、75歳以上は「歯は10本未満で入れ歯を利用」が最も高く、年齢が上がるとともにこの割合は高くなる傾向にあり、65歳～69歳では18.5%ですが、75歳～79歳には32.0%、85歳以上では49.8%となります。また、「歯は20本以上で入れ歯の利用なし」は、65歳～69歳で31.2%と3割余りを占めていますが、75歳～79歳では17.8%と2割を下回り、85歳以上では6.1%へと低下しています。

#### 歯の数と入れ歯の利用状況（年齢別）

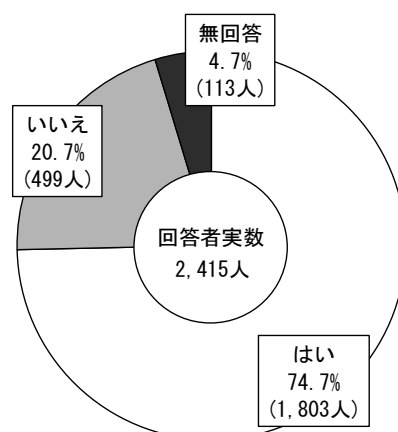
	回答者実数	自分の歯は20本以上		自分の歯は10～19本		自分の歯は10本未満		無回答
		入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	
65歳～69歳	717人	11.3% (81人)	31.2% (224人)	15.3% (110人)	13.8% (99人)	18.5% (133人)	6.6% (47人)	3.2% (23人)
70歳～74歳	588人	10.7% (63人)	25.9% (152人)	20.6% (121人)	10.4% (61人)	24.1% (142人)	3.4% (20人)	4.9% (29人)
75歳～79歳	482人	13.1% (63人)	17.8% (86人)	18.7% (90人)	7.7% (37人)	32.0% (154人)	3.5% (17人)	7.3% (35人)
80歳～84歳	367人	10.6% (39人)	13.4% (49人)	14.7% (54人)	5.2% (19人)	38.1% (140人)	6.5% (24人)	11.4% (42人)
85歳以上	261人	6.1% (16人)	6.1% (16人)	13.0% (34人)	5.0% (13人)	49.8% (130人)	5.4% (14人)	14.6% (38人)

## ②噛み合わせは良いか

噛み合わせについて尋ねたところ、「はい(良い)」という回答は74.7%、「いいえ(悪い)」は20.7%であり、ほとんどの高齢者は噛み合わせの問題がないとしています。

年齢別に見ると、「はい」は65歳～69歳と75歳～79歳が77%を占め、80歳以降の世代では7割近くとなっています。

噛み合わせは良いか



噛み合わせは良いか（年齢別）

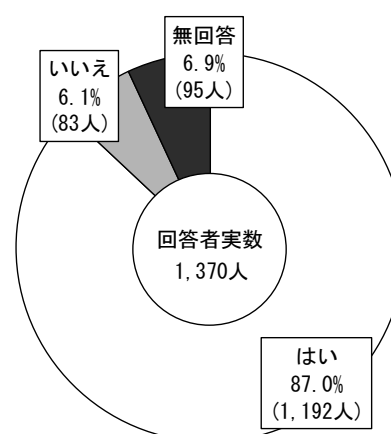
	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	717人	77.0% (552人)	20.4% (146人)	2.6% (19人)
70歳～74歳	588人	73.8% (434人)	20.6% (121人)	5.6% (33人)
75歳～79歳	482人	77.4% (373人)	18.5% (89人)	4.1% (20人)
80歳～84歳	367人	69.8% (256人)	23.4% (86人)	6.8% (25人)
85歳以上	261人	72.0% (188人)	21.8% (57人)	6.1% (16人)

## ③毎日入れ歯の手入れをしているか

毎日入れ歯の手入れをしているか尋ねたところ、「はい」が87.0%、「いいえ」が6.1%で、ほとんどの人が毎日手入れしていると回答しています。

年齢別に見ると、各世代とも「はい」という回答が8割半ばを占めています。

毎日入れ歯の手入れをしているか



毎日入れ歯の手入れをしているか（年齢別）

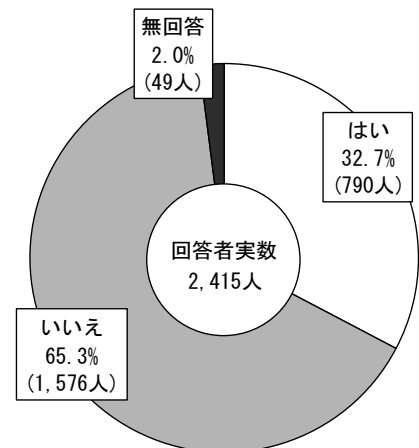
	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	324人	85.8% (278人)	6.5% (21人)	7.7% (25人)
70歳～74歳	326人	88.7% (289人)	4.9% (16人)	6.4% (21人)
75歳～79歳	307人	87.9% (270人)	5.9% (18人)	6.2% (19人)
80歳～84歳	233人	88.0% (205人)	6.0% (14人)	6.0% (14人)
85歳以上	180人	83.3% (150人)	7.8% (14人)	8.9% (16人)

#### (4) 歯科医院の受診

##### ① 歯科医院の受診状況

歯科医院を受診しているか尋ねたところ、「はい」が32.7%、「いいえ」が65.3%となっており、3割余りが歯科を受診しています。

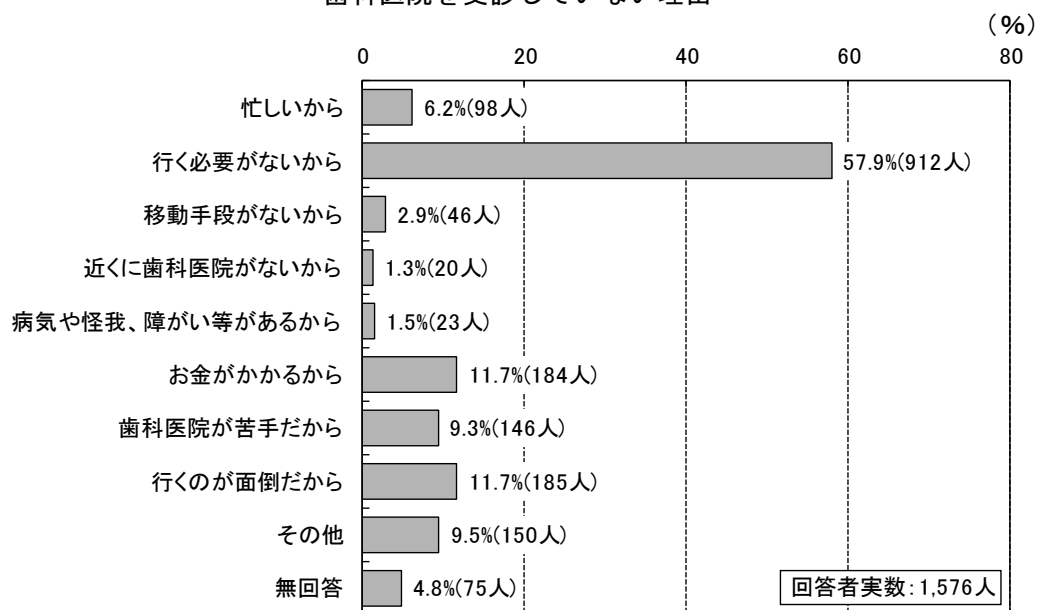
歯科医院の受診状況



##### ② 歯科医院を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に歯科医院を受診していない理由について尋ねると、「行く必要がないから」が57.9%と圧倒的に高くなっています。「お金がないから」、「行くのが面倒だから」がそれぞれ11.7%となっており、その他の理由は15%未満となっています。

歯科医院を受診していない理由

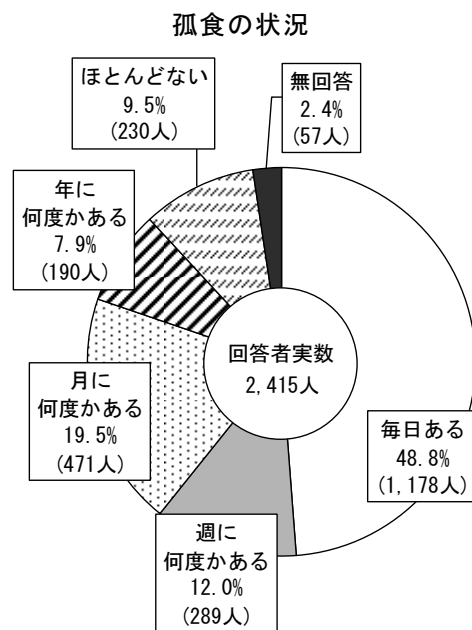


## (5) 孤食の状況

だれかと食事をとる機会の有無を尋ね、孤食の状況を把握しました。

誰かと食事をとる機会がどの程度あるか尋ねたところ、「毎日ある」が48.8%で約半数を占めています。「週に何度かある」は12.0%であり、これら2つを合わせると、比較的共食できる状況にある高齢者は6割程度となっています。

「年に何度かある」が7.9%、「ほとんどない」が9.5%であり、孤食にある高齢者が16.5%であるほか、「月に何度かある」の19.5%も合わせると、孤食または孤食傾向にある高齢者が36.9%と3割半ばを占めています。



性別に見ると、孤食の高齢者は男性が23.4%、女性が12.0%で、やや男性の方が高くなっています。また、孤食傾向の高齢者は、男性が40.6%、女性が33.6%であり、若干男性の方が高くなっています。

年齢別に見ると、概ね、年齢が上がるとともに孤食や孤食傾向の割合が高くなる傾向が見られます。

### 孤食の状況（性別、年齢別）

	回答者実数	毎日ある	週に 何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に 何度かある	孤食の高齢者		
					年に 何度かある	ほとんどない	
男性	1,140人	48.2% (550人)	9.0% (103人)	17.2% (196人)	9.9% (113人)	13.5% (154人)	2.1% (24人)
女性	1,275人	49.3% (628人)	14.6% (186人)	21.6% (275人)	6.0% (77人)	6.0% (76人)	2.6% (33人)
65歳～69歳	717人	56.2% (403人)	11.4% (82人)	13.7% (98人)	6.7% (48人)	10.7% (77人)	1.3% (9人)
70歳～74歳	588人	52.7% (310人)	10.9% (64人)	18.9% (111人)	7.1% (42人)	9.2% (54人)	1.2% (7人)
75歳～79歳	482人	42.3% (204人)	10.8% (52人)	24.9% (120人)	11.0% (53人)	7.1% (34人)	3.9% (19人)
80歳～84歳	367人	40.6% (149人)	14.7% (54人)	22.6% (83人)	8.4% (31人)	10.6% (39人)	3.0% (11人)
85歳以上	261人	42.9% (112人)	14.2% (37人)	22.6% (59人)	6.1% (16人)	10.0% (26人)	4.2% (11人)

孤食の状況を孤独感別に見ると、孤立をよく感じる人では、誰かと食事をする機会が「ほとんどない」で 25.2%となっており、「孤食の高齢者」で孤立を感じる割合が高いことがわかります。

#### 孤食の状況（孤独感別）

	回答者実数	毎日ある	週に 何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に 何度かある	孤食の高齢者		
					年に 何度かある	ほとんどない	
よく感じる	151 人	27.2% ( 41 人)	9.3% ( 14 人)	19.2% ( 29 人)	13.9% ( 21 人)	25.2% ( 38 人)	5.3% ( 8 人)
ときどき感じる	583 人	36.0% (210 人)	16.1% ( 94 人)	23.7% (138 人)	9.8% ( 57 人)	12.5% ( 73 人)	1.9% ( 11 人)
あまり感じない	865 人	52.1% (451 人)	11.4% ( 99 人)	19.9% (172 人)	8.2% ( 71 人)	6.7% ( 58 人)	1.6% ( 14 人)
ほとんど感じない	735 人	60.1% (442 人)	10.3% ( 76 人)	16.6% (122 人)	4.8% ( 35 人)	6.3% ( 46 人)	1.9% ( 14 人)

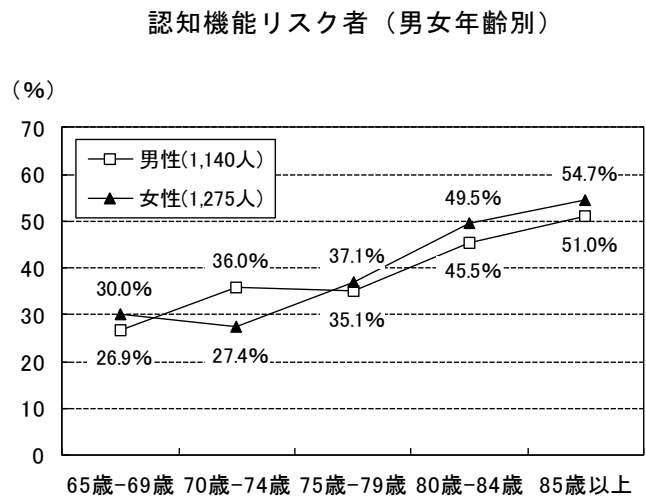
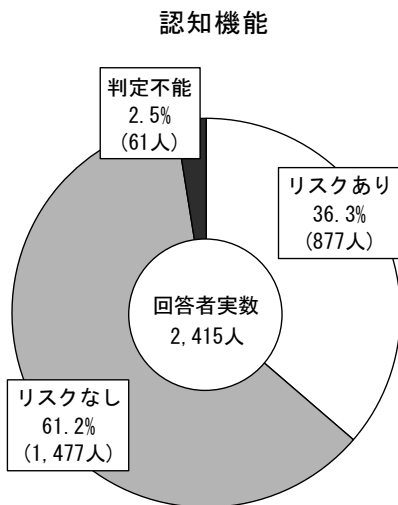
## 4. 毎日の生活について

### (1) 認知機能

#### ① 認知機能の低下者（リスク者）

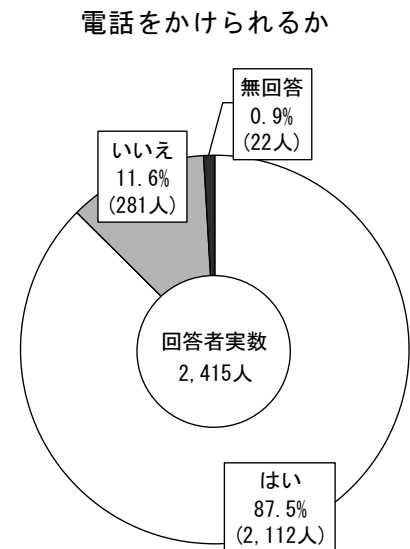
認知機能のリスク者は 36.3% で 3 割半ばとなっています。

性別年齢別に見ると、65 歳～69 歳では、男女とも約 3 割ですが、85 歳以上では 5 割台と半数以上を超えており、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しています。男女差による大きな差は見られませんが、70 歳～74 歳では、男性の方が女性よりややリスク者割合が高くなっています。



#### ② 電話をかけられるか

認知機能に関連して、自分で電話番号を調べて電話をかけられるか尋ねたところ、「はい(かけられる)」が 87.5%、「いいえ(かけられない)」が 11.6% となっています。

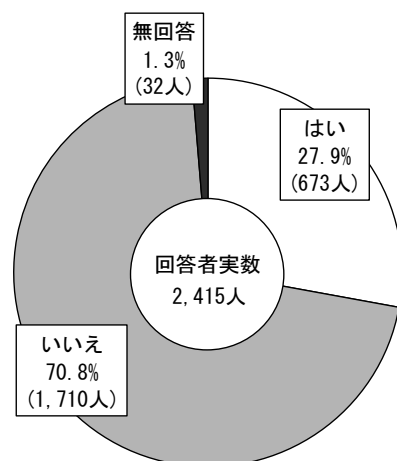




### ③日付がわからない時があるか

認知機能に関連して、今日の日付がわからないときがあるか尋ねたところ、「はい(わからない時がある)」が27.9%、「いいえ(わからない時はない)」が70.8%となっています。

日付がわからない時があるか



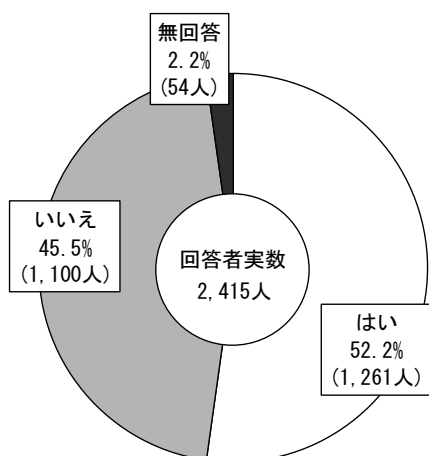
### ④物をしまった場所がわからなくなることがあるか（独自項目）

認知機能に関連して、物をしまった場所がわからなくなることがあるか尋ねました。

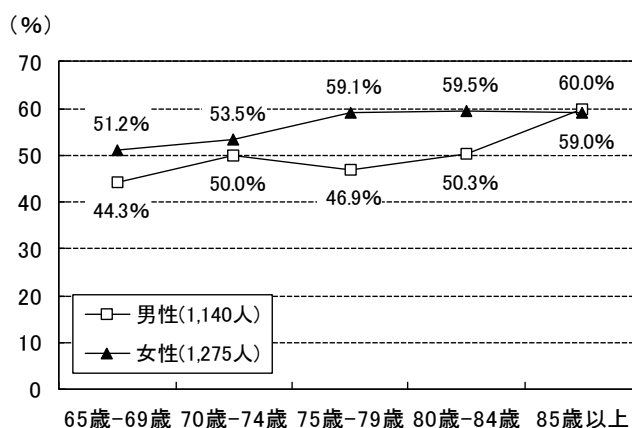
「はい(わからなくなることがある)」は52.2%、「いいえ(わからなくなることはない)」が45.5%であり、「はい」が「いいえ」を僅かながら上回っています。

性別年齢別に見ると、65歳～84歳までは概ね男性より女性の方でわからなくなる割合が高い傾向となっています。男性は70歳～74歳では5割、75歳～79歳には4割半ばに減少しますが、以降は年齢とともに上昇し85歳以上では約6割となります。女性は、65歳～69歳では約5割、75歳～79歳では約6割まで上昇し、以降はほぼ横ばいに推移しています。

物をしまった場所がわからなくなることがあるか



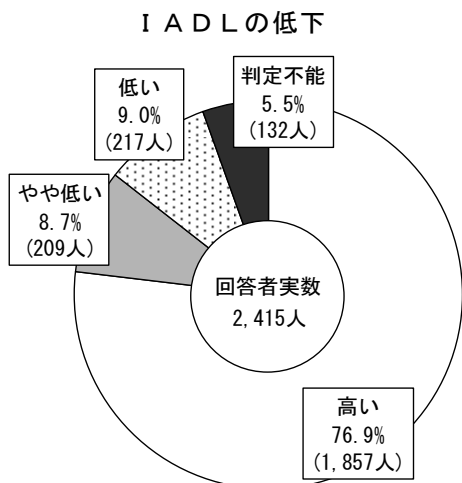
物をしまった場所がわからなくなる人の割合（男女年齢別）



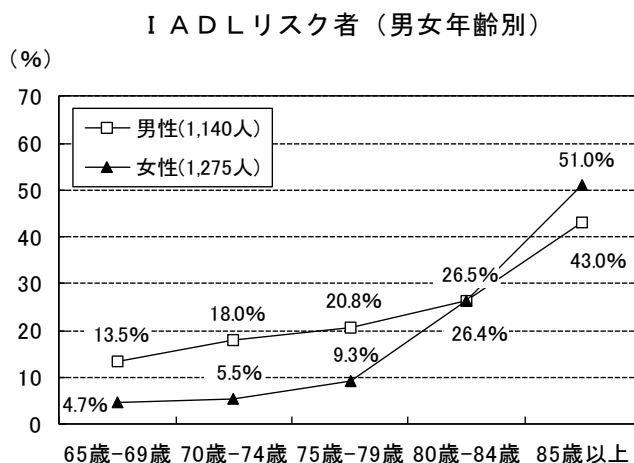
## (2) IADLの低下者（リスク者）

買い物や洗濯・掃除等といった「手段的日常生活動作」であるIADLのリスク者は17.7%で2割近くとなっています。

性別年齢別に見ると、75歳～79歳までは男性の方が高く、85歳以上では、女性の方でリスク者が高い傾向にあります。また、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向となっており、男性は、70歳～74歳以下の1割台が、85歳以上では4割余りと、大きく伸びています。女性は、75歳～79歳までは男性より低いですが、80歳～84歳では約3割、85歳以上では約5割を占め、男性を上回っています。



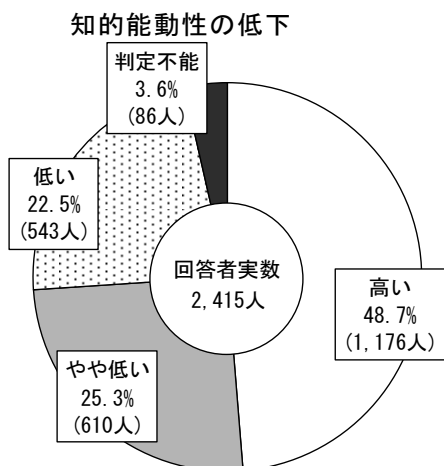
※「やや低い」+「低い」=低下者（リスクあり）



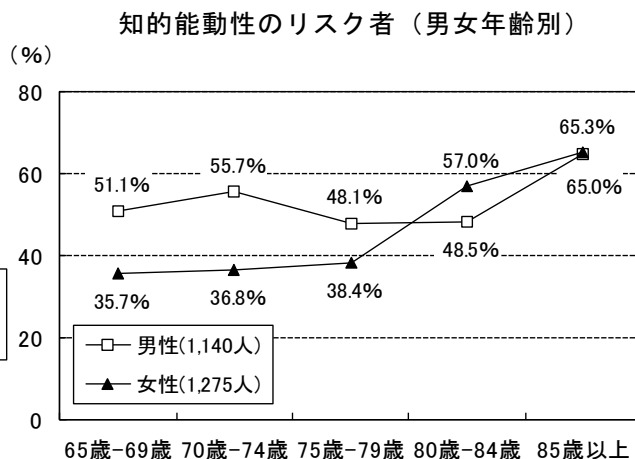
## (3) 知的能動性の低下者（リスク者）

「新聞や雑誌等を読んでいるか」、「書類はかけるか」などの能力である知的能動性のリスク者は47.8%で5割近くとなっています。

性別年齢別に見ると、リスク者の割合は、男性が70歳～74歳で約5割半ばから、75歳～84歳の世代では5割弱まで減少し、85歳以上では約6割半ばに上昇しています。女性は79歳までは3割台ですが、80歳～84歳では5割半ば、85歳以上では6割半ばを占めています。



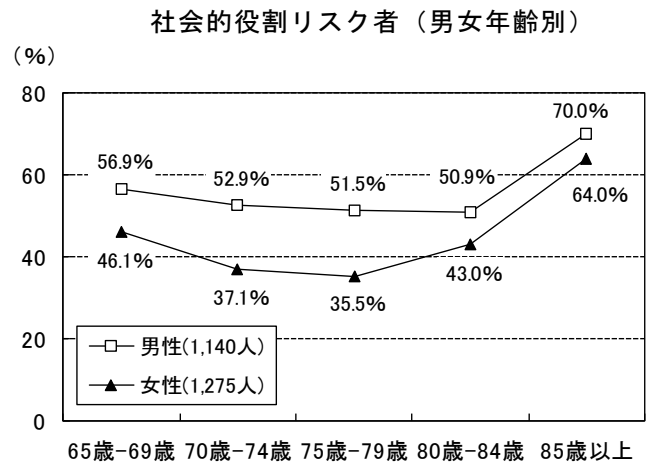
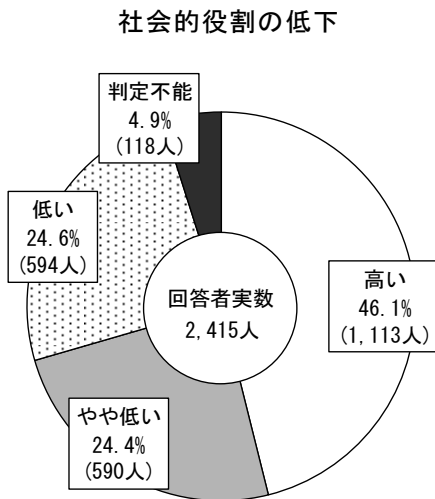
※「やや低い」+「低い」=低下者（リスクあり）



#### (4) 社会的役割の低下者（リスク者）

「友人の家を訪問するか」、「若者に話しかけるか」などの能力である社会的役割のリスク者は49.0%で5割近くとなっています。

性別年齢別に見ると、リスク者の割合は、各年代で男性の方が女性より高く、特に65歳～84歳までの世代で50%を超えています。84歳以降では、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向となっています。

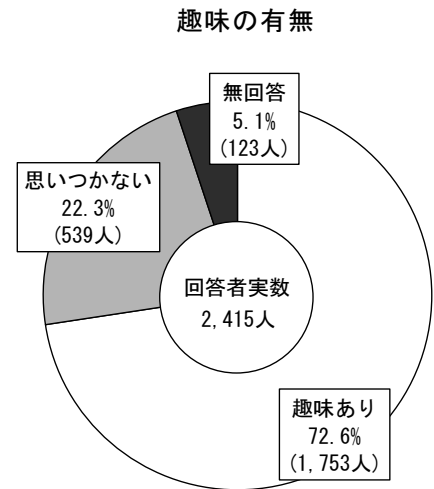


※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）

## (5) 趣味や生きがい

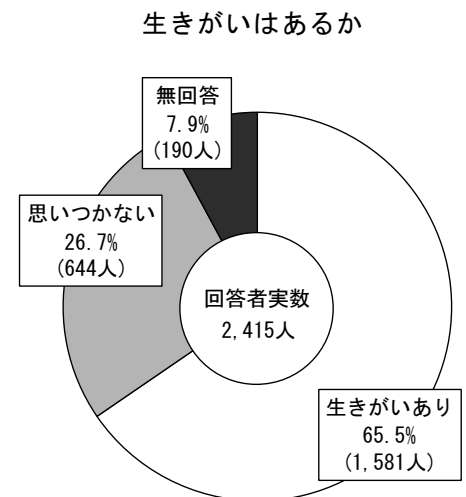
### ① 趣味の有無

趣味があるか訪ねたところ、「趣味あり」が 72.6%、「思いつかない」が 22.3%となっています。ほとんどの高齢者が趣味を持っていることがわかります。



### ② 生きがいはあるか

生きがいがあるか訪ねたところ、「生きがいがある」は 65.5%、「思いつかない」が 26.7%となっています。生きがいのある高齢者が大半を占めていることがわかります。



## 5. 地域での活動について

### (1) 社会参加

社会参加の程度について尋ねたところ、「参加していない」という回答割合が非常に高く、全において4割を超えており、特に介護予防のための通いの場、老人クラブは5割を超えています。一般的に社会参加活動や就労等を行っていない高齢者が多くを占めていることがわかります。

社会参加を「週4回以上」行っているという回答では、「収入のある仕事」がやや高く、9.9%となっています。また、「スポーツ関係のグループやクラブ」は週数回、「趣味関係のグループ」は週1回や週数回参加している人が比較的高く、「自治会」は年に数回という回答が比較的高くなっています。

#### 社会参加

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
ボランティアのグループ	1.3% (31人)	2.1% (51人)	1.1% (27人)	3.9% (93人)	5.3% (128人)	47.7% (1,152人)	38.6% (933人)
スポーツ関係のグループ やクラブ	2.6% (63人)	5.6% (136人)	3.3% (79人)	4.6% (111人)	3.1% (76人)	44.0% (1,063人)	36.7% (887人)
趣味関係のグループ	2.2% (54人)	5.5% (134人)	5.4% (130人)	7.7% (187人)	4.8% (116人)	40.0% (965人)	34.3% (829人)
学習・教養サークル	0.7% (18人)	0.9% (22人)	2.2% (53人)	1.6% (38人)	2.5% (61人)	49.9% (1,205人)	42.2% (1,018人)
介護予防のための通いの 場	1.1% (27人)	3.8% (92人)	2.5% (60人)	3.5% (85人)	1.4% (33人)	50.4% (1,217人)	37.3% (901人)
老人クラブ	0.7% (17人)	1.8% (44人)	1.3% (31人)	4.6% (112人)	4.6% (112人)	50.2% (1,212人)	36.7% (887人)
自治会	0.7% (18人)	1.2% (28人)	1.2% (29人)	4.5% (108人)	13.0% (315人)	42.9% (1,035人)	36.5% (882人)
収入のある仕事	9.9% (239人)	4.2% (101人)	1.0% (24人)	1.3% (32人)	1.9% (46人)	43.7% (1,055人)	38.0% (918人)

※回答者実数=2,415人

## (2) 地域づくりへの参加意向

### ① 地域づくりへ参加者として参加したいか

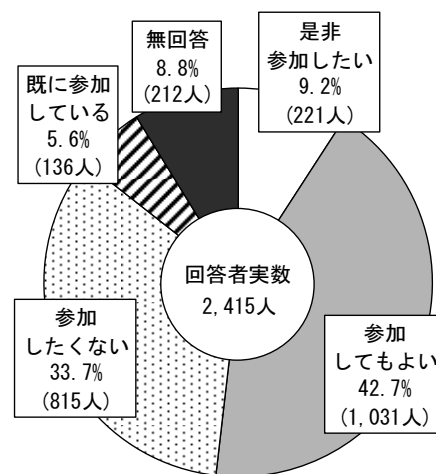
地域づくりへの参加意向を尋ねたところ、「是非参加したい」は9.2%、「参加してもよい」は42.7%であり、これらを合わせると参加意向は51.9%となっています。

性別に見ると、男女とも「参加してもよい」が4割台ですが、やや男性の方が高いです。また、「是非参加したい」は男性が6.3%、女性が11.7%で女性の方がやや高くなっています。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせると、参加意向は男性が50.0%、女性が53.5%となり、若干女性の方が高くなっています。

年齢別に見ると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の割合は年代が上がるとともに減少する傾向となっており、特に85歳以上ではそれ以前の年代よりも減少が大きくなっています。「参加してもよい」の割合は、65歳～84歳までの世代は4割台ですが、85歳以上では3割余りとなります。

圏域別では、各圏域での大きな差は見られませんが、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた参加意向は石川圏域が53.2%、具志川北圏域が52.6%、具志川東圏域が52.1%、具志川西圏域が49.0%、具志川南圏域が55.2%、与勝第1圏域が52.0%、与勝第2圏域が46.9%であり、「具志川南圏域」で参加意向が僅かながら高くなっています。

地域づくりへ  
参加者として参加したいか



### 地域づくりへ参加者として参加したいか (性別、年齢別、圏域別)

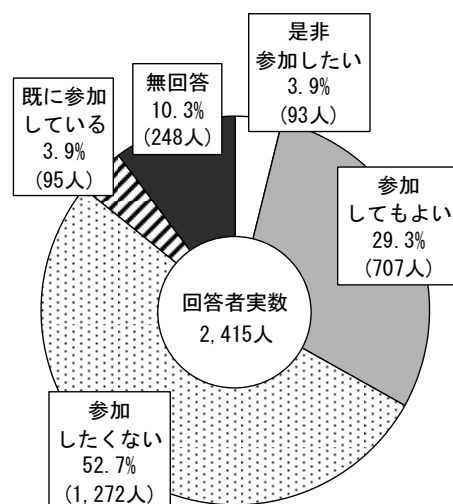
	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
男性	1,140人	6.3% (72人)	43.7% (498人)	37.3% (425人)	5.1% (58人)	7.6% (87人)
女性	1,275人	11.7% (149人)	41.8% (533人)	30.6% (390人)	6.1% (78人)	9.8% (125人)
65歳～69歳	717人	7.9% (57人)	45.9% (329人)	36.0% (258人)	3.8% (27人)	6.4% (46人)
70歳～74歳	588人	8.0% (47人)	45.2% (266人)	33.5% (197人)	5.8% (34人)	7.5% (44人)
75歳～79歳	482人	11.8% (57人)	42.1% (203人)	29.0% (140人)	7.3% (35人)	9.8% (47人)
80歳～84歳	367人	10.4% (38人)	41.1% (151人)	30.0% (110人)	5.4% (20人)	13.1% (48人)
85歳以上	261人	8.4% (22人)	31.4% (82人)	42.1% (110人)	7.7% (20人)	10.3% (27人)
石川圏域	402人	9.2% (37人)	44.0% (177人)	34.1% (137人)	5.0% (20人)	7.7% (31人)
具志川北圏域	355人	11.5% (41人)	41.1% (146人)	29.0% (103人)	9.3% (33人)	9.0% (32人)
具志川東圏域	307人	6.5% (20人)	45.6% (140人)	31.9% (98人)	5.9% (18人)	10.1% (31人)
具志川西圏域	402人	9.0% (36人)	40.0% (161人)	36.6% (147人)	5.7% (23人)	8.7% (35人)
具志川南圏域	406人	7.4% (30人)	47.8% (194人)	34.5% (140人)	4.9% (20人)	5.4% (22人)
与勝第1圏域	302人	11.9% (36人)	40.1% (121人)	34.1% (103人)	3.3% (10人)	10.6% (32人)
与勝第2圏域	241人	8.7% (21人)	38.2% (92人)	36.1% (87人)	5.0% (12人)	12.0% (29人)

## ②地域づくりへ企画・運営として参加したいか

地域づくりへ企画・運営として参加したいかを尋ねたところ、「是非参加したい」は3.9%、「参加してもよい」は29.3%であり、これらを合わせると企画・運営への参加意向は33.2%となっています。前項の地域づくりへの参加意向(51.9%)と比べて低いことがわかります。

圏域別で見ると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた企画・運営への参加意向は、石川圏域が33.4%、具志川北圏域が34.6%、具志川東圏域が36.1%、具志川西圏域が29.8%、具志川南圏域が33.8%、与勝第1圏域が35.4%、与勝第2圏域が28.2%となっており、「具志川東圏域」で参加意向が僅かながら高くなっています。

地域づくりへ  
企画・運営として参加したいか



地域づくりへ企画・運営として参加したいか (圏域別)

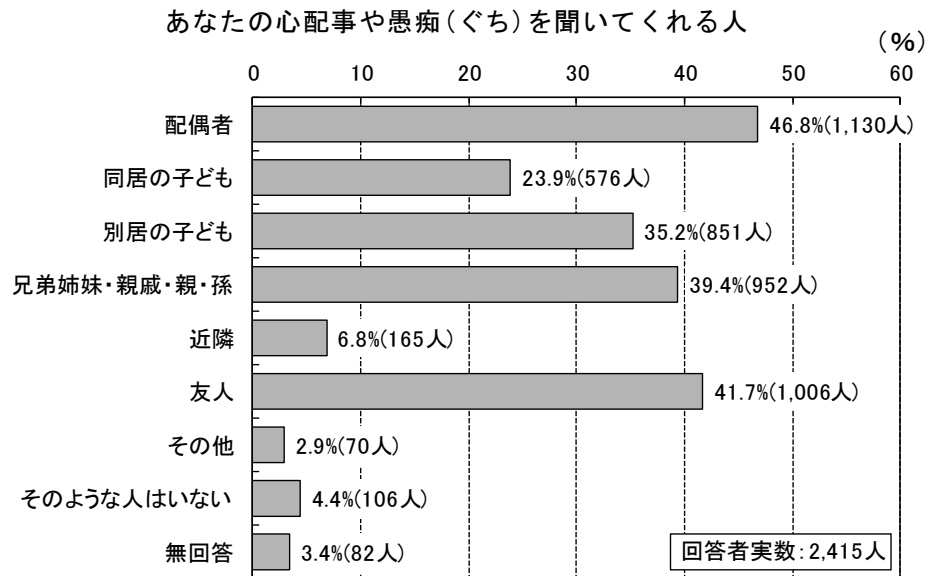
	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
石川圏域	402人	5.0% (20人)	28.4% (114人)	54.7% (220人)	3.2% (13人)	8.7% (35人)
具志川北圏域	355人	4.5% (16人)	30.1% (107人)	49.3% (175人)	5.4% (19人)	10.7% (38人)
具志川東圏域	307人	2.9% (9人)	33.2% (102人)	48.2% (148人)	2.6% (8人)	13.0% (40人)
具志川西圏域	402人	3.2% (13人)	26.6% (107人)	54.5% (219人)	5.7% (23人)	10.0% (40人)
具志川南圏域	406人	2.5% (10人)	31.3% (127人)	55.4% (225人)	3.4% (14人)	7.4% (30人)
与勝第1圏域	302人	4.3% (13人)	31.1% (94人)	51.3% (155人)	3.0% (9人)	10.3% (31人)
与勝第2圏域	241人	5.0% (12人)	23.2% (56人)	53.9% (130人)	3.7% (9人)	14.1% (34人)

## 6. たすけあいについて

### (1) たすけあいの状況

#### ① 心配事や愚痴を「聞いてくれる人」

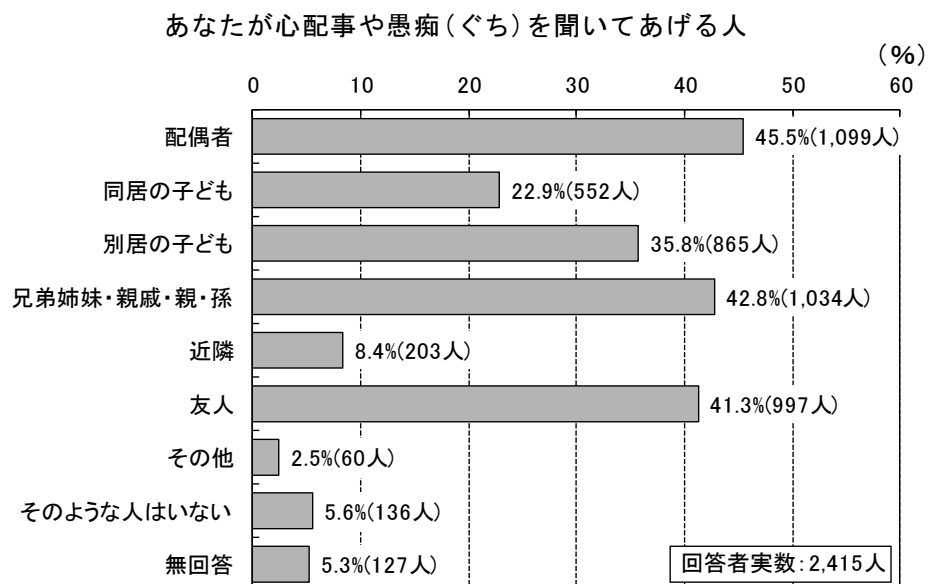
心配事や愚痴を聞いている人について尋ねたところ、「配偶者」が46.8%と最も高く、続いて、「友人」(41.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(39.4%)、「別居の子ども」(35.2%)となっており、これら4つが大半を占めています。



#### ② 心配事や愚痴を「聞いてあげる人」

上記項目とは反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人について尋ねたところ、概ね「聞いてくれる人」の集計結果と同様の割合となっています。

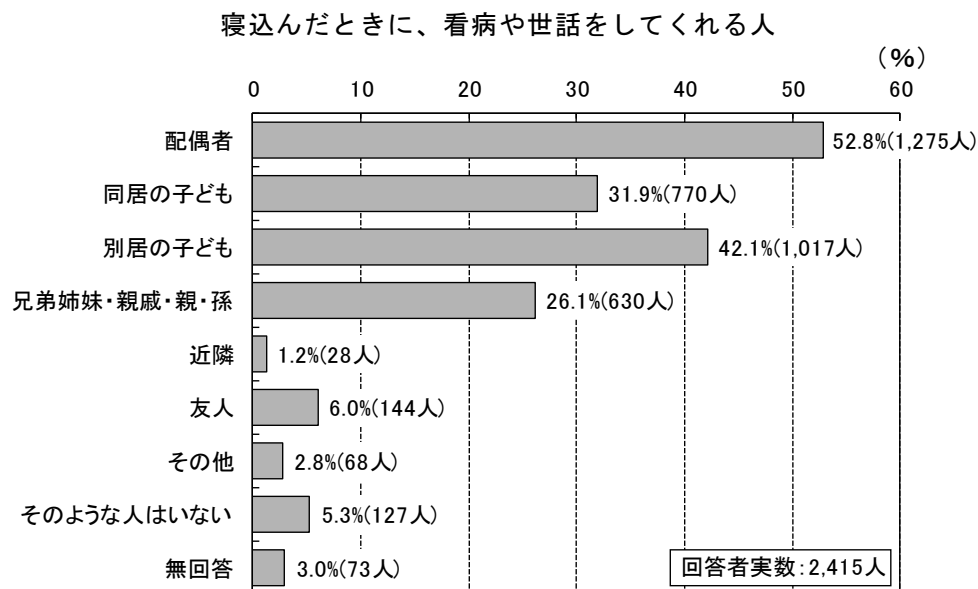
「配偶者」が45.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が42.8%、「友人」が41.3%でこれら3つが4割余りで高くなっています。また、「別居の子ども」が35.8%で3割半ばを占め、これら4つが他の項目より高くなっています。





### ③寝込んだときに看病や世話を「してくれる人」

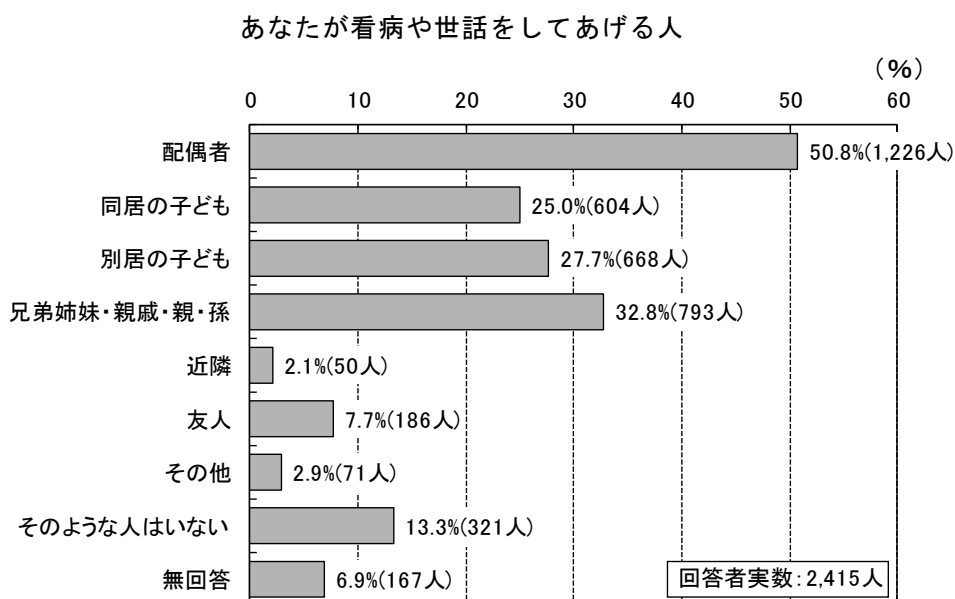
寝込んだときの看病や世話をしてくれる人について尋ねたところ、「配偶者」が 52.8%と半数以上を占め、次いで、「別居の子ども」が 42.1%となっており、これら2つが特に高くなっています。また、「同居の子ども」が 31.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 26.1%であり、これら2つが3割前後で比較的高くなっています。



### ④寝込んだときに看病や世話を「してあげる人」

上記項目とは反対に、心寝込んだときの看病や世話をしてあげる人について尋ねました。

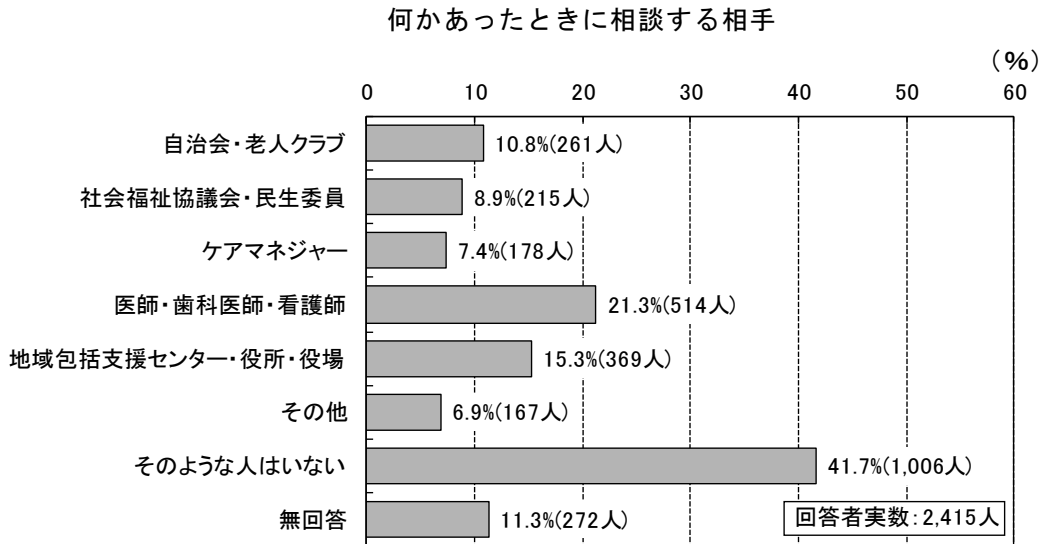
「配偶者」が 50.8%と半数を占め最も高くなっています。また、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 32.8%、「別居の子ども」が 27.7%、「同居の子ども」の 25.0%と続いています。



### ⑤家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

家族や友人・知人以外での相談相手について見ると、「医師・歯科医師・看護師」が21.3%で他の項目より高いほか、「地域包括支援センター・役所・役場」が15.3%で比較的高くなっています。

しかし、「そのような人はいない」という回答が本設問で最も高く41.7%を占めています。

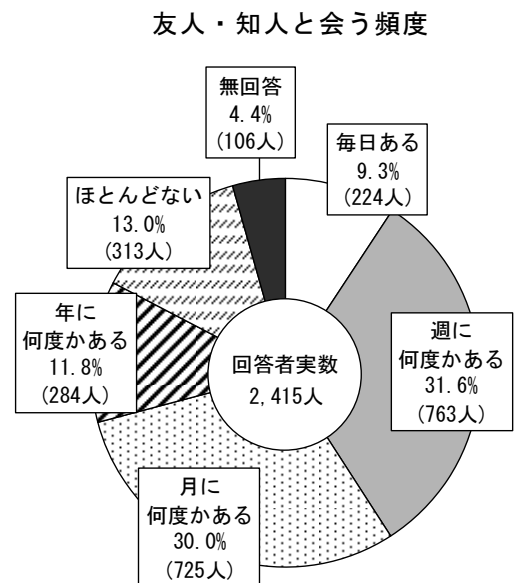


## (2) 友人、知人との交流

### ①友人、知人と会う頻度

友人、知人と会う頻度は、「毎日ある」が9.3%、「週に何度かある」が31.6%であり、これらを合わせると約4割となります。また、「月に何度かある」が30.0%であり、友人・知人と会う機会が比較的高齢者が7割を占めます。

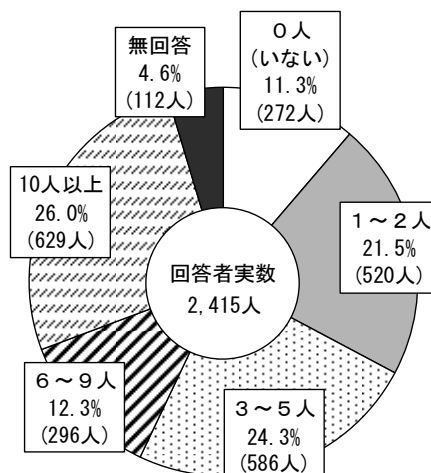
反対に、「ほとんどない」が13.0%、「年に何度かある」が11.8%であり、2割半ばは友人・知人とあまり合う機会がないことがわかります。



### ② 1か月に何人の友人、知人と会ったか

この1か月の間に、何人の友人、知人にあつたかを尋ねたところ、「10人以上」が26.0%で最も高く、「3～5人」が24.3%、「1～2人」の21.5%がこれに続いています。

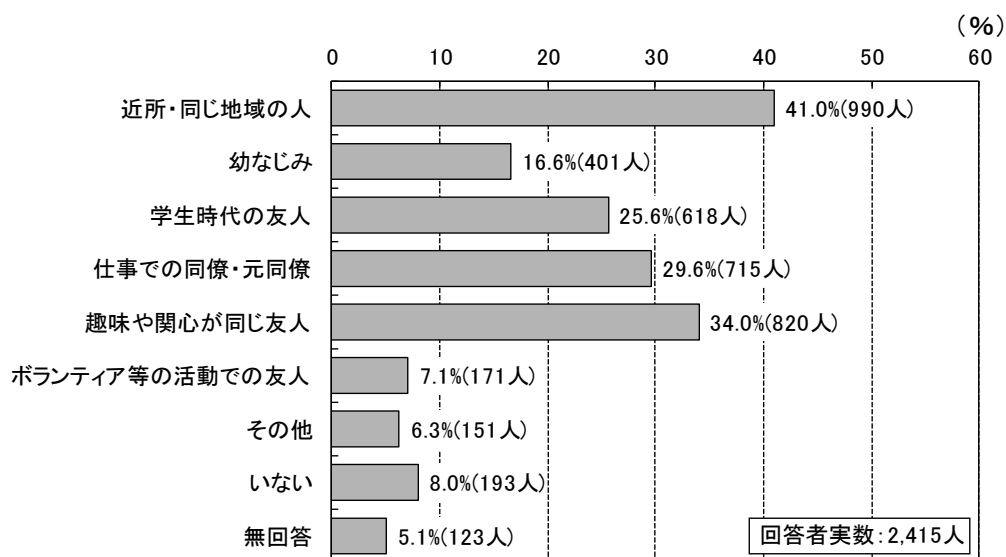
1か月に何人の友人、知人と会ったか



### ③ よく会う友人、知人との関係

よく会う友人、知人はどんな関係の人か尋ねたところ、「近所・同じ地域の人」が41.0%で最も高く、唯一4割を超えています。次いで「趣味や関心が同じ友人」が34.0%で3割半ば、「仕事での同僚・元同僚」が29.6%、「学生時代の友人」が25.6%でそれぞれ2割台となっています。

よく会う友人・知人との関係性



## 7. 健康について

### (1) 主観的健康感

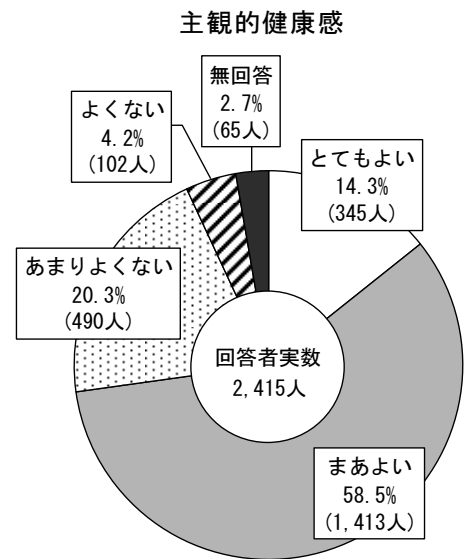
健康状態について尋ねたところ、「まあよい」が58.5%で圧倒的に高くなっています。また、「とてもよい」は14.3%であり、これら2つを合わせると、約7割が健康と回答しています。

性別に見ると、この設問についての男女別の差はほとんどありません。

年齢別に見ると、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“健康”は年齢が上がるとともに割合が減少する傾向にあります。“健康”は65歳～69歳が80.0%、70歳～74歳が74.7%、85歳以上では68.2%と7割弱へと下がっています。また、「あまりよくない」と「よくない」

を合わせた“健康ではない”は年齢が上がるとともに割合も上昇する傾向にあり、65歳～69歳では2割弱ですが、85歳以上では3割近くを占めています。

幸福度別に見ると、“健康”は10点(とても幸せ)が85.6%、4点～6点(普通)が64.5%、0点(幸福ではない)が24.0%となっており、幸福度が高いと“健康”と感じている割合が高くなります。反対に、“健康ではない”は10点が13.8%、4点～6点が34.9%、0点が76.0%であり、幸福度が低いと“健康ではない”と答えた割合が高いです。



#### 主観的健康感（性別、年齢別）

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
男性	1,140人	14.4% (164人)	57.0% (650人)	21.6% (246人)	4.7% (54人)	2.3% (26人)
女性	1,275人	14.2% (181人)	59.8% (763人)	19.1% (244人)	3.8% (48人)	3.1% (39人)
65歳～69歳	717人	13.8% (99人)	66.2% (475人)	15.3% (110人)	3.1% (22人)	1.5% (11人)
70歳～74歳	588人	15.3% (90人)	59.4% (349人)	18.9% (111人)	4.1% (24人)	2.4% (14人)
75歳～79歳	482人	15.4% (74人)	52.7% (254人)	25.5% (123人)	3.5% (17人)	2.9% (14人)
80歳～84歳	367人	14.2% (52人)	51.0% (187人)	24.5% (90人)	6.8% (25人)	3.5% (13人)
85歳以上	261人	11.5% (30人)	56.7% (148人)	21.5% (56人)	5.4% (14人)	5.0% (13人)

#### 主観的健康感（幸福度別）

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
0点 (幸福ではない)	25人	8.0% (2人)	16.0% (4人)	32.0% (8人)	44.0% (11人)	0.0% (0人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	109人	6.4% (7人)	32.1% (35人)	45.0% (49人)	15.6% (17人)	0.9% (1人)
4点～6点 (普通)	717人	6.3% (45人)	58.2% (417人)	29.7% (213人)	5.2% (37人)	0.7% (5人)
7点～9点 (やや幸せ)	934人	13.4% (125人)	68.4% (639人)	15.1% (141人)	2.1% (20人)	1.0% (9人)
10点 (とても幸せ)	487人	32.2% (157人)	53.4% (260人)	10.9% (53人)	2.9% (14人)	0.6% (3人)

## (2) 主観的幸福感

現在の幸福感について、「とても幸せ」を10点、「幸福ではない」を0点として、回答していただきました。

「10点」（とても幸せ）が20.2%、「5点」（普通）が19.8%、「8点」（幸せ）が18.5%と比較的高くなっています。

性別に見ると、「5点」は男性の方で女性より高く、また反対に「10点」は女性の方で高くなっています。幸福感は女性の方が男性より高い傾向が見られます。

年齢別に見ると、「5点」では年齢別の差はあまり見られませんが、「10点」では年齢が上がると割合も高くなる傾向にあり、65歳～69歳では1割半ばですが、75歳～79歳では2割余り、85歳以上では2割半ばとなっています。

### 主観的幸福感（性別、年齢別）

	回答者 実数	0点 (幸福ではない)	1点	2点	3点	4点	5点
全体	2,415人	1.0% (25人)	0.9% (21人)	0.8% (20人)	2.8% (68人)	2.9% (70人)	19.8% (478人)
男性	1,140人	1.3% (15人)	1.1% (12人)	0.7% (8人)	3.6% (41人)	4.2% (48人)	22.5% (256人)
女性	1,275人	0.8% (10人)	0.7% (9人)	0.9% (12人)	2.1% (27人)	1.7% (22人)	17.4% (222人)
65歳～69歳	717人	1.0% (7人)	1.4% (10人)	1.1% (8人)	3.9% (28人)	4.0% (29人)	18.0% (129人)
70歳～74歳	588人	1.0% (6人)	0.9% (5人)	0.5% (3人)	2.9% (17人)	3.2% (19人)	21.3% (125人)
75歳～79歳	482人	1.0% (5人)	0.8% (4人)	0.8% (4人)	2.3% (11人)	2.1% (10人)	21.4% (103人)
80歳～84歳	367人	1.4% (5人)	0.5% (2人)	0.8% (3人)	1.4% (5人)	2.7% (10人)	18.8% (69人)
85歳以上	261人	0.8% (2人)	0.0% (0人)	0.8% (2人)	2.7% (7人)	0.8% (2人)	19.9% (52人)

	回答者 実数	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
全体	2,415人	7.0% (169人)	11.7% (283人)	18.5% (447人)	8.4% (204人)	20.2% (487人)	5.9% (143人)
男性	1,140人	7.2% (82人)	12.2% (139人)	17.0% (194人)	6.8% (77人)	18.8% (214人)	4.7% (54人)
女性	1,275人	6.8% (87人)	11.3% (144人)	19.8% (253人)	10.0% (127人)	21.4% (273人)	7.0% (89人)
65歳～69歳	717人	7.4% (53人)	13.2% (95人)	21.2% (152人)	8.6% (62人)	17.3% (124人)	2.8% (20人)
70歳～74歳	588人	6.0% (35人)	12.8% (75人)	18.9% (111人)	9.5% (56人)	18.5% (109人)	4.6% (27人)
75歳～79歳	482人	7.7% (37人)	10.8% (52人)	16.0% (77人)	7.7% (37人)	21.6% (104人)	7.9% (38人)
80歳～84歳	367人	6.8% (25人)	9.5% (35人)	16.6% (61人)	9.0% (33人)	22.9% (84人)	9.5% (35人)
85歳以上	261人	7.3% (19人)	10.0% (26人)	17.6% (46人)	6.1% (16人)	25.3% (66人)	8.8% (23人)

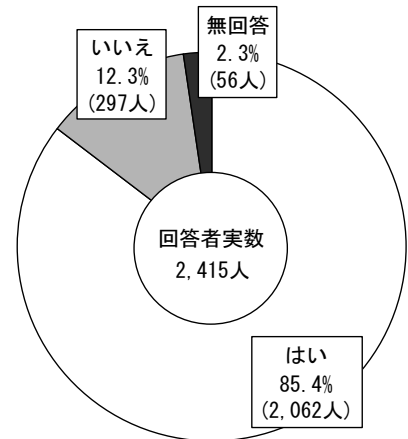
### (3) 人とふれあう機会

#### ① 人とふれあう機会の有無

人とふれあう機会の有無について尋ねたところ、「はい」が85.4%と大半を占めています。

反対に、「いいえ」と答えた人が12.3%となっており、1割余りの人が人とふれあう機会がないことがわかります。

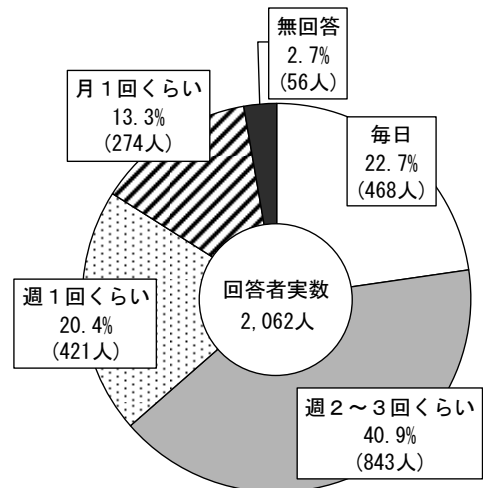
人とふれあう機会の有無



#### ② 人とふれあう機会の頻度

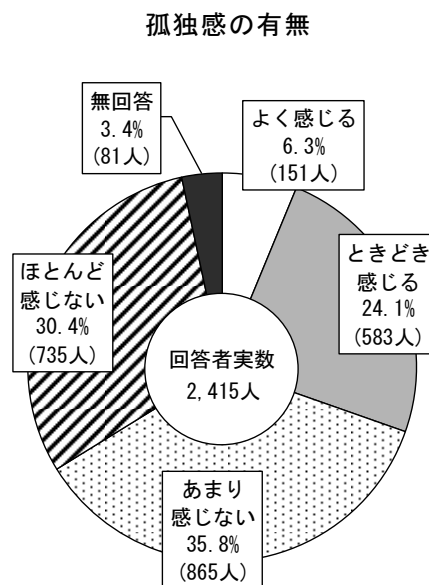
人とふれあう機会の頻度については、「週2～3回」が最も多く、約4割を占めています。また、「毎日」(22.7%)、「週1回くらい」(20.4%)が2割余りとなっています。

人とふれあう機会の頻度



#### (4) 孤独感の有無

孤独感については、「あまり感じない」(35.8%)と「ほとんど感じない」(30.4%)を合わせた“孤独感なし”の割合は66.2%となっています。反対に、「ときどき感じる」(24.1%)と「よく感じる」(6.3%)を合わせた“孤独感あり”は30.4%となっており、約3割が孤独を感じていることがわかります。



孤独感について主観的幸福度別で見ると、主観的幸福度が「0点(幸福ではない)」では孤独感を「よく感じる」、「1点～3点(やや幸福ではない)」では「ときどき感じる」と孤立を感じている割合が高く、反対に「7点～9点(やや幸せ)」では孤立を「あまり感じない」、「10点(とても幸せ)」では孤立を「ほとんど感じない」という割合が最も高くなっています。

#### 孤独感の有無(幸福度別)

	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
0点 (幸福ではない)	25人	60.0% (15人)	16.0% (4人)	4.0% (1人)	16.0% (4人)	4.0% (1人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	109人	28.4% (31人)	39.4% (43人)	22.9% (25人)	5.5% (6人)	3.7% (4人)
4点～6点 (普通)	717人	10.7% (77人)	38.5% (276人)	36.7% (263人)	12.6% (90人)	1.5% (11人)
7点～9点 (やや幸せ)	934人	1.3% (12人)	19.4% (181人)	45.2% (422人)	32.9% (307人)	1.3% (12人)
10点 (とても幸せ)	487人	1.8% (9人)	10.3% (50人)	23.2% (113人)	62.8% (306人)	1.8% (9人)

孤独感の有無（性別・年齢別）

		回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
男性	65歳～69歳	350人	5.7% (20人)	20.9% (73人)	36.3% (127人)	35.4% (124人)	1.7% (6人)
	70歳～74歳	278人	5.0% (14人)	19.1% (53人)	43.9% (122人)	29.5% (82人)	2.5% (7人)
	75歳～79歳	245人	6.5% (16人)	20.4% (50人)	40.8% (100人)	29.0% (71人)	3.3% (8人)
	80歳～84歳	167人	7.8% (13人)	28.1% (47人)	31.7% (53人)	28.1% (47人)	4.2% (7人)
	85歳以上	100人	10.0% (10人)	38.0% (38人)	29.0% (29人)	19.0% (19人)	4.0% (4人)
女性	65歳～69歳	367人	3.3% (12人)	19.6% (72人)	37.9% (139人)	37.3% (137人)	1.9% (7人)
	70歳～74歳	310人	6.5% (20人)	21.3% (66人)	37.1% (115人)	33.5% (104人)	1.6% (5人)
	75歳～79歳	237人	3.8% (9人)	33.3% (79人)	33.8% (80人)	22.8% (54人)	6.3% (15人)
	80歳～84歳	200人	12.5% (25人)	27.0% (54人)	27.0% (54人)	27.0% (54人)	6.5% (13人)
	85歳以上	161人	7.5% (12人)	31.7% (51人)	28.6% (46人)	26.7% (43人)	5.6% (9人)

孤独感の有無（家族構成別）

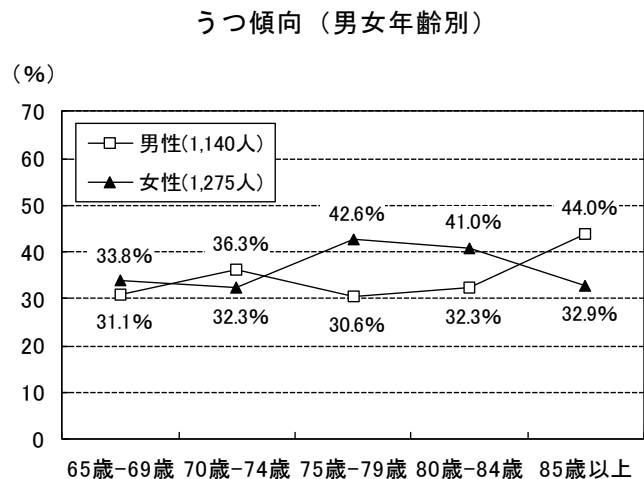
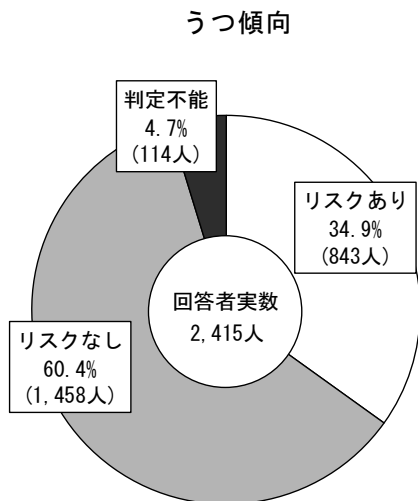
	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
1人暮らし	461人	14.3% (66人)	37.3% (172人)	25.4% (117人)	18.2% (84人)	4.8% (22人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	689人	4.5% (31人)	20.5% (141人)	38.0% (262人)	34.8% (240人)	2.2% (15人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	92人	3.3% (3人)	19.6% (18人)	43.5% (40人)	31.5% (29人)	2.2% (2人)
配偶者以外と 2人暮らし	227人	8.4% (19人)	30.0% (68人)	35.2% (80人)	24.2% (55人)	2.2% (5人)
3人以上の同居世帯	748人	2.1% (16人)	19.4% (145人)	39.6% (296人)	35.4% (265人)	3.5% (26人)
その他	98人	8.2% (8人)	19.4% (19人)	39.8% (39人)	30.6% (30人)	2.0% (2人)
無回答	100人	8.0% (8人)	20.0% (20人)	31.0% (31人)	32.0% (32人)	9.0% (9人)



## (5) うつ傾向（リスク者）

うつ傾向のリスク者は34.9%で3割半ばとなっています。

性別年齢別に見ると、70歳～74歳と85歳以上では男性の方が女性より高いですが、その他の年代では女性の方が高くなっています。男性は85歳以上の4割半ばが最も高く、75歳～79歳が約3割と最も低いです。女性は、65歳～74歳の世代の3割余りから、その後、約4割まで上昇し、85歳以上では再び3割余りまで減少となります。



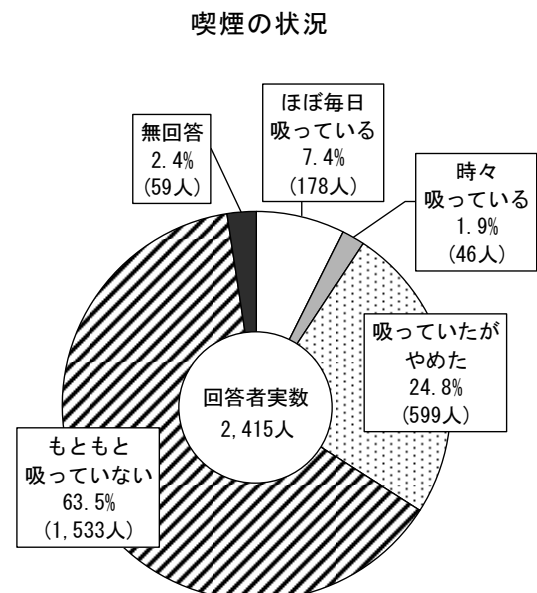
## (6) 喫煙、飲酒の状況

### ① 喫煙の状況

喫煙について見ると、「もともと吸っていない」が63.5%であり、6割余りが喫煙の経験がないとしています。これに次いで「吸っていたがやめた」が24.8%であり、これら2つを合わせると、現在喫煙していない高齢者が9割近くを占めます。

喫煙している高齢者は9.3%で、「ほぼ毎日吸っている」が7.4%、「時々吸っている」が1.9%となっています。

喫煙の状況を性別に見ると、「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」、「吸っていたがやめた」はそれぞれ男性の方が高く、特に「吸っていたがやめた」は男性の45.8%を占めています。また、女性では「もともと吸っていない」が87.6%であり、8割を超える女性が喫煙経験はないと回答しています。



### 喫煙の状況（性別、年齢別）

	回答者 実数	ほぼ毎日 吸っている	時々 吸っている	吸っていたが やめた	もともと 吸っていない	無回答
男性	1,140人	13.0% (148人)	3.1% (35人)	45.8% (522人)	36.5% (416人)	1.7% (19人)
女性	1,275人	2.4% (30人)	0.9% (11人)	6.0% (77人)	87.6% (1,117人)	3.1% (40人)
65歳～69歳	717人	11.6% (83人)	2.4% (17人)	28.3% (203人)	56.1% (402人)	1.7% (12人)
70歳～74歳	588人	8.7% (51人)	3.1% (18人)	22.6% (133人)	63.9% (376人)	1.7% (10人)
75歳～79歳	482人	5.2% (25人)	1.0% (5人)	26.8% (129人)	63.7% (307人)	3.3% (16人)
80歳～84歳	367人	3.5% (13人)	1.4% (5人)	20.7% (76人)	71.4% (262人)	3.0% (11人)
85歳以上	261人	2.3% (6人)	0.4% (1人)	22.2% (58人)	71.3% (186人)	3.8% (10人)

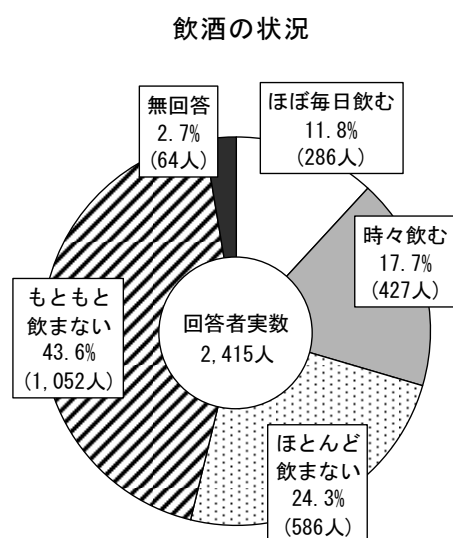
### ②飲酒の状況

喫煙について見ると、「もともと飲まない」が43.6%であり、4割余りが飲酒経験なしと回答しています。これに次いで「ほとんど飲まない」が24.3%であり、飲酒しない人とほとんど飲まない人を合わせると7割近くとなります。

「ほぼ毎日飲む」は11.8%、「時々飲む」は17.7%で、これら2つを合わせると飲酒する人は29.5%で約3割を占めています。

性別に見ると、「ほぼ毎日飲む」、「時々飲む」は男性の方が女性より高く、また「ほとんど飲まない」も男性の方がやや高くなっています。「もともと飲まない」は女性の方が高く、女性の6割半ばを占めています。

年齢別に見ると、飲酒者は65歳～69歳が最も高く、年齢が上がるとともに飲酒する割合は下がる傾向にあります。また、「ほとんど飲まない」は各世代の差はあまりなく、「もともと飲まない」は年代が上がると割合も上がっています。



### 喫煙の状況（性別、年齢別）

	回答者 実数	ほぼ毎日 飲む	時々 飲む	ほとんど 飲まない	もともと 飲まない	無回答
男性	1,140人	22.4% (255人)	28.6% (326人)	28.8% (328人)	18.2% (207人)	2.1% (24人)
女性	1,275人	2.4% (31人)	7.9% (101人)	20.2% (258人)	66.3% (845人)	3.1% (40人)
65歳～69歳	717人	14.6% (105人)	23.2% (166人)	25.5% (183人)	35.0% (251人)	1.7% (12人)
70歳～74歳	588人	13.8% (81人)	18.9% (111人)	24.3% (143人)	41.0% (241人)	2.0% (12人)
75歳～79歳	482人	11.6% (56人)	16.2% (78人)	25.7% (124人)	43.4% (209人)	3.1% (15人)
80歳～84歳	367人	7.9% (29人)	13.1% (48人)	22.6% (83人)	53.1% (195人)	3.3% (12人)
85歳以上	261人	5.7% (15人)	9.2% (24人)	20.3% (53人)	59.8% (156人)	5.0% (13人)

## (7) 疾病の状況

### ① 全体的な状況

疾病の状況を見ると、「高血圧」が 47.2%を占めており、他の疾病と比べて圧倒的に高くなっています。高血圧以外では、「糖尿病」、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」、「目の病気」が1割台で比較的高いです。

疾病について、一般高齢者と総合事業対象者別に見ると、一般高齢者、総合事業対象者ともに「高血圧」の割合が最も高く、一般高齢者の4割半ば、総合事業対象者の5割余りを占めています。また、総合事業対象者では、「目の病気」と「糖尿病」、「筋骨格の病気」が2割前後で一般高齢者より高くなっています。

高血圧の予防対策はもとより、転倒予防をはじめとした筋骨格の病気予防、糖尿病や目の病気の予防を元気なうちから行うことが肝要です。

### 疾病の状況（総合事業対象者一般高齢者別）

	回答者 実数	ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の病 気(肺炎や気 管支炎等)
全体	2,415人	16.1% (390人)	47.2% (1,139人)	3.4% (81人)	9.6% (231人)	13.5% (326人)	9.9% (239人)	5.3% (129人)
総合事業 対象者	686人	9.0% (62人)	53.1% (364人)	7.3% (50人)	13.7% (94人)	18.7% (128人)	11.1% (76人)	7.9% (54人)
一般高齢者	1,565人	19.8% (310人)	44.6% (698人)	1.9% (29人)	7.6% (119人)	10.8% (169人)	9.8% (154人)	4.4% (69人)

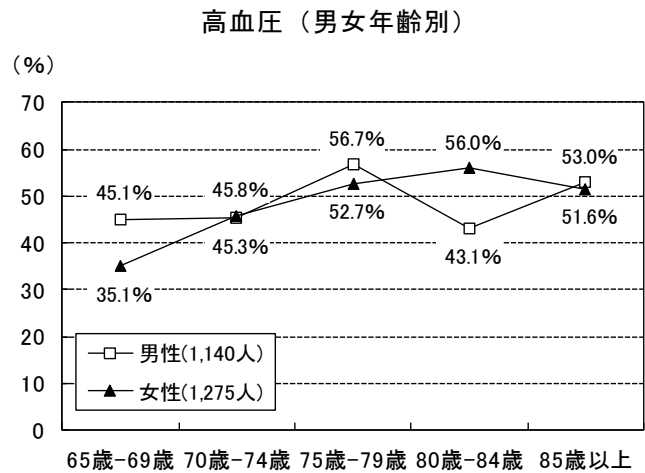
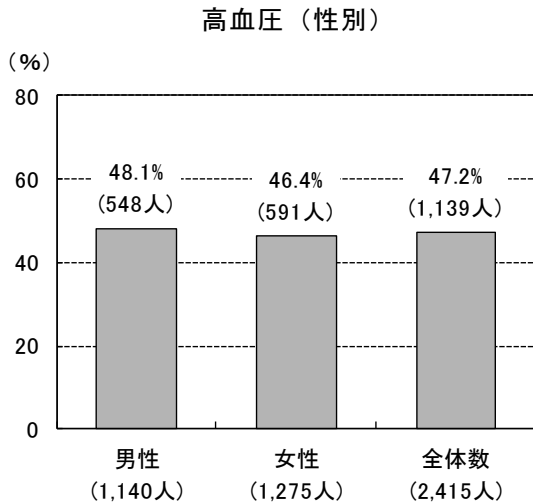
	回答者 実数	胃腸・肝 臓・胆の うの病気	腎臓・前立 腺の病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症 等)	外傷 (転倒・骨 折等)	がん (悪性新生物)	血液・免 疫の病気	うつ病
全体	2,415人	4.0% (96人)	7.3% (177人)	11.3% (272人)	4.0% (97人)	3.3% (80人)	1.0% (24人)	1.4% (35人)
総合事業 対象者	686人	5.5% (38人)	10.3% (71人)	18.5% (127人)	7.9% (54人)	4.5% (31人)	1.0% (7人)	2.6% (18人)
一般高齢者	1,565人	2.9% (46人)	6.1% (95人)	8.1% (127人)	2.0% (31人)	2.9% (45人)	1.0% (16人)	1.0% (15人)

	回答者 実数	認知症 (アルツハイ マー病等)	パーキン ソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体	2,415人	1.0% (23人)	0.5% (12人)	18.5% (447人)	8.0% (193人)	10.2% (246人)	5.9% (142人)
総合事業 対象者	686人	2.6% (18人)	1.2% (8人)	22.4% (154人)	12.2% (84人)	13.8% (95人)	3.4% (23人)
一般高齢者	1,565人	0.1% (2人)	0.2% (3人)	16.5% (258人)	5.8% (90人)	9.0% (141人)	6.1% (96人)

## ②高血圧

高血圧の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は48.1%、女性は46.4%であり、男女の差はほとんどありません。

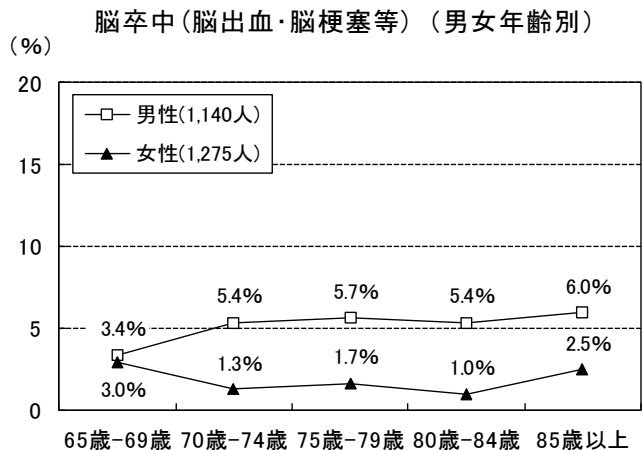
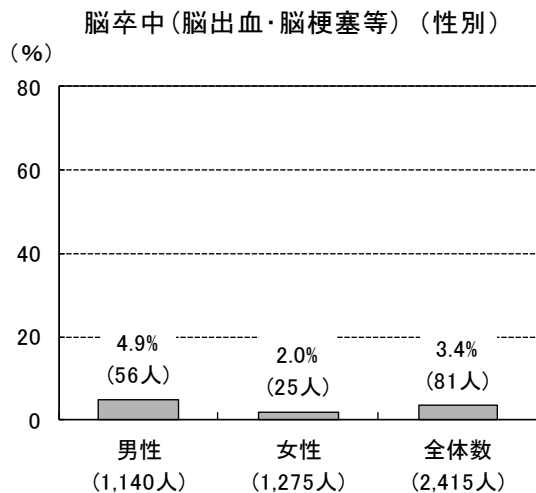
性別年齢別に見ると、男性は75歳～79歳と85歳以上で5割半ばとなっており、65歳～74歳の世代と80歳～84歳では4割半ばとなっています。女性では、65歳～69歳は3割半ばとなっていますが、年齢が上がるとともに割合も上昇する傾向にあり、80歳～84歳では5割半ばとなっています。



## ③脳卒中（脳出血・脳梗塞等）

脳卒中の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は4.9%、女性は2.0%であり、僅かながら男性の方が高くなっています。

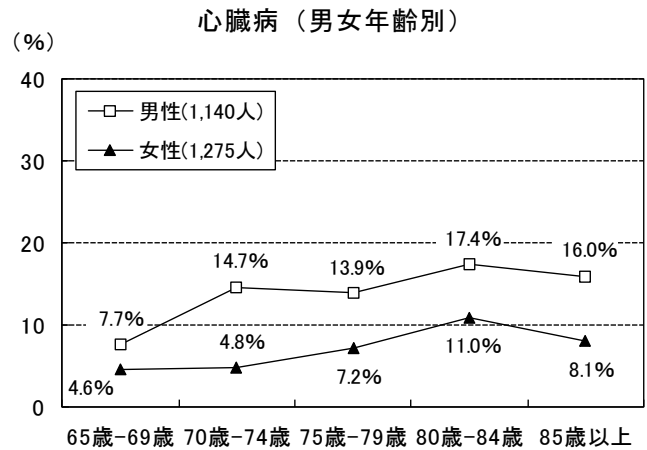
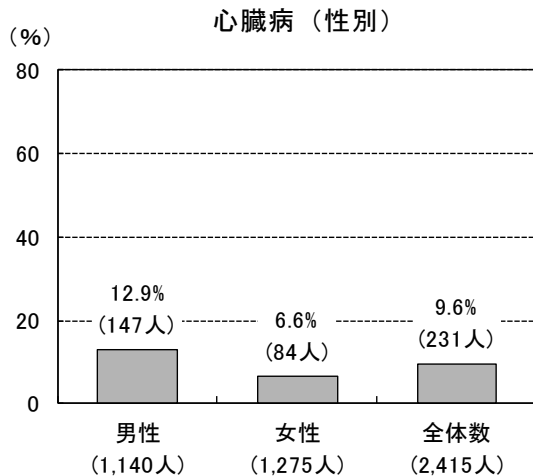
性別年齢別に見ると、男性は70歳～74歳以降5%台と横ばいで推移しています。女性では、65歳～69歳は3.0%、70歳～84歳までの各世代が1%台、85歳以上では2%台となっています。



#### ④心臓病

心臓病の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は12.9%、女性は6.6%であり、僅かながら男性の方が高くなっています。

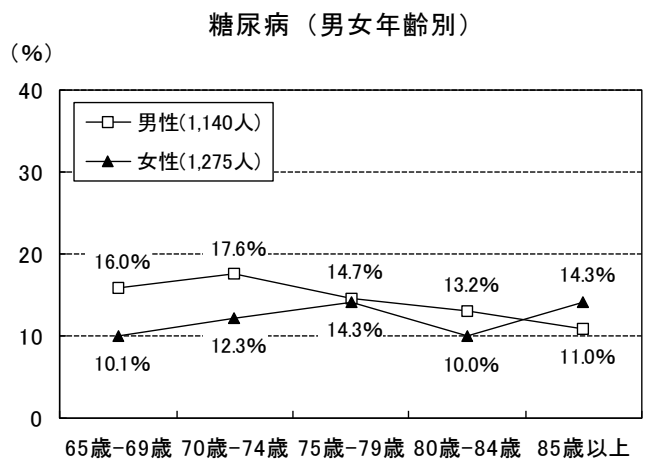
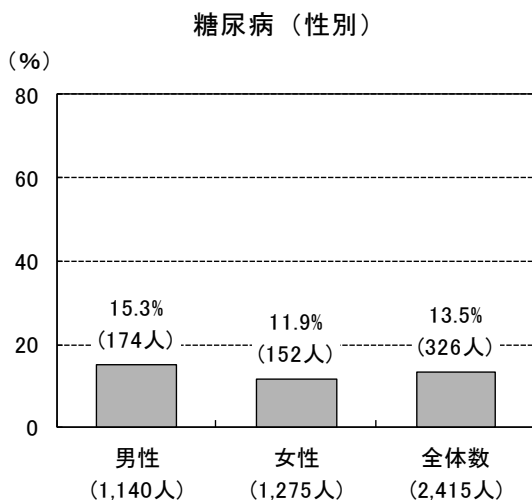
性別年齢別に見ると、男性は65歳～69歳は7.7%であり、その他の年代は15%前後で推移しています。女性では、65歳～69歳では4.6%であり、以降、80歳～84歳まで年代が上がるるとともに割合がやや高くなる傾向にあります。



#### ⑤糖尿病

糖尿病の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は15.3%、女性は11.9%であり、やや男性の方が高くなっています。

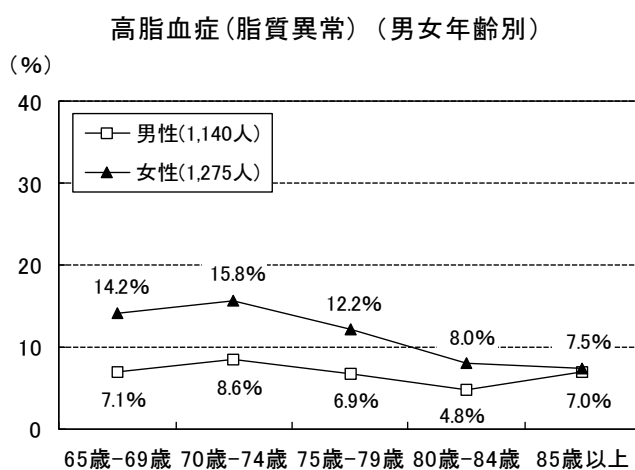
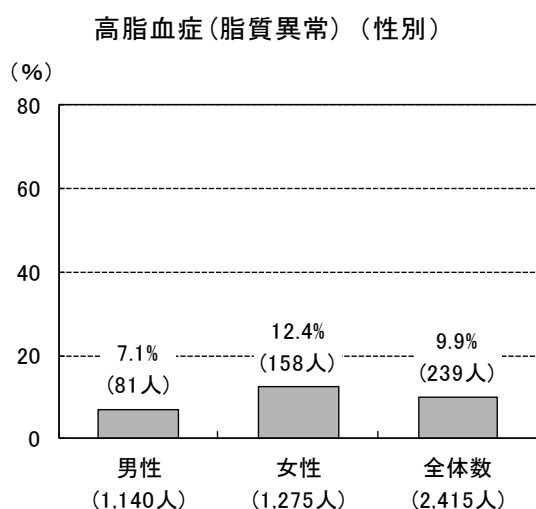
性別年齢別に見ると、男性は75歳～79歳の17.6%が最も高く、以降、年齢が上がると減少する傾向となっています。女性では、65歳～79歳まで年齢が上がるとともに割合が上昇する傾向で推移し、80歳～84歳では10.0%に下がるが、85歳以上では14.3%に再上昇しています。



## ⑥高脂血症（脂質異常）

高脂血症の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は7.1%、女性は12.4%であり、やや女性の方が高くなっています。

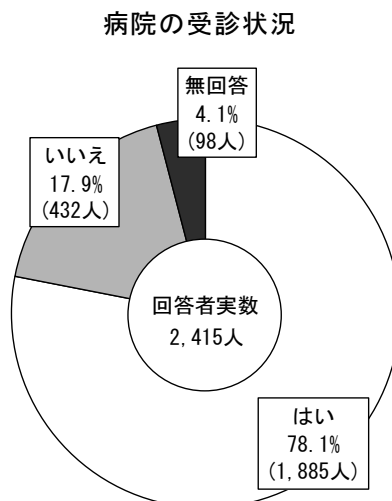
性別年齢別に見ると、各年代とも女性の方が男性を上回っています。また、男女とも年代が上がる割合は概ね減少する傾向にあります。男性は70歳～74歳では8.6%ですが、85歳以上では7.0%となっています。女性では、70歳～74歳の15.8%が85歳以上では7.5%に半減しています。



## (8) 病院の受診

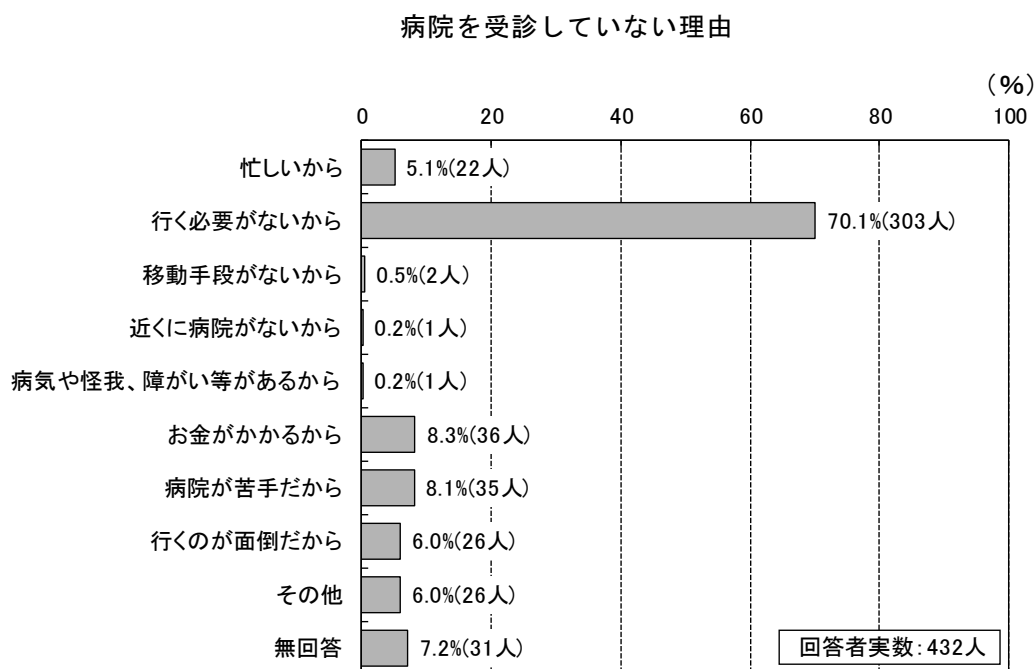
### ① 病院の受診状況

病院の受診状況について尋ねたところ、「はい(受診している)」が78.1%、「いいえ(受診していない)」が17.9%となっており、8割弱が病院で治療を受けています。



### ② 病院を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に病院を受診していない理由について尋ねると、「行く必要がないから」が70.1%と圧倒的に高くなっています。「お金がないから」、「病院が苦手だから」が8.1%とその他の理由は10%未満となっています。

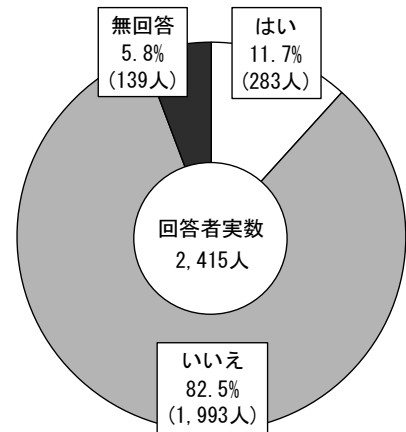


## 8. 認知症にかかる相談窓口の把握について

### (1) 家族に認知症の方がいるか

家族に認知症の方がいるか尋ねたところ、「いいえ」いう回答が82.5%と大半を占めています。「はい」は11.7%となっており、約1割の人が家族に認知症の方がいると答えています。

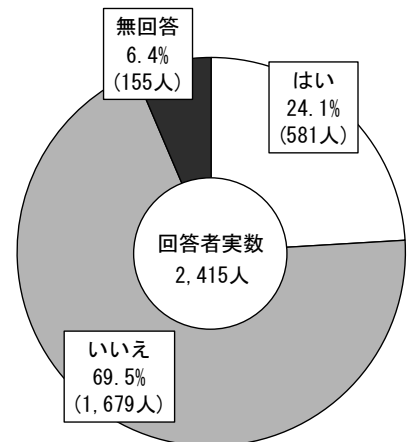
家族に認知症の方がいるか



### (2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

認知症に関する相談窓口の認知について尋ねたところ、「はい(知っている)」という回答は24.1%であり、相談窓口を知っている人は、およそ4人に1人となっています。反対に、「いいえ(知らない)」は69.5%であり、約7割の人は認知症に関する相談窓口について知らないとなっています。

認知症に関する  
相談窓口を知っているか

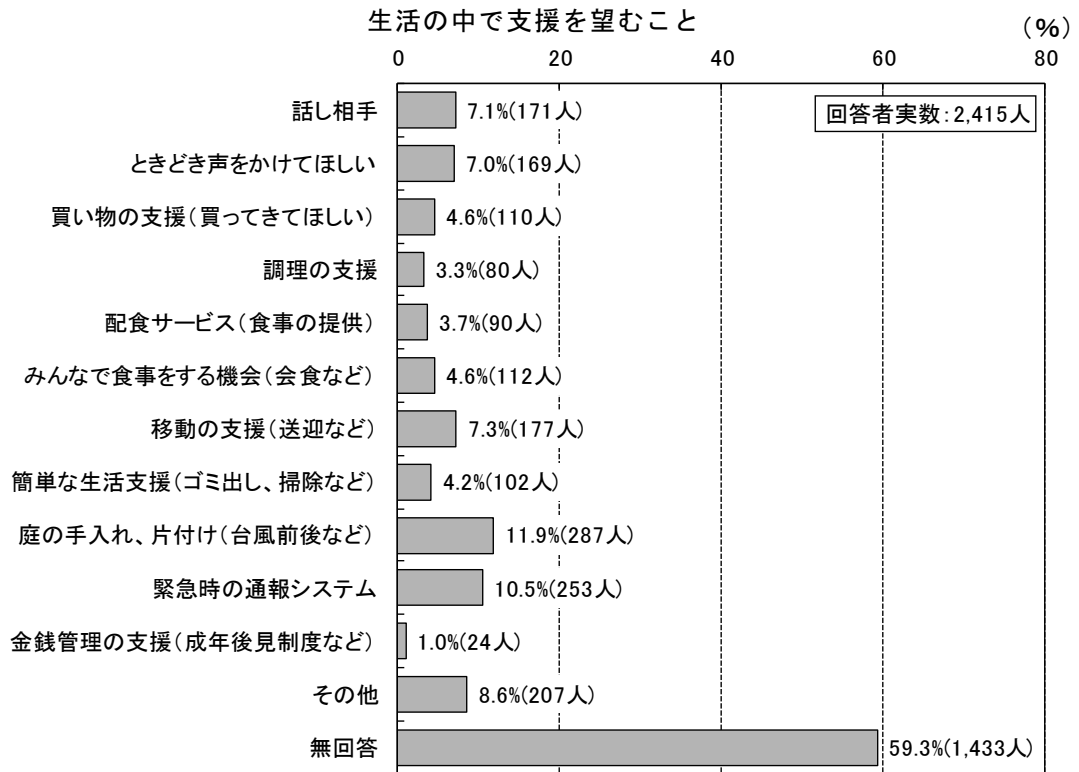




## 9. その他

### (1) 生活の中で支援を望むこと

生活の中で支援を望むことを尋ねたところ、「庭の手入れ、片付け(台風前後など)」(11.9%)、「緊急時の通報システム」(10.5%)が比較的高くなっています。



一般高齢者と総合事業対象者を比べると、支援を望む声は全般的に総合事業対象者の方で高くなっています。中でも、「庭の手入れ、片づけ(台風前後など)」や「移動の支援(送迎など)」、「話し相手」では、総合事業対象者と一般高齢者との差が10ポイント程度あり、他の支援希望との差より大きくなっています。

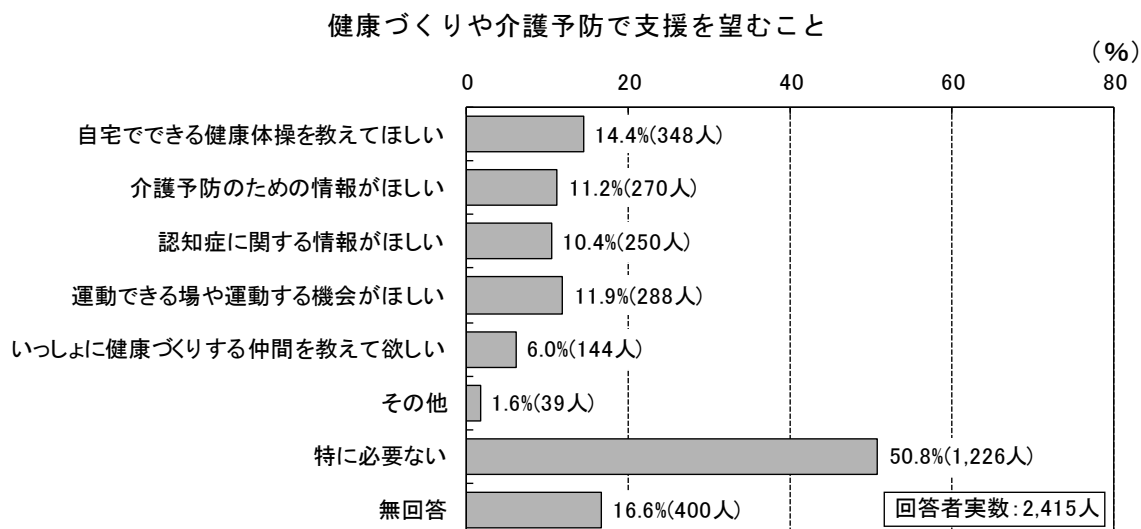
#### 生活の中で支援を望むこと (総合事業対象者・一般高齢者別)

	回答者実数	話し相手	ときどき声をかけてほしい	買い物の支援(買ってきてほしい)	調理の支援	配食サービス(食事の提供)	みんなで食事をする機会(会食など)	移動の支援(送迎など)
総合事業対象者	686人	13.7% (94人)	12.8% (88人)	10.5% (72人)	6.9% (47人)	7.9% (54人)	8.5% (58人)	14.9% (102人)
一般高齢者	1,565人	4.0% (63人)	4.3% (68人)	1.9% (29人)	1.8% (28人)	2.1% (33人)	2.7% (43人)	3.8% (59人)
「総合事業」と「一般高齢者」の差		9.7	8.5	8.6	5.1	5.8	5.8	11.1

	回答者実数	簡単な生活支援(ゴミ出し、掃除など)	庭の手入れ、片付け(台風前後など)	緊急時の通報システム	金銭管理の支援(成年後見制度など)	その他	無回答
総合事業対象者	686人	9.5% (65人)	20.0% (137人)	14.7% (101人)	2.3% (16人)	7.7% (53人)	43.0% (295人)
一般高齢者	1,565人	1.5% (24人)	8.6% (135人)	8.9% (139人)	0.4% (7人)	9.4% (147人)	66.1% (1,034人)
「総合事業」と「一般高齢者」の差		8.0	11.4	5.8	1.9	-1.7	-23.1

## (2) 健康づくりや介護予防で支援を望むこと

健康づくりや介護予防で支援を望むことを尋ねたところ、「自宅でできる健康体操を教えてほしい」が 14.4%で比較的高くなっています。なお、「特に必要ない」という回答が約5割を占めています。



一般高齢者と総合事業対象者別に見ると、前項目で総合事業対象者の割合が高く、また「特に必要ない」という回答が総合事業対象者の方で一般高齢者を下回っています。一般高齢者と比べ、総合事業対象者の方が介護予防に関心があると見られます。

支援を望むこととしては、総合事業対象者では「自宅でできる健康体操を教えてほしい」が最も高く 20.3%となっています。また、「介護予防のための情報がほしい」が 17.8%あり、これについては一般高齢者と比べて 9.4 ポイント高く、項目の中では最も差があります。その他「認知症に関する情報がほしい」も総合事業対象者では 1 割半ばの割合となっています。

### 健康づくりや介護予防で支援を望むこと（総合事業対象者・一般高齢者別）

	回答者実数	自宅でできる健康体操を教えてほしい	介護予防のための情報がほしい	認知症に関する情報がほしい	運動できる場や運動する機会がほしい	いっしょに健康づくりする仲間を教えて欲しい	その他	特に必要ない	無回答
総合事業対象者	686人	20.3% (139人)	17.8% (122人)	16.9% (116人)	14.6% (100人)	9.5% (65人)	2.3% (16人)	41.4% (284人)	14.3% (98人)
一般高齢者	1,565人	12.3% (192人)	8.4% (132人)	7.9% (123人)	10.7% (168人)	4.5% (71人)	1.3% (20人)	57.3% (897人)	14.8% (232人)
「総合事業」と「一般高齢者」の差		8.0	9.4	9.0	3.9	5.0	1.0	-15.9	-0.5

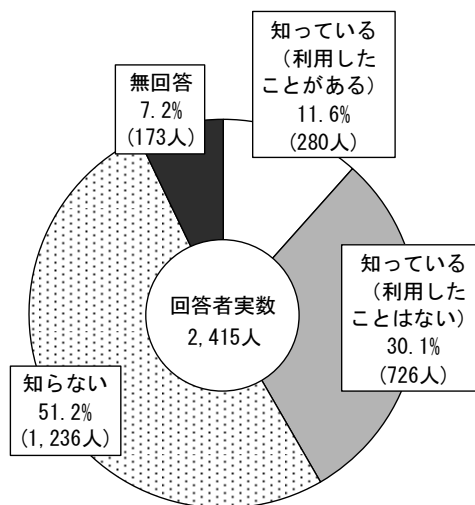
### (3) 相談先

#### ①地域包括支援センター

介護や医療、保健、福祉など様々な側面から高齢者を支えるための総合相談ができる地域包括支援センターについて尋ねたところ、「知っている」の回答は41.7%であり、そのうち実際に「利用したことがある」は11.6%となっています

また、地域包括支援センターを「知らない」と回答した割合は51.2%と半数以上を占めています。

地域包括支援センター

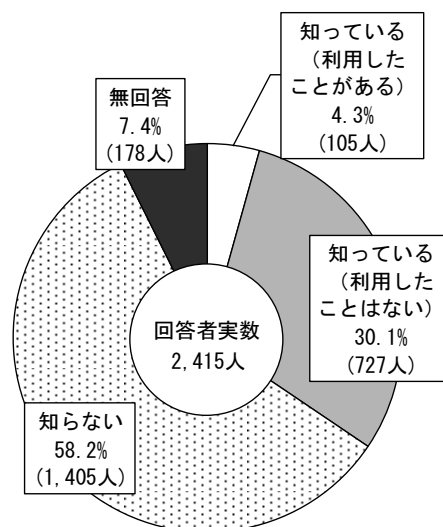


#### ②ふれあい総合相談支援センター

身近な地域で健康や福祉に関する総合的な相談を受けたり、生活に必要な情報を入手することができる、ふれあい総合相談支援センターについて尋ねると、「知っている」と回答した人は34.4%であり、そのうち「利用したことがある」は4.3%となっています。

また、ふれあい総合支援センターについて「知らない」と回答した割合は58.2%と6割近くとなっています。

ふれあい総合相談支援センター

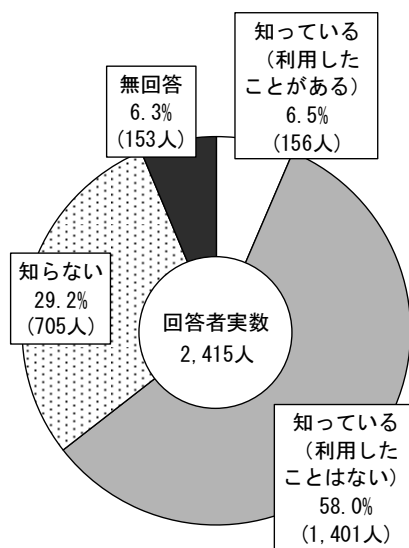


### ③ 民生委員・児童委員

地域の身近な相談相手として、生活に関する助言や福祉サービスの情報提供などの援助を行う民生委員について尋ねると、「知っている」の回答が64.5%と6割半ばを占め、そのうちの「利用したことがある」は6.5%となっています。

また、民生委員について「知らない」と回答した割合は29.2%と約3割を占めています。

民生委員・児童委員



## 10. 圏域別リスク者等の状況

### (1) 前期高齢者と後期高齢者

前期高齢者と後期高齢者の割合について圏域別に比べると、「具志川西圏域」と「与勝第2圏域」では後期高齢者が多く、それ以外の圏域では前期高齢者が多くなっています。

#### 前期高齢者後期高齢者

	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全体	2,415 人	54.0% (1,305 人)	46.0% (1,110 人)
石川圏域	402 人	54.0% (217 人)	46.0% (185 人)
具志川北圏域	355 人	55.8% (198 人)	44.2% (157 人)
具志川東圏域	307 人	58.0% (178 人)	42.0% (129 人)
具志川西圏域	402 人	48.3% (194 人)	51.7% (208 人)
具志川南圏域	406 人	56.2% (228 人)	43.8% (178 人)
与勝第1圏域	302 人	57.0% (172 人)	43.0% (130 人)
与勝第2圏域	241 人	49.0% (118 人)	51.0% (123 人)

### (2) 総合事業対象者

要介護状態に陥る恐れのある総合事業対象者については、与勝第2圏域が3.1ポイントほど市全体の割合を上回っているほか、具志川南圏域も0.7ポイントと僅かながら上回っています。

#### 総合事業対象者

	リスクあり
全体	28.4% (686 人)
石川圏域	26.4% (106 人)
具志川北圏域	28.5% (101 人)
具志川東圏域	27.4% (84 人)
具志川西圏域	28.9% (116 人)
具志川南圏域	29.1% (118 人)
与勝第1圏域	28.1% (85 人)
与勝第2圏域	31.5% (76 人)

### (3) 世帯の状況

世帯の状況を圏域別に見ると、「1人暮らし」は与勝第2圏域が22.8%で最も高く、次いで石川圏域の21.6%となっています。「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」は石川圏域と具志川東圏域が30.6%で他の圏域より高いです。また、「配偶者以外と2人暮らし」は具志川西圏域では「3人以上の同居世帯」は、与勝第1圏域が他の圏域よりやや高くなっています。

世帯構成は、市全体と各圏域の大きな差はありませんが、やや圏域別の特徴が見られます。

#### 世帯の状況

	回答者 実数	1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	配偶者以外と2人暮らし	3人以上の同居世帯	その他	無回答
全体	2,415人	19.1% (461人)	28.5% (689人)	3.8% (92人)	9.4% (227人)	31.0% (748人)	4.1% (98人)	4.1% (100人)
石川圏域	402人	21.6% (87人)	30.6% (123人)	4.7% (19人)	9.2% (37人)	25.4% (102人)	5.0% (20人)	3.5% (14人)
具志川北圏域	355人	18.0% (64人)	29.3% (104人)	3.7% (13人)	7.9% (28人)	31.3% (111人)	3.7% (13人)	6.2% (22人)
具志川東圏域	307人	15.3% (47人)	30.6% (94人)	3.3% (10人)	8.8% (27人)	34.5% (106人)	4.2% (13人)	3.3% (10人)
具志川西圏域	402人	18.2% (73人)	28.6% (115人)	3.2% (13人)	13.7% (55人)	29.1% (117人)	4.5% (18人)	2.7% (11人)
具志川南圏域	406人	19.0% (77人)	27.1% (110人)	4.4% (18人)	7.6% (31人)	33.0% (134人)	3.4% (14人)	5.4% (22人)
与勝第1圏域	302人	19.2% (58人)	26.8% (81人)	3.6% (11人)	7.0% (21人)	36.4% (110人)	3.3% (10人)	3.6% (11人)
与勝第2圏域	241人	22.8% (55人)	25.7% (62人)	3.3% (8人)	11.6% (28人)	28.2% (68人)	4.1% (10人)	4.1% (10人)

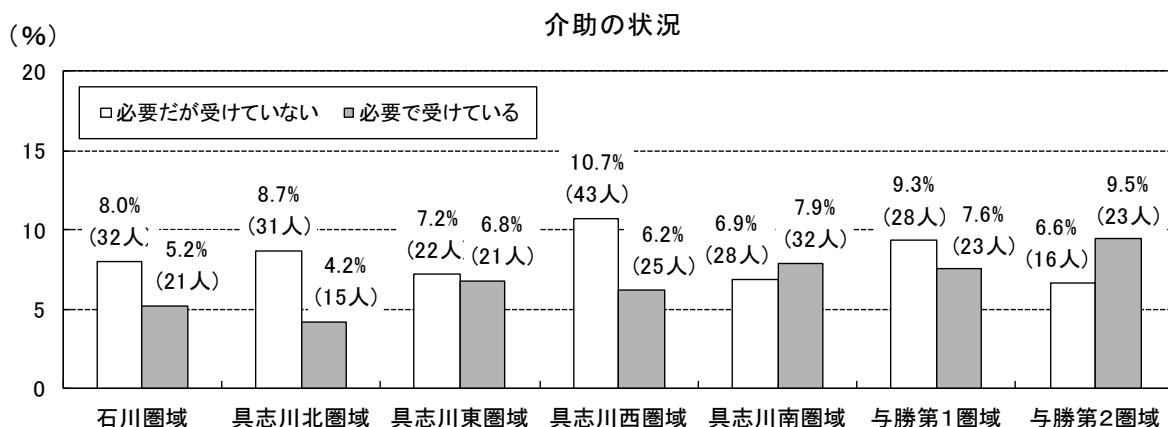
### (4) 介助の状況

介助を必要としている人の割合について見ると、「何らかの介護を受けている」という回答は与勝第2圏域が9.5%で、他の圏域と比べて僅かながら高いです。

「必要だが受けていない」という回答は、具志川西圏域が10.7%でその他の圏域より高くなっています。

#### 介助の状況

	回答者 実数	介護・介助は 必要ない	何らかの介護・介助 は必要だが、現在 は受けていない	現在、何らかの 介護を受けている	無回答
全体	2,415人	79.8% (1,926人)	8.3% (200人)	6.6% (160人)	5.3% (129人)
石川圏域	402人	80.3% (323人)	8.0% (32人)	5.2% (21人)	6.5% (26人)
具志川北圏域	355人	81.4% (289人)	8.7% (31人)	4.2% (15人)	5.6% (20人)
具志川東圏域	307人	82.1% (252人)	7.2% (22人)	6.8% (21人)	3.9% (12人)
具志川西圏域	402人	78.4% (315人)	10.7% (43人)	6.2% (25人)	4.7% (19人)
具志川南圏域	406人	80.3% (326人)	6.9% (28人)	7.9% (32人)	4.9% (20人)
与勝第1圏域	302人	77.8% (235人)	9.3% (28人)	7.6% (23人)	5.3% (16人)
与勝第2圏域	241人	77.2% (186人)	6.6% (16人)	9.5% (23人)	6.6% (16人)



### (5) 介護・介助が必要になった原因疾患

介護や介助が必要になった原因疾患を見ると、市全体では「高齢による衰弱」が16.9%、「骨折・転倒」が16.4%、「その他」が14.4%の順で高くなっています。

圏域別では、具志川北圏域、具志川南圏域、与勝第2圏域では「高齢による衰弱」が最も高くなっています。この原因疾患については、具志川東圏域、与勝第1圏域でも2番目に高く介護・介助が必要となる大きな原因になっていることがわかります。

また、「骨折・転倒」は具志川東圏域と具志川西圏域が第1位であるほか、石川圏域、具志川北圏域、具志川南圏域、与勝第2圏域で第2位にあがっており、高齢による衰弱と合わせて大きな原因となっています。

なお、本調査は要介護認定の要介護1～要介護5の人を除いた高齢者を対象としているため、これらの原因疾患は要支援1または要支援2の人が主たる回答者となります。このため、ここに挙げられている原因疾患は、「要支援になった原因疾患」が多いものと考えられます。

#### 介護・介助が必要になった原因疾患

	1位	2位	3位
うるま市	高齢による衰弱 16.9% (61人)	骨折・転倒 16.4% (59人)	その他 14.4% (52人)
石川圏域	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) その他 15.1% (8人)	認知症(アルツハイマー病等) 骨折・転倒 11.3% (6人)	心臓病 高齢による衰弱 9.4% (5人)
具志川北圏域	高齢による衰弱 23.9% (11人)	骨折・転倒 17.4% (8人)	糖尿病 15.2% (7人)
具志川東圏域	骨折・転倒 18.6% (8人)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 高齢による衰弱 16.3% (7人)	心臓病 糖尿病 14.0% (6人)
具志川西圏域	骨折・転倒 その他 16.2% (11人)	心臓病 14.7% (10人)	糖尿病 13.2% (9人)
具志川南圏域	高齢による衰弱 21.7% (13人)	骨折・転倒 20.0% (12人)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 18.3% (11人)
与勝第1圏域	その他 23.5% (12人)	高齢による衰弱 19.6% (10人)	関節の病気(リウマチ等) 17.6% (9人)
与勝第2圏域	高齢による衰弱 23.1% (9人)	骨折・転倒 20.5% (8人)	その他 15.4% (6人)

## (6) 就労、外出・移動の状況

仕事をしている高齢者は、市全体では 18.3% となっています。圏域別に見ると、石川圏域が 21.1%、具志川南圏域が 20.9%、具志川南圏域が 20.6% と他圏域に比べて高くなっています。

外出を比較的多くしている人(週 1 回以上の外出者)は、市全体では 91.1% となっています。圏域別に見ると、具志川北圏域、具志川西圏域、具志川東圏域、具志川南圏域が市の値を上回っています。

買い物をしている人の割合は、市全体では 80.7% となっています。圏域別に見ると、石川圏域、具志川北圏域、具志川東圏域で市の値よりやや高いです。

なお、与勝第 1 圏域と与勝第 2 圏域では、仕事、外出、買い物の 3 項目とも市全体よりやや低くなっています。

移動手段について見ると、市全体では「自動車(自分で運転)」が 58.7% で 6 割近くを占め、「徒歩」(33.8%) と「自動車(人に乗せてもらう)」(30.3%) がそれぞれ 3 割余りとなっています。圏域別に見ると、各圏域とも「自動車(自分で運転)」がもっとも高く、特に与勝第 2 圏域と具志川南圏域と具志川東圏域では市全体の値を上回っています。また、第 2 位には、与勝第 1 圏域、与勝第 2 圏域、具志川東圏域では「自動車(人に乗せてもらう)」、石川圏域、具志川北圏域、具志川西圏域、具志川南圏域は「徒歩」となっており、地域差が見られます。特に「人に乗せてもらう」は与勝第 1 圏域、与勝第 2 圏域で 4 割近くを占めています。

### 就労、外出・移動の状況

	回答者 実数	仕事をして いる人	週 1 回以上 の外出者	買い物 (できるし、 している)	移動手段		
					1 位	2 位	3 位
全体	2,415 人	18.3% (442 人)	91.1% (2,199 人)	80.7% (1,950 人)	自動車 (自分で運転) 58.7%(1,418 人)	徒歩 33.8%(817 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 30.3%(732 人)
石川圏域	402 人	21.1% ( 85 人)	89.8% (361 人)	81.3% (327 人)	自動車 (自分で運転) 63.7%(256 人)	徒歩 37.6%(151 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 23.4%( 94 人)
具志川北圏域	355 人	17.2% ( 61 人)	93.2% (331 人)	82.8% (294 人)	自動車 (自分で運転) 56.1%(199 人)	徒歩 39.4%(140 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 35.8%(127 人)
具志川東圏域	307 人	16.0% ( 49 人)	92.2% (283 人)	83.7% (257 人)	自動車 (自分で運転) 61.9%(190 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 31.9%( 98 人)	徒歩 28.0%( 86 人)
具志川西圏域	402 人	20.6% ( 83 人)	92.5% (372 人)	80.6% (324 人)	自動車 (自分で運転) 57.2%(230 人)	徒歩 36.1%(145 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 27.9%(112 人)
具志川南圏域	406 人	20.9% ( 85 人)	92.1% (374 人)	80.8% (328 人)	自動車 (自分で運転) 62.6%(254 人)	徒歩 36.0%(146 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 24.1%( 98 人)
与勝第 1 圏域	302 人	15.6% ( 47 人)	90.7% (274 人)	77.8% (235 人)	自動車 (自分で運転) 55.0%(166 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 37.4%(113 人)	徒歩 28.1%( 85 人)
与勝第 2 圏域	241 人	13.3% ( 32 人)	84.6% (204 人)	76.8% (185 人)	自動車 (自分で運転) 51.0%(123 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 37.3%( 90 人)	徒歩 26.6%( 64 人)



## (7) 地域活動への参加

各種地域活動への参加状況を圏域別に見ると、石川圏域では、「趣味関係のグループ」が2割半ばで最も高いほか、「自治会」、「収入のある仕事」の割合も約2割あり、市全体と比べてやや高くなっています。

具志川北圏域では、「自治会」が3割近くを占め最も高いほか、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「老人クラブ」、「介護予防のための通いの場」が市全体の値より高くなっています。

具志川西圏域では、「趣味関係のグループ」が3割を占め最も高くなっています。

具志川南圏域では、「自治会」、「収入のある仕事」が2割を占めています。

与勝第2圏域では「介護予防のための通いの場」を除く全ての項目、与勝第1圏域では、「ボランティアのグループ」を除く全ての項目で市全体の値を下回っており、他圏域に比べて活動への参加がやや消極的な傾向がうかがえます。

### 地域活動への参加

	回答者 実数	ボラン ティアのグ ループ	スポー ツ関 係のグ ループ や クラブ	趣味関 係のグ ループ	学習・教 養サー クル	介護予 防のた めの通 いの場	老人ク ラブ	自治会	収入の ある 仕事
全体	2,415人	13.7% (330人)	19.3% (465人)	25.7% (621人)	8.0% (192人)	12.3% (297人)	13.1% (316人)	20.6% (498人)	18.3% (442人)
石川圏域	402人	13.7% (55人)	21.9% (88人)	27.6% (111人)	10.9% (44人)	11.7% (47人)	14.4% (58人)	22.6% (91人)	21.1% (85人)
具志川北圏域	355人	16.1% (57人)	24.8% (88人)	27.0% (96人)	11.3% (40人)	15.2% (54人)	19.2% (68人)	29.0% (103人)	17.2% (61人)
具志川東圏域	307人	14.7% (45人)	19.5% (60人)	25.1% (77人)	5.9% (18人)	11.1% (34人)	12.7% (39人)	17.3% (53人)	16.0% (49人)
具志川西圏域	402人	14.4% (58人)	20.6% (83人)	33.1% (133人)	8.5% (34人)	10.9% (44人)	15.4% (62人)	19.7% (79人)	20.6% (83人)
具志川南圏域	406人	11.6% (47人)	17.2% (70人)	25.9% (105人)	7.9% (32人)	11.8% (48人)	7.6% (31人)	22.4% (91人)	20.9% (85人)
与勝第1圏域	302人	14.6% (44人)	15.6% (47人)	18.9% (57人)	5.0% (15人)	12.3% (37人)	8.9% (27人)	10.9% (33人)	15.6% (47人)
与勝第2圏域	241人	10.0% (24人)	12.0% (29人)	17.4% (42人)	3.7% (9人)	13.7% (33人)	12.9% (31人)	19.9% (48人)	13.3% (32人)

## (8) リスク者割合の比較

リスク者の割合について見ると、市全体では、「社会的役割の低下」が最も高く49.0%、次いで「知的能動性の低下」の47.7%となっています。そのほか、「認知機能の低下」と「うつ傾向」がそれぞれ3割半ばで比較的高くなっています。

圏域別に見ると、石川圏域では、ほとんどの項目で市全体のリスク者割合を僅かに下回っていますが、「うつ傾向」では、他圏域と比べ高くなっています。

具志川北圏域は、全般的に市全体の値と同率か僅かに低いリスク者割合となっていますが、「知的能動性の低下」では僅かながら市の値を上回っています。

具志川東圏域も全般的に市全体の値と同率か僅かに低いリスク者割合となっていますが、「運動機能低下」、「社会的役割の低下」では、僅かながら市の値を上回っています。

具志川西圏域は、「総合事業」、「転倒リスク」、「口腔機能低下」、「うつ傾向」、「認知機能低下」、

「社会的役割の低下」の項目で市の値を上回っています。特に、「うつ傾向」は、他の圏域に比べ最も高くなっています。

具志川南圏域は、「総合事業」、「低栄養の傾向」、「認知機能低下」、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」の項目で市の値を上回っています。特に、「低栄養の傾向」、「認知機能低下」、「社会的役割の低下」は、他の圏域に比べ最も高くなっています。

与勝第1圏域は、ほとんどの項目で市の値を上回っております。特に、「知的能動性の低下」は5割半ばを占めています。

与勝第2圏域もほとんどの項目で市の値を上回っており、特に、「総合事業」、「運動機能低下」、「閉じこもり傾向」、「口腔機能低下」、「IADLの低下」は他の圏域に比べ最も高くなっています。

### リスク者割合の比較

	回答者実数	総合事業	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
全体	2,415人	28.4% (686人)	18.0% (435人)	28.7% (692人)	19.4% (468人)	0.7% (17人)	20.2% (488人)
石川圏域	402人	26.4% (106人)	15.4% (62人)	26.9% (108人)	17.9% (72人)	0.2% (1人)	19.4% (78人)
具志川北圏域	355人	28.5% (101人)	16.3% (58人)	26.5% (94人)	17.5% (62人)	0.0% (0人)	19.7% (70人)
具志川東圏域	307人	27.4% (84人)	18.6% (57人)	28.7% (88人)	17.3% (53人)	0.7% (2人)	18.9% (58人)
具志川西圏域	402人	28.9% (116人)	16.7% (67人)	29.1% (117人)	16.7% (67人)	1.2% (5人)	21.4% (86人)
具志川南圏域	406人	29.1% (118人)	17.2% (70人)	28.1% (114人)	17.7% (72人)	1.7% (7人)	19.2% (78人)
与勝第1圏域	302人	28.1% (85人)	21.5% (65人)	33.1% (100人)	22.8% (69人)	0.7% (2人)	20.2% (61人)
与勝第2圏域	241人	31.5% (76人)	23.2% (56人)	29.5% (71人)	30.3% (73人)	0.0% (0人)	23.7% (57人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,415人	34.9% (843人)	36.3% (877人)	17.6% (426人)	47.7% (1,153人)	49.0% (1,184人)
石川圏域	402人	37.6% (151人)	34.6% (139人)	14.2% (57人)	39.6% (159人)	45.0% (181人)
具志川北圏域	355人	33.2% (118人)	33.0% (117人)	16.1% (57人)	49.0% (174人)	47.6% (169人)
具志川東圏域	307人	34.2% (105人)	32.9% (101人)	16.9% (52人)	46.3% (142人)	50.5% (155人)
具志川西圏域	402人	39.1% (157人)	39.1% (157人)	15.9% (64人)	45.5% (183人)	50.2% (202人)
具志川南圏域	406人	32.8% (133人)	39.2% (159人)	17.0% (69人)	49.5% (201人)	52.2% (212人)
与勝第1圏域	302人	31.8% (96人)	36.8% (111人)	20.5% (62人)	54.6% (165人)	50.0% (151人)
与勝第2圏域	241人	34.4% (83人)	38.6% (93人)	27.0% (65人)	53.5% (129人)	47.3% (114人)

## 11. 世帯構成別リスク者等の状況

### (1) 全体的な状況

世帯構成別に性別の状況を見ると、「一人暮らし」は女性が約5割を占め男性より高くなっています。また女性は「配偶者以外と2人暮らし」と「その他」（三世代世帯等）においても男性より高いです。男性は、「夫婦2人暮らし（配偶者が64歳以下）」で7割半ばを占め、女性より高くなっています。

前期・後期高齢者を世帯構成別に見ると、前期高齢者は「夫婦2人暮らし」、「3人以上の同居世帯」、「その他」（三世代世帯等）で高く、後期高齢者は「1人暮らし」、「配偶者以外と2人暮らし」で高くなっています。

#### 全体的な状況

	回答者実数	男性	女性	前期高齢者	後期高齢者
1人暮らし	461人	46.2% (213人)	53.8% (248人)	46.4% (214人)	53.6% (247人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	689人	50.8% (350人)	49.2% (339人)	54.3% (374人)	45.7% (315人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	92人	76.1% (70人)	23.9% (22人)	79.3% (73人)	20.7% (19人)
配偶者以外と2人暮らし	227人	32.6% (74人)	67.4% (153人)	43.2% (98人)	56.8% (129人)
3人以上の同居世帯	748人	47.7% (357人)	52.3% (391人)	59.2% (443人)	40.8% (305人)
その他	98人	34.7% (34人)	65.3% (64人)	57.1% (56人)	42.9% (42人)

### (2) 外出の状況

週1回以上の外出者を世帯構成別に見ると、各世帯構成で大きな差はありませんが、「夫婦2人暮らし」が配偶者65歳以上、以下にかかわらず9割を超えており、他の世帯構成よりやや高くなっています。

買い物について世帯構成別に見ると、買い物をしているという回答は、「1人暮らし高齢者」が86.8%で最も高く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者が65歳以上）」の84.8%となっています。

#### 外出の状況

	回答者実数	週1回以上の外出者	買い物(できるし、している)
1人暮らし	461人	89.8% (414人)	86.8% (400人)
夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	689人	93.0% (641人)	81.6% (562人)
夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	92人	91.3% (84人)	84.8% (78人)
配偶者以外と2人暮らし	227人	89.0% (202人)	79.3% (180人)
3人以上の同居世帯	748人	90.9% (680人)	76.6% (573人)
その他	98人	92.9% (91人)	80.6% (79人)

### (3) 転倒について

「転倒経験あり」という回答を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」で3割半ばとなっており、他の世帯構成よりやや高くなっています。

「転倒の不安あり」という回答を世帯構成別に見ると、「配偶者以外と2人暮らし」は5割半ばあり、また、「夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)」以外の世帯構成でも5割余りと半数を超えています。

#### 転倒について

	回答者実数	転倒経験（あり）	転倒不安（あり）
1人暮らし	461人	36.9% (170人)	53.8% (248人)
夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	689人	25.7% (177人)	52.2% (360人)
夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	92人	29.3% (27人)	43.5% (40人)
配偶者以外と2人暮らし	227人	30.4% (69人)	55.1% (125人)
3人以上の同居世帯	748人	25.8% (193人)	50.4% (377人)
その他	98人	25.5% (25人)	52.0% (51人)

### (4) 地域活動への参加

地域活動への参加状況を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」では他の世帯構成と比べて各項目とも割合が低く、活動への参加が消極的な傾向となっています。

「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」では、「趣味関係のグループ」が3割と高いほか、「スポーツ関係のグループやクラブ」や「自治会」も2割余りで高くなっています。

「夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)」では、「収入のある仕事」が3割半ばと特に高くなっています。また、「趣味関係のグループ」が3割余りで最も高くなっています。

「配偶者以外との2人暮らし」では、「介護予防のための通いの場」と「老人クラブ」で1割半ばとやや高くなっています。

「3人以上の同居世帯」では、「学習・教養サークル」が比較的高くなっています。

「その他」(三世帯世帯等)では、「ボランティアのグループ」が最も高くなっています。

#### 地域活動への参加

	回答者実数	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場	老人クラブ	自治会	収入のある仕事
1人暮らし	461人	9.5% (44人)	15.2% (70人)	20.4% (94人)	6.3% (29人)	11.5% (53人)	11.3% (52人)	15.8% (73人)	18.4% (85人)
夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	689人	15.8% (109人)	24.5% (169人)	30.2% (208人)	9.3% (64人)	11.8% (81人)	14.8% (102人)	23.1% (159人)	16.4% (113人)
夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	92人	15.2% (14人)	19.6% (18人)	31.5% (29人)	7.6% (7人)	5.4% (5人)	2.2% (2人)	21.7% (20人)	35.9% (33人)
配偶者以外と2人暮らし	227人	11.9% (27人)	18.1% (41人)	26.4% (60人)	7.0% (16人)	14.1% (32人)	16.7% (38人)	22.5% (51人)	17.6% (40人)
3人以上の同居世帯	748人	14.3% (107人)	18.7% (140人)	24.9% (186人)	8.4% (63人)	13.5% (101人)	12.8% (96人)	21.8% (163人)	18.7% (140人)
その他	98人	18.4% (18人)	10.2% (10人)	22.4% (22人)	6.1% (6人)	11.2% (11人)	15.3% (15人)	15.3% (15人)	18.4% (18人)

## (5) リスク者割合の比較

リスク者割合を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」では多くの項目でリスク者割合がやや高くなっています。特に、「知的能動性の低下」は約6割を占めています。

また、「1人暮らし」では「社会的役割の低下」、「うつ傾向」、「転倒リスク」などの項目が高い傾向にあります。

「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」では、「認知機能低下」が3割半ばを占め比較的高くなっています。

「配偶者以外と2人暮らし」では、「閉じこもり傾向」が2割余りと比較的高いです。

「3人以上の同居世帯」では、「認知機能低下」、「IADLの低下」が高い傾向にあります。

「その他」では、「認知機能低下」が約4割と最も高くなっています。

### リスク者割合の比較（世帯別）

	回答者実数	総合事業	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
1人暮らし	461人	32.8% (151人)	21.0% (97人)	36.9% (170人)	20.2% (93人)	0.7% (3人)	25.4% (117人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	689人	27.9% (192人)	16.8% (116人)	25.7% (177人)	18.1% (125人)	0.4% (3人)	19.0% (131人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	92人	25.0% (23人)	8.7% (8人)	29.3% (27人)	13.0% (12人)	0.0% (0人)	20.7% (19人)
配偶者以外と 2人暮らし	227人	31.7% (72人)	20.3% (46人)	30.4% (69人)	23.8% (54人)	0.9% (2人)	22.5% (51人)
3人以上の同居 世帯	748人	26.3% (197人)	17.8% (133人)	25.8% (193人)	19.8% (148人)	0.8% (6人)	17.8% (133人)
その他	98人	27.6% (27人)	16.3% (16人)	25.5% (25人)	15.3% (15人)	2.0% (2人)	19.4% (19人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの 低下	知的能動性 の低下	社会的役割 の低下
1人暮らし	461人	43.2% (199人)	36.2% (167人)	16.3% (75人)	59.2% (273人)	55.3% (255人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	689人	35.6% (245人)	38.3% (264人)	15.5% (107人)	40.8% (281人)	47.9% (330人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	92人	26.1% (24人)	26.1% (24人)	16.3% (15人)	54.3% (50人)	46.7% (43人)
配偶者以外と 2人暮らし	227人	38.3% (87人)	35.7% (81人)	20.3% (46人)	47.1% (107人)	50.7% (115人)
3人以上の同居 世帯	748人	29.7% (222人)	36.5% (273人)	21.1% (158人)	44.5% (333人)	46.9% (351人)
その他	98人	30.6% (30人)	39.8% (39人)	11.2% (11人)	56.1% (55人)	50.0% (49人)

## 12. 歯の健康状況別リスク者の状況

### (1) リスク者割合の比較

歯の健康状況別にリスク者割合を見ると、かみ合わせについては全ての項目で、「かみ合わせが悪い」人の方が「かみ合わせが良い」人よりリスク者割合が高くなっています。

また、入れ歯や歯の本数との関係を見ると、「歯は10本未満」の方が「歯は10本以上」よりリスク者割合が高い項目が多くなっています。また、入れ歯の利用の有無については、「入れ歯の利用なし」の方が「入れ歯を利用している」に比べてリスク者割合が高くなっています。

歯のかみ合わせが悪いと様々なリスクを抱える傾向があることや、自分の歯が10本以下でもリスクを抱える割合が比較的高いことが見受けられ、歯の健康が心身の健康や介護予防に関連していることがうかがえます。

リスク者割合の比較（歯の状況別）

		回答者 実数	総合事業	運動機能 低下	転倒 リスク	閉じこも り傾向	低栄養の 傾向	口腔機能 低下	
かみ合わせ	良い	1,803人	23.2% (418人)	15.0% (271人)	25.1% (453人)	17.0% (306人)	0.4% (7人)	14.1% (255人)	
	悪い	499人	48.7% (243人)	27.7% (138人)	41.7% (208人)	27.3% (136人)	1.6% (8人)	42.3% (211人)	
入れ歯の 状況	自分の歯は 20本以上	入れ歯を 利用	262人	22.5% (59人)	13.7% (36人)	22.9% (60人)	14.5% (38人)	0.4% (1人)	14.9% (39人)
		入れ歯の 利用なし	527人	18.2% (96人)	9.7% (51人)	20.9% (110人)	14.8% (78人)	0.2% (1人)	11.8% (62人)
	自分の歯は 10～19本	入れ歯を 利用	409人	27.9% (114人)	13.4% (55人)	28.6% (117人)	13.2% (54人)	0.7% (3人)	20.8% (85人)
		入れ歯の 利用なし	229人	28.4% (65人)	15.3% (35人)	31.4% (72人)	21.4% (49人)	0.0% (0人)	20.1% (46人)
	自分の歯は 10本未満	入れ歯を 利用	699人	36.2% (253人)	25.6% (179人)	33.2% (232人)	23.6% (165人)	1.0% (7人)	25.0% (175人)
		入れ歯の 利用なし	122人	40.2% (49人)	24.6% (30人)	36.1% (44人)	27.9% (34人)	3.3% (4人)	35.2% (43人)

		回答者 実数	うつ傾向	認知機能低 下	IADL の低下	知的能動 性の低下	社会的役 割の低下	
かみ合わせ	良い	1,803人	30.0% (541人)	32.6% (588人)	15.0% (271人)	43.9% (792人)	46.0% (830人)	
	悪い	499人	52.5% (262人)	51.3% (256人)	27.5% (137人)	61.5% (307人)	61.5% (307人)	
入れ歯の 状況	自分の歯は 20本以上	入れ歯を 利用	262人	30.2% (79人)	35.1% (92人)	11.1% (29人)	45.0% (118人)	42.0% (110人)
		入れ歯の 利用なし	527人	30.9% (163人)	28.5% (150人)	9.9% (52人)	35.3% (186人)	47.1% (248人)
	自分の歯は 10～19本	入れ歯を 利用	409人	30.6% (125人)	38.1% (156人)	14.4% (59人)	43.3% (177人)	45.2% (185人)
		入れ歯の 利用なし	229人	36.2% (83人)	35.8% (82人)	18.3% (42人)	53.3% (122人)	56.8% (130人)
	自分の歯は 10本未満	入れ歯を 利用	699人	38.6% (270人)	40.9% (286人)	24.7% (173人)	54.2% (379人)	51.6% (361人)
		入れ歯の 利用なし	122人	46.7% (57人)	41.0% (50人)	26.2% (32人)	68.0% (83人)	59.8% (73人)

### 13. 幸福度別リスク者の状況

#### (1) リスク者割合の比較

リスク者割合を幸福度別で見ると、「0点(幸福ではない)」では、ほぼ全ての項目でリスク者割合が高くなっています。「社会的役割の低下」や「うつ傾向」などは、7割半ばを占めており、「知的能動性の低下」では7割、「認知機能低下」と「総合事業」では、5割半ばを占めています。また、「0点(幸福ではない)」のリスク者割合は、「10点(とても幸せ)」と比較すると「うつ傾向」では60ポイントの上昇、「総合事業」、「運動機能低下」、「転倒リスク」、「閉じこもり傾向」、「口腔機能低下」、「知的能動性の低下」では30ポイント台の上昇となっており、大きく上昇する傾向となっています。

#### リスク者割合の比較（幸福度別）

	回答者実数	総合事業	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
0点 (幸福ではない)	25人	56.0% (14人)	44.0% (11人)	60.0% (15人)	52.0% (13人)	4.0% (1人)	52.0% (13人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	109人	53.2% (58人)	26.6% (29人)	47.7% (52人)	31.2% (34人)	1.8% (2人)	41.3% (45人)
4点～6点 (普通)	717人	33.6% (241人)	19.2% (138人)	32.8% (235人)	23.7% (170人)	1.4% (10人)	25.8% (185人)
7点～9点 (やや幸せ)	934人	25.2% (235人)	16.0% (149人)	25.4% (237人)	14.1% (132人)	0.4% (4人)	16.1% (150人)
10点 (とても幸せ)	487人	20.5% (100人)	14.4% (70人)	23.0% (112人)	16.2% (79人)	0.0% (0人)	12.7% (62人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
0点 (幸福ではない)	25人	76.0% (19人)	56.0% (14人)	44.0% (11人)	72.0% (18人)	68.0% (17人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	109人	75.2% (82人)	58.7% (64人)	27.5% (30人)	67.9% (74人)	76.1% (83人)
4点～6点 (普通)	717人	52.4% (376人)	42.5% (305人)	18.3% (131人)	59.3% (425人)	59.4% (426人)
7点～9点 (やや幸せ)	934人	27.3% (255人)	32.3% (302人)	15.4% (144人)	39.5% (369人)	43.8% (409人)
10点 (とても幸せ)	487人	15.0% (73人)	30.6% (149人)	16.0% (78人)	40.2% (196人)	40.0% (195人)

## 14. 社会参加別リスク者の状況

### (1) リスク者割合の比較

リスク者割合を社会参加別で見ると、「介護予防のための通いの場」は、8項目でリスク者割合が最も高くなっています。特に、「認知機能低下」や「知的能動性の低下」は4割台を占めています。

「収入のある仕事」では、「社会的役割の低下」が4割余りと最も高く、「知的能動性の低下」は4割近くと比較的高くなっています。

#### リスク者割合の比較（社会参加別）

	回答者実数	総合事業	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ボランティアのグループ	330人	20.6% (68人)	7.9% (26人)	24.2% (80人)	7.9% (26人)	0.0% (0人)	17.3% (57人)
スポーツ関係のグループやクラブ	465人	18.3% (85人)	7.1% (33人)	20.4% (95人)	4.9% (23人)	0.2% (1人)	15.1% (70人)
趣味関係のグループ	621人	19.5% (121人)	7.9% (49人)	21.7% (135人)	7.2% (45人)	0.3% (2人)	14.5% (90人)
学習・教養サークル	192人	16.7% (32人)	7.8% (15人)	27.6% (53人)	3.1% (6人)	0.0% (0人)	10.9% (21人)
介護予防のための通いの場	297人	31.3% (93人)	22.2% (66人)	34.3% (102人)	11.4% (34人)	0.0% (0人)	20.9% (62人)
老人クラブ	316人	25.6% (81人)	15.5% (49人)	28.2% (89人)	11.7% (37人)	0.3% (1人)	17.4% (55人)
自治会	498人	20.9% (104人)	10.8% (54人)	22.7% (113人)	11.8% (59人)	0.2% (1人)	13.5% (67人)
収入のある仕事	442人	18.8% (83人)	7.2% (32人)	19.9% (88人)	9.3% (41人)	0.0% (0人)	14.5% (64人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ボランティアのグループ	330人	26.7% (88人)	35.2% (116人)	8.5% (28人)	32.7% (108人)	28.8% (95人)
スポーツ関係のグループやクラブ	465人	29.2% (136人)	35.5% (165人)	8.0% (37人)	31.8% (148人)	33.5% (156人)
趣味関係のグループ	621人	27.4% (170人)	34.1% (212人)	7.9% (49人)	32.4% (201人)	32.0% (199人)
学習・教養サークル	192人	30.7% (59人)	35.4% (68人)	4.7% (9人)	17.2% (33人)	31.3% (60人)
介護予防のための通いの場	297人	31.0% (92人)	45.5% (135人)	15.8% (47人)	40.7% (121人)	35.0% (104人)
老人クラブ	316人	30.1% (95人)	44.6% (141人)	11.7% (37人)	36.1% (114人)	32.3% (102人)
自治会	498人	27.3% (136人)	34.7% (173人)	12.2% (61人)	35.5% (177人)	33.7% (168人)
収入のある仕事	442人	29.6% (131人)	34.2% (151人)	8.6% (38人)	39.6% (175人)	42.3% (187人)



## 15. 孤独感の有無別リスク者の状況

### (1) リスク者割合の比較

リスク者割合を孤独感の有無別で見ると、全ての項目について、孤独を「よく感じる」人でリスク者割合が非常に高くなっています。特に「うつ傾向」や「社会的役割の低下」で割合が高いです。

#### リスク者割合の比較（孤独感の有無別）

	回答者実数	総合事業	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
よく感じる	151人	49.7% (75人)	36.4% (55人)	44.4% (67人)	34.4% (52人)	2.0% (3人)	38.4% (58人)
ときどき感じる	583人	42.4% (247人)	26.4% (154人)	36.4% (212人)	26.1% (152人)	0.9% (5人)	31.9% (186人)
あまり感じない	865人	24.2% (209人)	13.9% (120人)	25.7% (222人)	16.3% (141人)	0.8% (7人)	15.5% (134人)
ほとんど感じない	735人	18.0% (132人)	10.9% (80人)	21.5% (158人)	12.9% (95人)	0.3% (2人)	12.0% (88人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
よく感じる	151人	86.8% (131人)	57.0% (86人)	27.2% (41人)	73.5% (111人)	66.9% (101人)
ときどき感じる	583人	66.7% (389人)	43.4% (253人)	22.6% (132人)	56.6% (330人)	56.9% (332人)
あまり感じない	865人	24.3% (210人)	32.5% (281人)	16.2% (140人)	44.3% (383人)	48.4% (419人)
ほとんど感じない	735人	13.3% (98人)	29.8% (219人)	13.5% (99人)	39.3% (289人)	41.2% (303人)

### 第3章 うるま市高齢者の実態把握報告書【概要版】

#### ●高齢者の状況

- ・高齢者人口は増加を続けている。令和元年10月の高齢化率は21.9%で、一貫して上昇している。

#### 人口構成

		平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	対平成 24年比	
うるま市	人数(人)	総人口	120,205	120,860	121,329	121,972	122,381	122,938	123,629	124,368	4,163
		年少人口	21,491	21,373	21,294	21,317	21,270	21,303	21,252	21,225	▲266
		生産年齢人口	77,637	77,473	77,289	76,912	76,442	76,222	76,130	75,921	▲1,716
		老年人口	21,077	22,014	22,746	23,743	24,669	25,413	26,247	27,222	6,145
	構成比(%)	年少人口	17.9	17.7	17.6	17.5	17.4	17.3	17.2	17.1	▲0.8
		生産年齢人口	64.6	64.1	63.7	63.1	62.5	62.0	61.6	61.0	▲3.6
老年人口 (高齢化率)		17.5	18.2	18.7	19.5	20.2	20.7	21.2	21.9	4.4	
沖縄県	構成比(%)	年少人口	17.7	17.6	17.5	17.3	17.2	17.1	17.1	17.0	▲0.7
		生産年齢人口	64.6	64.0	63.5	62.9	62.4	61.9	61.3	60.7	▲3.9
		老年人口 (高齢化率)	17.7	18.4	19.0	19.7	20.4	21.0	21.6	22.3	4.6
全国 (%)	老年人口 (高齢化率)	24.1	25.1	26.0	26.6	27.3	27.7	28.1	28.4	4.3	

- ・令和元年10月現在では、前期高齢者の割合が後期高齢者を上回っているが、令和7年(2025年)にはほぼ同率、令和11年(第10期計画最終年)には後期高齢者の割合が前期高齢者を上回るようになる見込まれる。

#### 推計高齢者人口(前期・後期別)

		実績値 (再掲)	推計値						
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和7年	令和11年	令和14年
人数(人)	高齢者人口	27,222	27,890	28,555	29,015	29,827	30,905	32,321	33,053
	前期高齢者	14,137	14,834	15,710	15,798	15,733	15,613	14,904	14,479
	後期高齢者	13,085	13,056	12,845	13,217	14,094	15,292	17,417	18,574
構成比(%)	前期高齢者	51.9	53.2	55.0	54.4	52.7	50.5	46.1	43.8
	後期高齢者	48.1	46.8	45.0	45.6	47.3	49.5	53.9	56.2

●介護保険\_認定者

・市の要介護認定者数は毎年増加しており、令和元年で5,293人となっている。認定率は18.8%、前期高齢者の増加で下がる傾向となっている。

要介護認定者数の推移

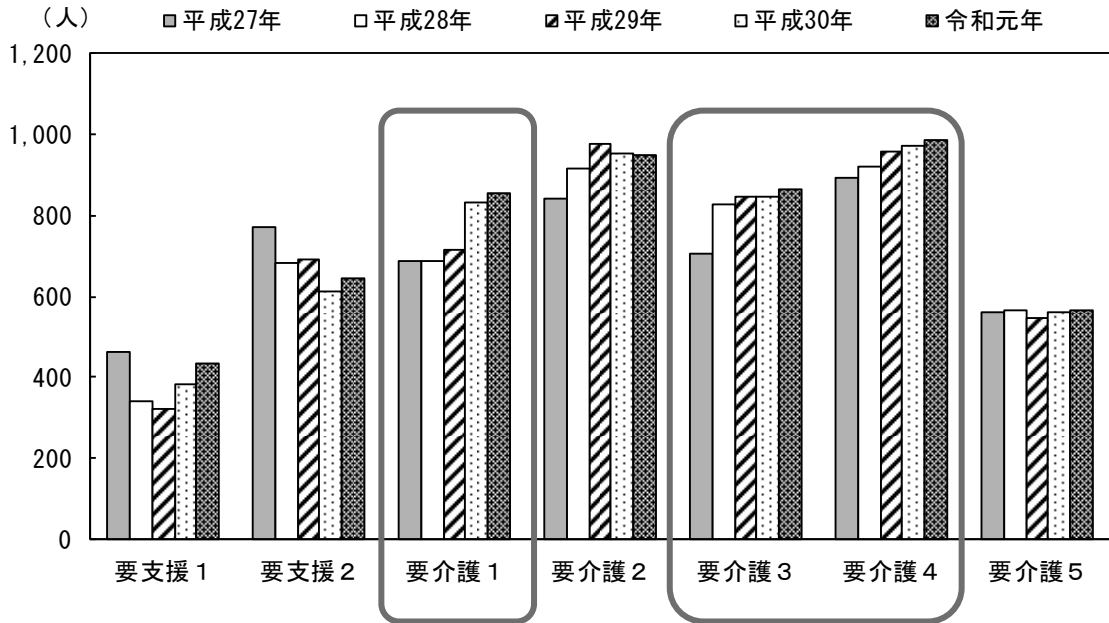
		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
人数 (人)	認定者数	4,228	4,459	4,695	4,925	4,939	5,051	5,153	5,293
	第1号被保険者	4,071	4,290	4,531	4,764	4,787	4,895	4,991	5,124
	前期高齢者	526	555	579	613	650	677	685	702
	後期高齢者	3,545	3,735	3,952	4,151	4,137	4,218	4,306	4,422
	第2号被保険者	157	169	164	161	152	156	162	169
構成比 (%)	前期高齢者	12.9	12.9	12.8	12.9	13.6	13.8	13.7	13.7
	後期高齢者	87.1	87.1	87.2	87.1	86.4	86.2	86.3	86.3
	認定率(第1号被保険者)	19.3	19.5	19.9	20.1	19.4	19.2	19.0	18.8
	前期高齢者	5.2	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.1	5.0
	後期高齢者	32.1	32.6	33.5	34.3	33.3	33.2	33.4	33.7

・要介護度別に認定者を見ると、要介護1及び3・4では毎年のように伸びている。

要介護度別認定者数

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
人数 (人)	認定者数(再)	4,228	4,459	4,695	4,925	4,939	5,051	5,153	5,293
	要支援1	371	404	430	461	343	323	382	433
	要支援2	629	686	734	772	682	692	612	644
	要支援(小計)	1,000	1,090	1,164	1,233	1,025	1,015	994	1,077
	要介護1	654	685	672	689	686	714	831	853
	要介護2	720	763	815	842	917	975	954	948
	要介護3	609	659	692	708	825	844	845	864
	要介護4	700	740	843	893	921	956	970	987
構成比 (%)	要介護5	545	522	509	560	565	547	559	564
	要支援1	8.8	9.1	9.2	9.4	6.9	6.4	7.4	8.2
	要支援2	14.9	15.4	15.6	15.7	13.8	13.7	11.9	12.2
	要支援(小計)	23.7	24.4	24.8	25.0	20.8	20.1	19.3	20.3
	要介護1	15.5	15.4	14.3	14.0	13.9	14.1	16.1	16.1
	要介護2	17.0	17.1	17.4	17.1	18.6	19.3	18.5	17.9
	要介護3	14.4	14.8	14.7	14.4	16.7	16.7	16.4	16.3
	要介護4	16.6	16.6	18.0	18.1	18.6	18.9	18.8	18.6
要介護5	12.9	11.7	10.8	11.4	11.4	10.8	10.8	10.7	

要介護度別の認定者数の推移

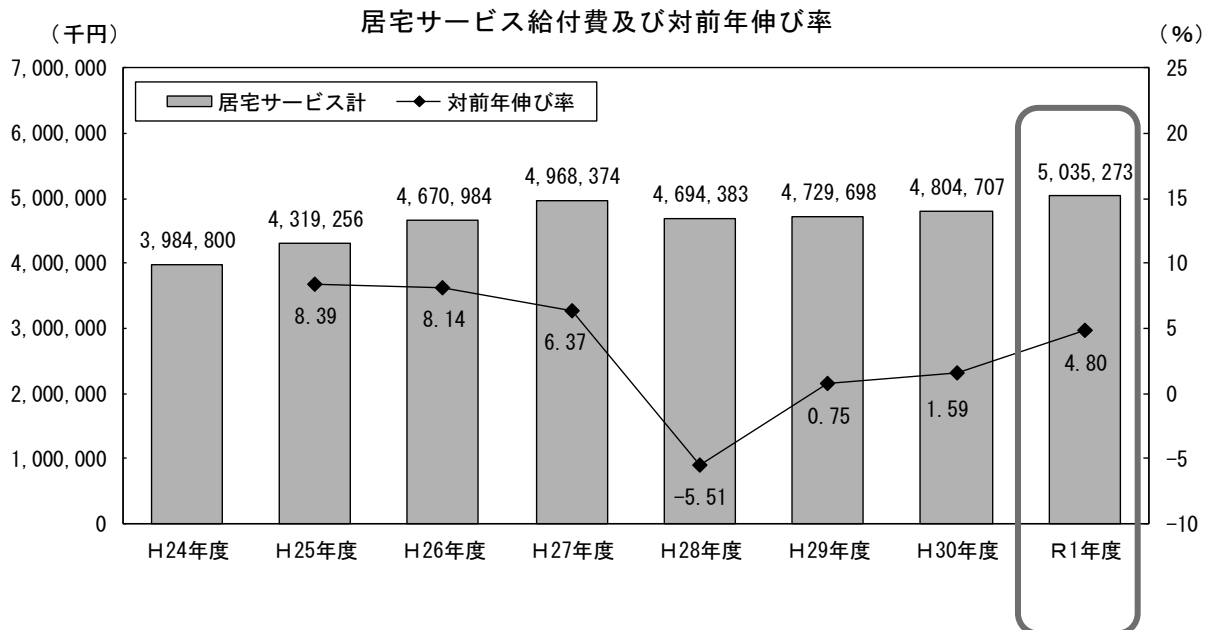


・市では県や全国と比べて、要支援や要介護1の割合が低く、要介護2より重い介護度の割合が高くなっている。

●介護保険サービス

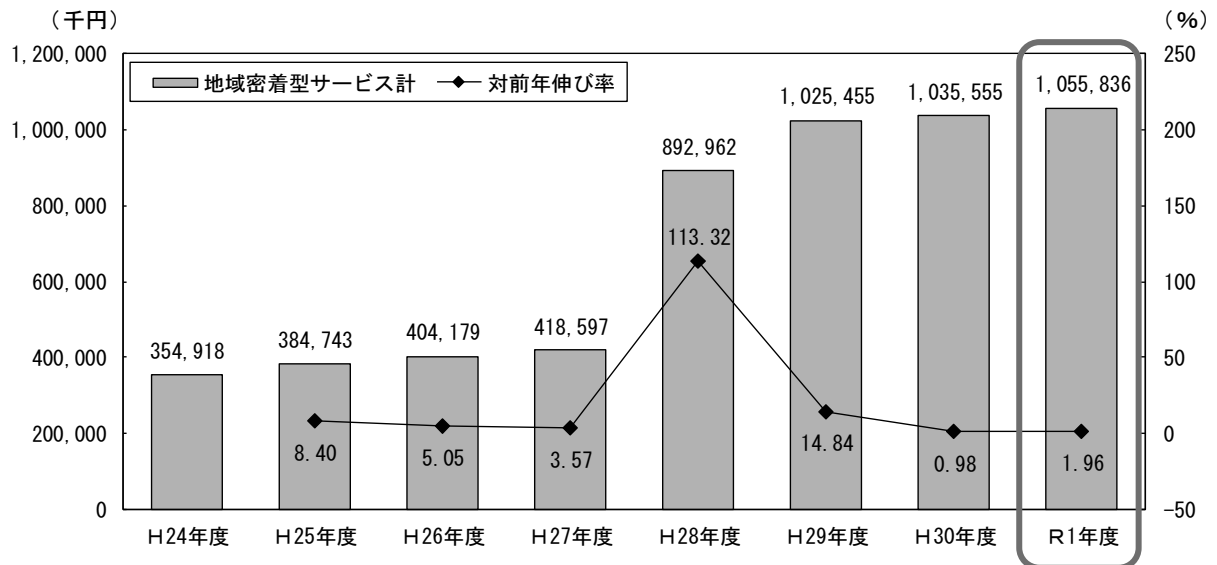
(介護保険\_サービス利用者)

・居宅サービスの給付費は平成27年度(約50億円)まで毎年増加。平成28年度に減少するが、28年度以降増加し、令和元年度は50億円となっている。(平成28年度の減少は、通所介護の一部が地域密着型通所介護に移行したこと等が要因。(※居宅サービスとは、主に訪問介護、通所介護のこと)



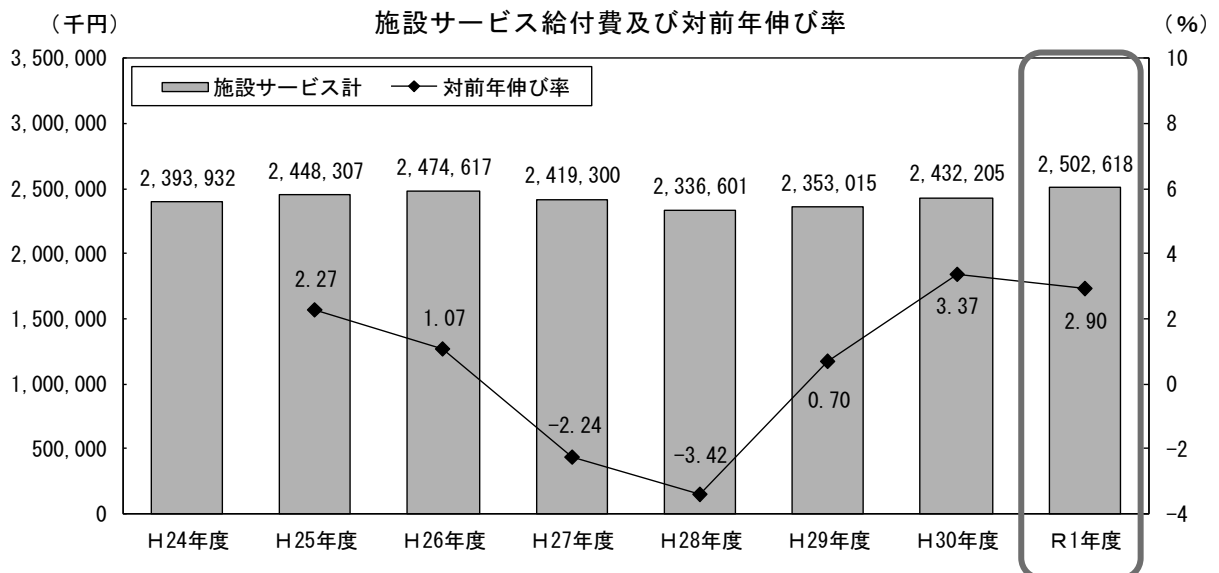
- ・地域密着型サービスの給付費は平成 27 年度まで緩やかに伸びていたが、平成 28 年度には前年比 113%増の約 9 億円となっている。前述したとおり、通所介護の一部事業所が地域密着型通所介護に移行したことが要因。その後も増加し、令和元年度は 10 億円を超えている。

地域密着型サービス給付費及び対前年伸び率



- ・施設サービスの給付費は平成 28 年度まで、増減しながらも減少傾向であったが、平成 29 年度は増加に転じている。令和元年度の給付費は 25 億円となっている。

施設サービス給付費及び対前年伸び率



(介護保険\_居宅サービスの内訳)

- ・居宅サービスの給付費(約 50 億円)のうち、通所系サービスが約 35 億円で7割を占めている。  
施設サービスの給付費(25 億円)も上回っており、通所系サービスが給付の増大につながっている。

居宅サービス給付費

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
訪問系	464,261	478,360	512,302	536,113	542,621	552,476	524,518	545,702
通所系	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,204,995	3,203,614	3,292,185	3,471,920
短期入所系	134,130	127,323	152,959	155,783	145,274	152,181	151,958	156,330
福祉用具・住宅改修費	172,904	200,297	213,000	230,209	240,756	255,892	259,070	266,913
その他	423,956	464,929	505,372	541,876	560,736	565,534	576,976	594,407
居宅サービス計	3,984,800	4,319,256	4,670,984	4,968,374	4,694,383	4,729,698	4,804,707	5,035,273
伸び率 (対前年度)	—	8.39	8.14	6.37	-5.51	0.75	1.59	4.80

施設サービス給付費

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
介護老人福祉施設	1,320,546	1,338,267	1,354,819	1,360,615	1,343,270	1,337,288	1,374,461	1,391,347
介護老人保健施設	965,556	996,326	998,869	976,134	943,993	963,762	1,032,751	1,084,577
介護療養型医療施設	107,830	113,713	120,929	82,551	49,338	51,965	22,844	22,072
介護医療院							2,149	4,623
施設サービス計	2,393,932	2,448,307	2,474,617	2,419,300	2,336,601	2,353,015	2,432,205	2,502,618
伸び率 (対前年度)	—	2.27	1.07	-2.24	-3.42	0.70	3.37	2.90

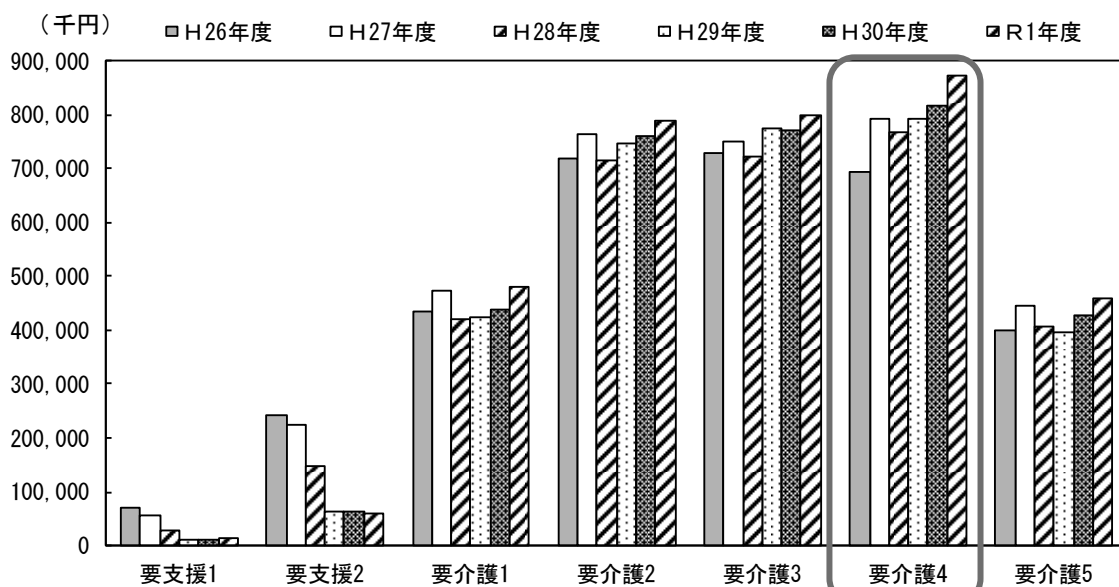
- ・通所系サービスの給付費では、要介護4の伸びが大きい。平成24年度は要介護2が最も高かったが、26年には要介護3が、27年度以降は要介護4の給付費がもっとも高くなっている。要介護5も給付費が伸びており、通所系サービス、特に通所介護で利用者の重度化が進行している。

通所系サービス給付費

単位：千円

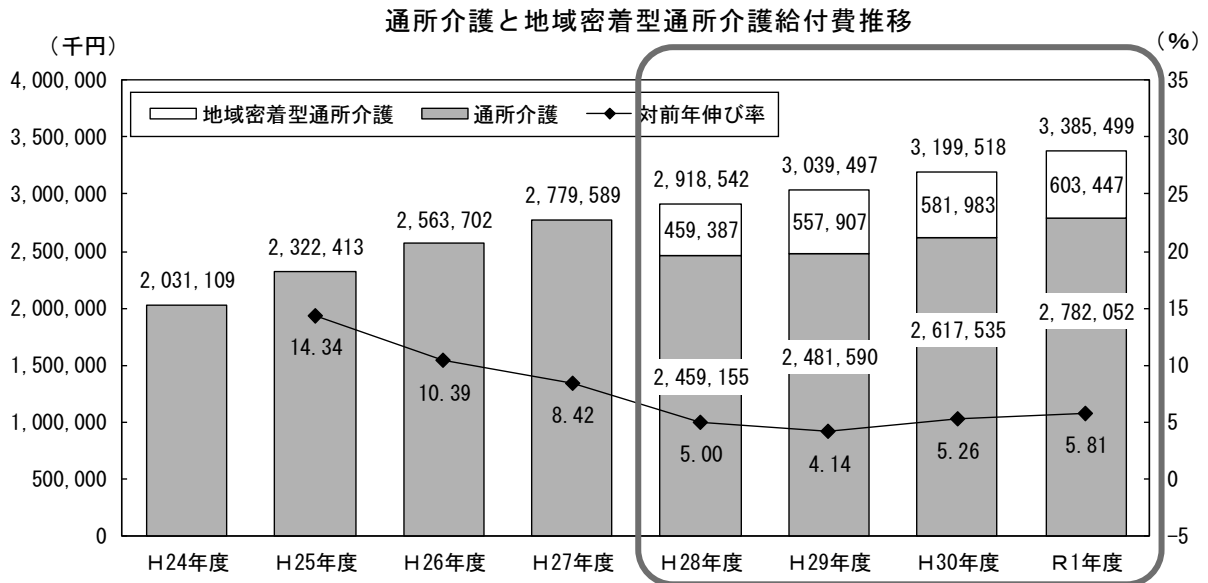
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
要支援1	56,314	63,749	71,909	56,977	29,014	10,068	10,811	15,457
要支援2	221,103	234,761	241,741	223,379	146,106	63,179	63,501	59,852
要介護1	433,629	447,230	433,020	472,487	419,347	425,019	439,551	479,354
要介護2	621,364	692,581	717,094	764,289	714,413	744,776	759,905	787,034
要介護3	569,978	643,140	729,456	750,050	721,857	772,818	772,206	797,867
要介護4	552,924	592,344	693,671	792,267	766,795	792,918	817,643	872,804
要介護5	334,238	374,540	400,459	444,943	407,462	394,836	428,568	459,551
計	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,204,995	3,203,614	3,292,185	3,471,920
要介護2の占有率	22.3%	22.7%	21.8%	21.8%	22.3%	23.2%	23.1%	22.7%
要介護3の占有率	20.4%	21.1%	22.2%	21.4%	22.5%	24.1%	23.5%	23.0%
要介護4の占有率	19.8%	19.4%	21.1%	22.6%	23.9%	24.8%	24.8%	25.1%

通所系サービス給付費推移（要介護度別）

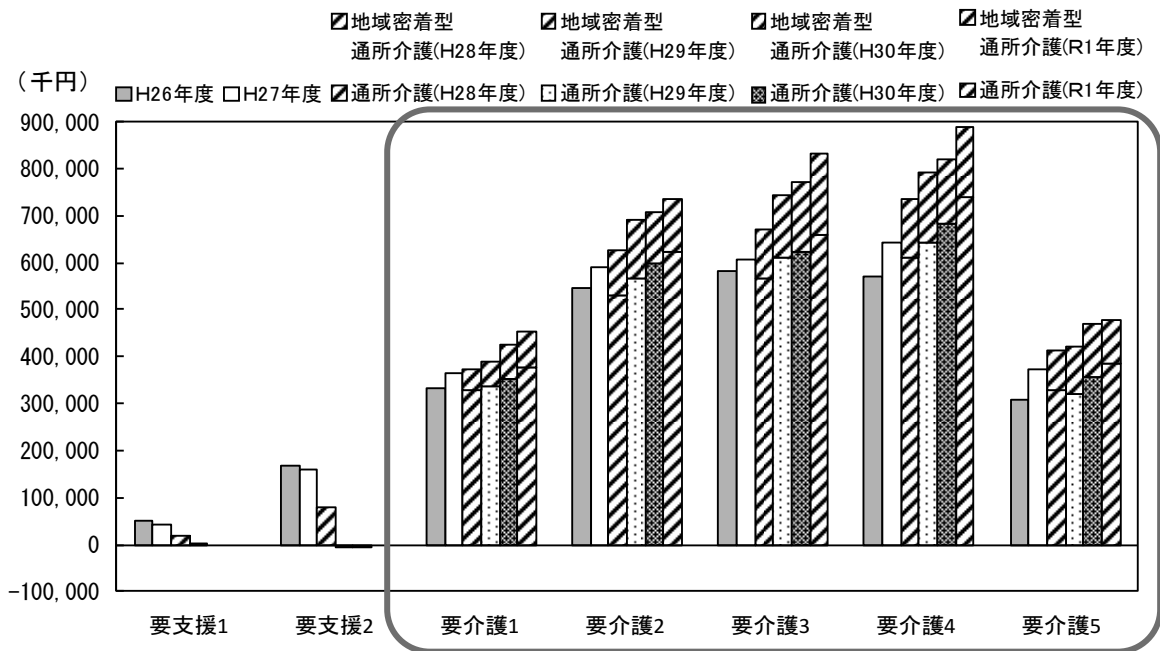


(介護保険\_通所介護と地域密着型介護の合計)

- ・通所介護と地域密着型介護の給付費を合わせた金額は平成 28 年度以降も増加しており、第 6 期～第 7 期においても「通所介護」の給付費が着実に伸びている。令和元年度では約 34 億円となっている。
- ・要介護別に給付費の伸びを見ると、要介護 1 から要介護 5 まで、平成 27 年度以降も各年で前年度を上回っている。



**通所介護と地域密着型通所介護給付費推移 (要介護度別)**





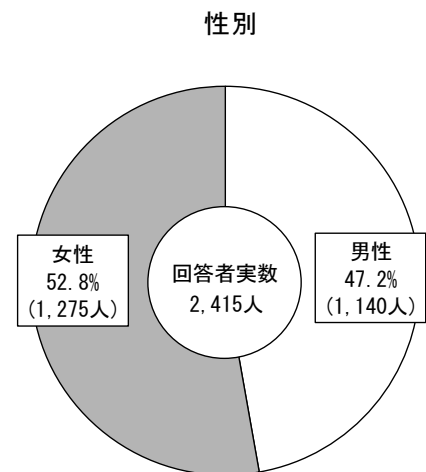
## 第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(高齢者の状況)

- ・高齢者のうち、前期高齢者は 54.0%、後期高齢者は 46.0%で、前期高齢者の方が多くなっている。
- ・圏域別に見ると、「具志川西圏域」(うるま第5)と「与勝第2圏域」(うるま第1)では前期高齢者に比べて後期高齢者が多く、それ以外の圏域では前期高齢者が多い。

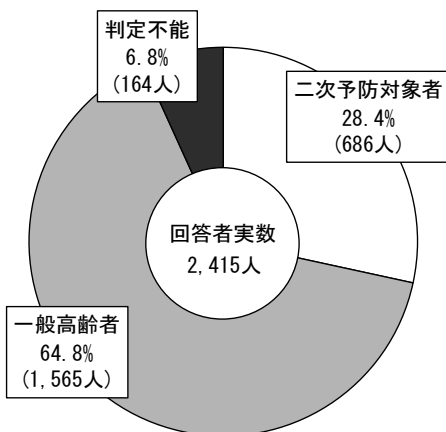
年齢(性別、圏域別)

	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全体	100.0% (2,415人)	54.0% (1,305人)	46.0% (1,110人)
男性	47.2% (1,140人)	55.1% (628人)	44.9% (512人)
女性	52.8% (1,275人)	53.1% (677人)	46.9% (598人)
石川圏域	16.6% (402人)	54.0% (217人)	46.0% (185人)
具志川北圏域	14.7% (355人)	55.8% (198人)	44.2% (157人)
具志川東圏域	12.7% (307人)	58.0% (178人)	42.0% (129人)
具志川西圏域	16.6% (402人)	48.3% (194人)	51.7% (208人)
具志川南圏域	16.8% (406人)	56.2% (228人)	43.8% (178人)
与勝第1圏域	12.5% (302人)	57.0% (172人)	43.0% (130人)
与勝第2圏域	10.0% (241人)	49.0% (118人)	51.0% (123人)

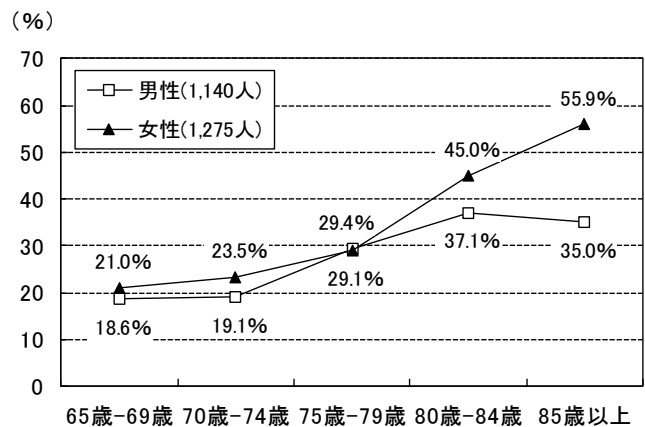


- ・要介護になるおそれのある方(総合事業対象者=二次予防対象者)は3割弱。男性に比べて女性の方で高く、年齢が上がると割合も高くなっている。75歳~79歳で約30%、80歳で45%、85歳で約56%を占める。

二次予防対象者



二次予防対象者(男女年齢別)



(歯の健康について)

- ・年齢別に見ると、75歳未満の前期高齢者では、「自分の歯が20本以上、入れ歯なし」が多くなっている。75歳以上の後期高齢者では、「自分の歯は10本未満で入れ歯を利用」が多くなっている。特に85歳以上では約50%を占める。

歯の数と入れ歯の利用状況（年齢別）

	回答者 実数	自分の歯は20本以上		自分の歯は10～19本		自分の歯は10本未満		無回答
		入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	
65歳～69歳	717人	11.3% (81人)	31.2% (224人)	15.3% (110人)	13.8% (99人)	18.5% (133人)	6.6% (47人)	3.2% (23人)
70歳～74歳	588人	10.7% (63人)	25.9% (152人)	20.6% (121人)	10.4% (61人)	24.1% (142人)	3.4% (20人)	4.9% (29人)
75歳～79歳	482人	13.1% (63人)	17.8% (86人)	18.7% (90人)	7.7% (37人)	32.0% (154人)	3.5% (17人)	7.3% (35人)
80歳～84歳	367人	10.6% (39人)	13.4% (49人)	14.7% (54人)	5.2% (19人)	38.1% (140人)	6.5% (24人)	11.4% (42人)
85歳以上	261人	6.1% (16人)	6.1% (16人)	13.0% (34人)	5.0% (13人)	49.8% (130人)	5.4% (14人)	14.6% (38人)

- ・噛み合わせが良いか尋ねたところ、「はい(噛み合わせは良い)」が各年代とも70～80%を占める。

噛み合わせは良いか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	717人	77.0% (552人)	20.4% (146人)	2.6% (19人)
70歳～74歳	588人	73.8% (434人)	20.6% (121人)	5.6% (33人)
75歳～79歳	482人	77.4% (373人)	18.5% (89人)	4.1% (20人)
80歳～84歳	367人	69.8% (256人)	23.4% (86人)	6.8% (25人)
85歳以上	261人	72.0% (188人)	21.8% (57人)	6.1% (16人)

(孤食の状況)

- ・「どなたかと食事をともにする機会がありますか」という設問より孤食の状況を見た。性別に見ると、孤食の割合は男性が23.4%、女性が12.0%で、やや男性の方で高い。
- ・年齢別に見ると、概ね、年齢が上がるとともに孤食や孤食傾向の割合が高くなる傾向が見られる。

孤食の状況（性別、年齢別）

	回答者実数	毎日ある	週に 何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に 何度かある	孤食の高齢者		
					年に 何度かある	ほとんどない	
男性	1,140人	48.2% (550人)	9.0% (103人)	17.2% (196人)	9.9% (113人)	13.5% (154人)	2.1% (24人)
女性	1,275人	49.3% (628人)	14.6% (186人)	21.6% (275人)	6.0% (77人)	6.0% (76人)	2.6% (33人)
65歳～69歳	717人	56.2% (403人)	11.4% (82人)	13.7% (98人)	6.7% (48人)	10.7% (77人)	1.3% (9人)
70歳～74歳	588人	52.7% (310人)	10.9% (64人)	18.9% (111人)	7.1% (42人)	9.2% (54人)	1.2% (7人)
75歳～79歳	482人	42.3% (204人)	10.8% (52人)	24.9% (120人)	11.0% (53人)	7.1% (34人)	3.9% (19人)
80歳～84歳	367人	40.6% (149人)	14.7% (54人)	22.6% (83人)	8.4% (31人)	10.6% (39人)	3.0% (11人)
85歳以上	261人	42.9% (112人)	14.2% (37人)	22.6% (59人)	6.1% (16人)	10.0% (26人)	4.2% (11人)

- ・孤食の状況を孤独感別に見た。孤立をよく感じる人では、「孤食の高齢者」となっている傾向が見られる。

孤食の状況（孤独感別）

	回答者実数	毎日ある	週に 何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に 何度かある	孤食の高齢者		
					年に 何度かある	ほとんどない	
よく感じる	151人	27.2% (41人)	9.3% (14人)	19.2% (29人)	13.9% (21人)	25.2% (38人)	5.3% (8人)
ときどき感じる	583人	36.0% (210人)	16.1% (94人)	23.7% (138人)	9.8% (57人)	12.5% (73人)	1.9% (11人)
あまり感じない	865人	52.1% (451人)	11.4% (99人)	19.9% (172人)	8.2% (71人)	6.7% (58人)	1.6% (14人)
ほとんど感じない	735人	60.1% (442人)	10.3% (76人)	16.6% (122人)	4.8% (35人)	6.3% (46人)	1.9% (14人)

(地域での活動について)

- ・社会参加の状況を見ると、「参加していない」という回答がもっとも高く、各社会参加項目とも40～50%を占めている。

社会参加

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
ボランティアのグループ	1.3% (31人)	2.1% (51人)	1.1% (27人)	3.9% (93人)	5.3% (128人)	47.7% (1,152人)	38.6% (933人)
スポーツ関係のグループ やクラブ	2.6% (63人)	5.6% (136人)	3.3% (79人)	4.6% (111人)	3.1% (76人)	44.0% (1,063人)	36.7% (887人)
趣味関係のグループ	2.2% (54人)	5.5% (134人)	5.4% (130人)	7.7% (187人)	4.8% (116人)	40.0% (965人)	34.3% (829人)
学習・教養サークル	0.7% (18人)	0.9% (22人)	2.2% (53人)	1.6% (38人)	2.5% (61人)	49.9% (1,205人)	42.2% (1,018人)
介護予防のための通いの場	1.1% (27人)	3.8% (92人)	2.5% (60人)	3.5% (85人)	1.4% (33人)	50.4% (1,217人)	37.3% (901人)
老人クラブ	0.7% (17人)	1.8% (44人)	1.3% (31人)	4.6% (112人)	4.6% (112人)	50.2% (1,212人)	36.7% (887人)
自治会	0.7% (18人)	1.2% (28人)	1.2% (29人)	4.5% (108人)	13.0% (315人)	42.9% (1,035人)	36.5% (882人)
収入のある仕事	9.9% (239人)	4.2% (101人)	1.0% (24人)	1.3% (32人)	1.9% (46人)	43.7% (1,055人)	38.0% (918人)

- ・地域づくりへの参加に前向きな声は50%程度である。圏域別では、多くの圏域が50%程度の参加意向を示している。比較的高いのは具志川南圏域（うるま第4）の55%で、低いのは与勝第2圏域（うるま第1）の46%となっている。地域づくりへ企画・運営者としての参加意向は30%前後であり、比較的高いのは具志川東圏域（うるま第3）、低いのは与勝第2圏域（うるま第1）の28%や具志川西圏域（うるま第5）の29%となっている。

地域づくりへ参加者として参加したいか（性別、年齢別、圏域別）

	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
男性	1,140人	6.3% (72人)	43.7% (498人)	37.3% (425人)	5.1% (58人)	7.6% (87人)
女性	1,275人	11.7% (149人)	41.8% (533人)	30.6% (390人)	6.1% (78人)	9.8% (125人)
65歳～69歳	717人	7.9% (57人)	45.9% (329人)	36.0% (258人)	3.8% (27人)	6.4% (46人)
70歳～74歳	588人	8.0% (47人)	45.2% (266人)	33.5% (197人)	5.8% (34人)	7.5% (44人)
75歳～79歳	482人	11.8% (57人)	42.1% (203人)	29.0% (140人)	7.3% (35人)	9.8% (47人)
80歳～84歳	367人	10.4% (38人)	41.1% (151人)	30.0% (110人)	5.4% (20人)	13.1% (48人)
85歳以上	261人	8.4% (22人)	31.4% (82人)	42.1% (110人)	7.7% (20人)	10.3% (27人)
石川圏域	402人	9.2% (37人)	44.0% (177人)	34.1% (137人)	5.0% (20人)	7.7% (31人)
具志川北圏域	355人	11.5% (41人)	41.1% (146人)	29.0% (103人)	9.3% (33人)	9.0% (32人)
具志川東圏域	307人	6.5% (20人)	45.6% (140人)	31.9% (98人)	5.9% (18人)	10.1% (31人)
具志川西圏域	402人	9.0% (36人)	40.0% (161人)	36.6% (147人)	5.7% (23人)	8.7% (35人)
具志川南圏域	406人	7.4% (30人)	47.8% (194人)	34.5% (140人)	4.9% (20人)	5.4% (22人)
与勝第1圏域	302人	11.9% (36人)	40.1% (121人)	34.1% (103人)	3.3% (10人)	10.6% (32人)
与勝第2圏域	241人	8.7% (21人)	38.2% (92人)	36.1% (87人)	5.0% (12人)	12.0% (29人)

地域づくりへ企画・運営として参加したいか（圏域別）

	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
石川圏域	402人	5.0% (20人)	28.4% (114人)	54.7% (220人)	3.2% (13人)	8.7% (35人)
具志川北圏域	355人	4.5% (16人)	30.1% (107人)	49.3% (175人)	5.4% (19人)	10.7% (38人)
具志川東圏域	307人	2.9% (9人)	33.2% (102人)	48.2% (148人)	2.6% (8人)	13.0% (40人)
具志川西圏域	402人	3.2% (13人)	26.6% (107人)	54.5% (219人)	5.7% (23人)	10.0% (40人)
具志川南圏域	406人	2.5% (10人)	31.3% (127人)	55.4% (225人)	3.4% (14人)	7.4% (30人)
与勝第1圏域	302人	4.3% (13人)	31.1% (94人)	51.3% (155人)	3.0% (9人)	10.3% (31人)
与勝第2圏域	241人	5.0% (12人)	23.2% (56人)	53.9% (130人)	3.7% (9人)	14.1% (34人)

(主観的幸福感)

- ・現在の幸福感について、「とても幸せ」を10点、「幸福ではない」を0点として、回答をいただいた。「5点」(普通)の19.8%や「10点」(とても幸せ)の20.2%が高い。
- ・性別に見ると、「5点」は男性の方で女性より高く、反対に「10点」は女性の方で高い。年齢別に見ると、「10点」は年齢が上がると割合も高くなる傾向にある。

主観的幸福感 (性別、年齢別)

	回答者 実数	0点 (幸福ではない)	1点	2点	3点	4点	5点
全体	2,415人	1.0% (25人)	0.9% (21人)	0.8% (20人)	2.8% (68人)	2.9% (70人)	19.8% (478人)
男性	1,140人	1.3% (15人)	1.1% (12人)	0.7% (8人)	3.6% (41人)	4.2% (48人)	22.5% (256人)
女性	1,275人	0.8% (10人)	0.7% (9人)	0.9% (12人)	2.1% (27人)	1.7% (22人)	17.4% (222人)
65歳～69歳	717人	1.0% (7人)	1.4% (10人)	1.1% (8人)	3.9% (28人)	4.0% (29人)	18.0% (129人)
70歳～74歳	588人	1.0% (6人)	0.9% (5人)	0.5% (3人)	2.9% (17人)	3.2% (19人)	21.3% (125人)
75歳～79歳	482人	1.0% (5人)	0.8% (4人)	0.8% (4人)	2.3% (11人)	2.1% (10人)	21.4% (103人)
80歳～84歳	367人	1.4% (5人)	0.5% (2人)	0.8% (3人)	1.4% (5人)	2.7% (10人)	18.8% (69人)
85歳以上	261人	0.8% (2人)	0.0% (0人)	0.8% (2人)	2.7% (7人)	0.8% (2人)	19.9% (52人)

	回答者 実数	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
全体	2,415人	7.0% (169人)	11.7% (283人)	18.5% (447人)	8.4% (204人)	20.2% (487人)	5.9% (143人)
男性	1,140人	7.2% (82人)	12.2% (139人)	17.0% (194人)	6.8% (77人)	18.8% (214人)	4.7% (54人)
女性	1,275人	6.8% (87人)	11.3% (144人)	19.8% (253人)	10.0% (127人)	21.4% (273人)	7.0% (89人)
65歳～69歳	717人	7.4% (53人)	13.2% (95人)	21.2% (152人)	8.6% (62人)	17.3% (124人)	2.8% (20人)
70歳～74歳	588人	6.0% (35人)	12.8% (75人)	18.9% (111人)	9.5% (56人)	18.5% (109人)	4.6% (27人)
75歳～79歳	482人	7.7% (37人)	10.8% (52人)	16.0% (77人)	7.7% (37人)	21.6% (104人)	7.9% (38人)
80歳～84歳	367人	6.8% (25人)	9.5% (35人)	16.6% (61人)	9.0% (33人)	22.9% (84人)	9.5% (35人)
85歳以上	261人	7.3% (19人)	10.0% (26人)	17.6% (46人)	6.1% (16人)	25.3% (66人)	8.8% (23人)

(その他)

- ・生活の中で支援してほしいことでは、一般高齢者より総合事業対象者の方で支援を必要としている。中でも「庭の手入れ、片付け」、「移動の支援」、「話し相手」が一般高齢者よりも10ポイント程度高くなっている。

生活の中で支援を望むこと（総合事業対象者・一般高齢者別）

	回答者実数	話し相手	ときどき声をかけてほしい	買い物の支援 (買ってきてほしい)	調理の支援	配食サービス (食事の提供)	みんなで食事をする機会 (会食など)	移動の支援 (送迎など)
総合事業対象者	686人	13.7% (94人)	12.8% (88人)	10.5% (72人)	6.9% (47人)	7.9% (54人)	8.5% (58人)	14.9% (102人)
一般高齢者	1,565人	4.0% (63人)	4.3% (68人)	1.9% (29人)	1.8% (28人)	2.1% (33人)	2.7% (43人)	3.8% (59人)
「総合事業」と「一般高齢者」の差		9.7	8.5	8.6	5.1	5.8	5.8	11.1

	回答者実数	簡単な生活支援 (ゴミ出し、掃除など)	庭の手入れ、片付け (台風前後など)	緊急時の通報システム	金銭管理の支援 (成年後見制度など)	その他	無回答
総合事業対象者	686人	9.5% (65人)	20.0% (137人)	14.7% (101人)	2.3% (16人)	7.7% (53人)	43.0% (295人)
一般高齢者	1,565人	1.5% (24人)	8.6% (135人)	8.9% (139人)	0.4% (7人)	9.4% (147人)	66.1% (1,034人)
「総合事業」と「一般高齢者」の差		8.0	11.4	5.8	1.9	-1.7	-23.1

(圏域別の状況)

- ・地域参加について圏域別に見ると、具志川北圏域（うるま第6）では、様々な活動で他圏域より参加率が高い。石川圏域（うるま第7）と具志川南（うるま第4）は自治会、仕事への参加が比較的高い、具志川西圏域（うるま第5）では、「趣味関係のグループ」が3割を占め、他圏域より高い。与勝第1（うるま第2）、与勝第2（うるま第1）、具志川東圏域（うるま第3）では、他の圏域と比べて各種活動への参加がやや消極的な傾向となっている。

地域活動への参加

	回答者実数	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場	老人クラブ	自治会	収入のある仕事
全体	2,415人	13.7% (330人)	19.3% (465人)	25.7% (621人)	8.0% (192人)	12.3% (297人)	13.1% (316人)	20.6% (498人)	18.3% (442人)
石川圏域	402人	13.7% (55人)	21.9% (88人)	27.6% (111人)	10.9% (44人)	11.7% (47人)	14.4% (58人)	22.6% (91人)	21.1% (85人)
具志川北圏域	355人	16.1% (57人)	24.8% (88人)	27.0% (96人)	11.3% (40人)	15.2% (54人)	19.2% (68人)	29.0% (103人)	17.2% (61人)
具志川東圏域	307人	14.7% (45人)	19.5% (60人)	25.1% (77人)	5.9% (18人)	11.1% (34人)	12.7% (39人)	17.3% (53人)	16.0% (49人)
具志川西圏域	402人	14.4% (58人)	20.6% (83人)	33.1% (133人)	8.5% (34人)	10.9% (44人)	15.4% (62人)	19.7% (79人)	20.6% (83人)
具志川南圏域	406人	11.6% (47人)	17.2% (70人)	25.9% (105人)	7.9% (32人)	11.8% (48人)	7.6% (31人)	22.4% (91人)	20.9% (85人)
与勝第1圏域	302人	14.6% (44人)	15.6% (47人)	18.9% (57人)	5.0% (15人)	12.3% (37人)	8.9% (27人)	10.9% (33人)	15.6% (47人)
与勝第2圏域	241人	10.0% (24人)	12.0% (29人)	17.4% (42人)	3.7% (9人)	13.7% (33人)	12.9% (31人)	19.9% (48人)	13.3% (32人)

- ・圏域別にリスク者を比較すると、与勝第1圏域（うるま第2）、与勝第2圏域（うるま第1）ではほとんどの項目でリスク者割合が市の値を上回っている。石川（うるま第7）、具志川北（うるま第6）、具志川東圏域（うるま第3）は、僅かに高い項目も見受けられるが、概ね市全体よりリスク者割合がやや低くなっている。

#### リスク者割合の比較

	回答者実数	総合事業	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
全体	2,415人	28.4% (686人)	18.0% (435人)	28.7% (692人)	19.4% (468人)	0.7% (17人)	20.2% (488人)
石川圏域	402人	26.4% (106人)	15.4% (62人)	26.9% (108人)	17.9% (72人)	0.2% (1人)	19.4% (78人)
具志川北圏域	355人	28.5% (101人)	16.3% (58人)	26.5% (94人)	17.5% (62人)	0.0% (0人)	19.7% (70人)
具志川東圏域	307人	27.4% (84人)	18.6% (57人)	28.7% (88人)	17.3% (53人)	0.7% (2人)	18.9% (58人)
具志川西圏域	402人	28.9% (116人)	16.7% (67人)	29.1% (117人)	16.7% (67人)	1.2% (5人)	21.4% (86人)
具志川南圏域	406人	29.1% (118人)	17.2% (70人)	28.1% (114人)	17.7% (72人)	1.7% (7人)	19.2% (78人)
与勝第1圏域	302人	28.1% (85人)	21.5% (65人)	33.1% (100人)	22.8% (69人)	0.7% (2人)	20.2% (61人)
与勝第2圏域	241人	31.5% (76人)	23.2% (56人)	29.5% (71人)	30.3% (73人)	0.0% (0人)	23.7% (57人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,415人	34.9% (843人)	36.3% (877人)	17.6% (426人)	47.7% (1,153人)	49.0% (1,184人)
石川圏域	402人	37.6% (151人)	34.6% (139人)	14.2% (57人)	39.6% (159人)	45.0% (181人)
具志川北圏域	355人	33.2% (118人)	33.0% (117人)	16.1% (57人)	49.0% (174人)	47.6% (169人)
具志川東圏域	307人	34.2% (105人)	32.9% (101人)	16.9% (52人)	46.3% (142人)	50.5% (155人)
具志川西圏域	402人	39.1% (157人)	39.1% (157人)	15.9% (64人)	45.5% (183人)	50.2% (202人)
具志川南圏域	406人	32.8% (133人)	39.2% (159人)	17.0% (69人)	49.5% (201人)	52.2% (212人)
与勝第1圏域	302人	31.8% (96人)	36.8% (111人)	20.5% (62人)	54.6% (165人)	50.0% (151人)
与勝第2圏域	241人	34.4% (83人)	38.6% (93人)	27.0% (65人)	53.5% (129人)	47.3% (114人)



(世帯別の状況)

- ・リスク者の割合を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」と「配偶者以外と2人暮らし（息子・娘など）」では多くの項目でリスク者割合がやや高くなっている。

リスク者割合の比較（世帯別）

	回答者実数	二次予防	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり 傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
1人暮らし	461人	32.8% (151人)	21.0% (97人)	36.9% (170人)	20.2% (93人)	0.7% (3人)	25.4% (117人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	689人	27.9% (192人)	16.8% (116人)	25.7% (177人)	18.1% (125人)	0.4% (3人)	19.0% (131人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	92人	25.0% (23人)	8.7% (8人)	29.3% (27人)	13.0% (12人)	0.0% (0人)	20.7% (19人)
配偶者以外と 2人暮らし	227人	31.7% (72人)	20.3% (46人)	30.4% (69人)	23.8% (54人)	0.9% (2人)	22.5% (51人)
3人以上の同居 世帯	748人	26.3% (197人)	17.8% (133人)	25.8% (193人)	19.8% (148人)	0.8% (6人)	17.8% (133人)
その他	98人	27.6% (27人)	16.3% (16人)	25.5% (25人)	15.3% (15人)	2.0% (2人)	19.4% (19人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの 低下	知的能動性 の低下	社会的役割 の低下
1人暮らし	461人	43.2% (199人)	36.2% (167人)	16.3% (75人)	59.2% (273人)	55.3% (255人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	689人	35.6% (245人)	38.3% (264人)	15.5% (107人)	40.8% (281人)	47.9% (330人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	92人	26.1% (24人)	26.1% (24人)	16.3% (15人)	54.3% (50人)	46.7% (43人)
配偶者以外と 2人暮らし	227人	38.3% (87人)	35.7% (81人)	20.3% (46人)	47.1% (107人)	50.7% (115人)
3人以上の同居 世帯	748人	29.7% (222人)	36.5% (273人)	21.1% (158人)	44.5% (333人)	46.9% (351人)
その他	98人	30.6% (30人)	39.8% (39人)	11.2% (11人)	56.1% (55人)	50.0% (49人)

(歯の健康とリスクとの関係)

- ・リスク者割合を噛み合わせの良い・悪いで比べると、すべての項目について、「噛み合わせが悪い」人の方でリスク者割合が高くなっている。また、「歯は10本未満」では、「歯は20本以上」よりリスク者割合の高い項目が多くなっている。
- ・歯の健康(特に噛み合わせ)が心身の健康や介護予防に関連していると見られる。

リスク者割合の比較 (歯の状況別)

		回答者 実数	総合事業 対象	運動機能 低下	転倒 リスク	閉じこも り傾向	低栄養の 傾向	口腔機能 低下	
かみ合わせ	良い	1,803人	23.2% (418人)	15.0% (271人)	25.1% (453人)	17.0% (306人)	0.4% (7人)	14.1% (255人)	
	悪い	499人	48.7% (243人)	27.7% (138人)	41.7% (208人)	27.3% (136人)	1.6% (8人)	42.3% (211人)	
入れ歯の 状況	自分の歯は 20本以上	入れ歯を 利用	262人	22.5% (59人)	13.7% (36人)	22.9% (60人)	14.5% (38人)	0.4% (1人)	14.9% (39人)
		入れ歯の 利用なし	527人	18.2% (96人)	9.7% (51人)	20.9% (110人)	14.8% (78人)	0.2% (1人)	11.8% (62人)
	自分の歯は 10~19本	入れ歯を 利用	409人	27.9% (114人)	13.4% (55人)	28.6% (117人)	13.2% (54人)	0.7% (3人)	20.8% (85人)
		入れ歯の 利用なし	229人	28.4% (65人)	15.3% (35人)	31.4% (72人)	21.4% (49人)	0.0% (0人)	20.1% (46人)
	自分の歯は 10本未満	入れ歯を 利用	699人	36.2% (253人)	25.6% (179人)	33.2% (232人)	23.6% (165人)	1.0% (7人)	25.0% (175人)
		入れ歯の 利用なし	122人	40.2% (49人)	24.6% (30人)	36.1% (44人)	27.9% (34人)	3.3% (4人)	35.2% (43人)

		回答者 実数	うつ傾向	認知機能 低下	IADL の低下	知的能動 性の低下	社会的役 割の低下	
かみ合わせ	良い	1,803人	30.0% (541人)	32.6% (588人)	15.0% (271人)	43.9% (792人)	46.0% (830人)	
	悪い	499人	52.5% (262人)	51.3% (256人)	27.5% (137人)	61.5% (307人)	61.5% (307人)	
入れ歯の 状況	自分の歯は 20本以上	入れ歯を 利用	262人	30.2% (79人)	35.1% (92人)	11.1% (29人)	45.0% (118人)	42.0% (110人)
		入れ歯の 利用なし	527人	30.9% (163人)	28.5% (150人)	9.9% (52人)	35.3% (186人)	47.1% (248人)
	自分の歯は 10~19本	入れ歯を 利用	409人	30.6% (125人)	38.1% (156人)	14.4% (59人)	43.3% (177人)	45.2% (185人)
		入れ歯の 利用なし	229人	36.2% (83人)	35.8% (82人)	18.3% (42人)	53.3% (122人)	56.8% (130人)
	自分の歯は 10本未満	入れ歯を 利用	699人	38.6% (270人)	40.9% (286人)	24.7% (173人)	54.2% (379人)	51.6% (361人)
		入れ歯の 利用なし	122人	46.7% (57人)	41.0% (50人)	26.2% (32人)	68.0% (83人)	59.8% (73人)

(幸福度とリスクとの関係)

- ・リスク者割合を主観的幸福度で見ると、ほとんどの項目について、「0点(幸福ではない)」でリスク者割合が高く、「10点(とても幸せ)」で最も低くなる傾向にある。

リスク者割合の比較 (幸福度別)

	回答者実数	総合事業	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
0点 (幸福ではない)	25人	56.0% (14人)	44.0% (11人)	60.0% (15人)	52.0% (13人)	4.0% (1人)	52.0% (13人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	109人	53.2% (58人)	26.6% (29人)	47.7% (52人)	31.2% (34人)	1.8% (2人)	41.3% (45人)
4点～6点 (普通)	717人	33.6% (241人)	19.2% (138人)	32.8% (235人)	23.7% (170人)	1.4% (10人)	25.8% (185人)
7点～9点 (やや幸せ)	934人	25.2% (235人)	16.0% (149人)	25.4% (237人)	14.1% (132人)	0.4% (4人)	16.1% (150人)
10点 (とても幸せ)	487人	20.5% (100人)	14.4% (70人)	23.0% (112人)	16.2% (79人)	0.0% (0人)	12.7% (62人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
0点 (幸福ではない)	25人	76.0% (19人)	56.0% (14人)	44.0% (11人)	72.0% (18人)	68.0% (17人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	109人	75.2% (82人)	58.7% (64人)	27.5% (30人)	67.9% (74人)	76.1% (83人)
4点～6点 (普通)	717人	52.4% (376人)	42.5% (305人)	18.3% (131人)	59.3% (425人)	59.4% (426人)
7点～9点 (やや幸せ)	934人	27.3% (255人)	32.3% (302人)	15.4% (144人)	39.5% (369人)	43.8% (409人)
10点 (とても幸せ)	487人	15.0% (73人)	30.6% (149人)	16.0% (78人)	40.2% (196人)	40.0% (195人)

(孤独感の有無とリスクとの関係)

- ・リスク者割合を孤独感の有無別で見ると、全ての項目について、孤独を「よく感じる」人でリスク者割合が高くなっている。特に「うつ傾向」や「知的能動性の低下」で「よく感じる」が高い

リスク者割合の比較（孤独感の有無別）

	回答者実数	総合事業	運動機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
よく感じる	151人	49.7% (75人)	36.4% (55人)	44.4% (67人)	34.4% (52人)	2.0% (3人)	38.4% (58人)
ときどき感じる	583人	42.4% (247人)	26.4% (154人)	36.4% (212人)	26.1% (152人)	0.9% (5人)	31.9% (186人)
あまり感じない	865人	24.2% (209人)	13.9% (120人)	25.7% (222人)	16.3% (141人)	0.8% (7人)	15.5% (134人)
ほとんど感じない	735人	18.0% (132人)	10.9% (80人)	21.5% (158人)	12.9% (95人)	0.3% (2人)	12.0% (88人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
よく感じる	151人	86.8% (131人)	57.0% (86人)	27.2% (41人)	73.5% (111人)	66.9% (101人)
ときどき感じる	583人	66.7% (389人)	43.4% (253人)	22.6% (132人)	56.6% (330人)	56.9% (332人)
あまり感じない	865人	24.3% (210人)	32.5% (281人)	16.2% (140人)	44.3% (383人)	48.4% (419人)
ほとんど感じない	735人	13.3% (98人)	29.8% (219人)	13.5% (99人)	39.3% (289人)	41.2% (303人)

(主観的幸福度と孤独感の有無との関係)

- ・孤独感について主観的幸福度別で見ると、主観的幸福度が「0点(幸福ではない)」では孤独感を「よく感じる」、「1点～3点(やや幸福ではない)」では「ときどき感じる」と孤立を感じている割合が高く、反対に「7点～9点(やや幸せ)」では孤立を「あまり感じない」、「10点(とても幸せ)」では孤立を「ほとんど感じない」という割合が最も高くなっている。主観的幸福度が低いと孤独感が高く、主観的幸福度が高いと孤独感が低い傾向となっている。

孤独感の有無（幸福度別）

	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
0点 (幸福ではない)	25人	60.0% (15人)	16.0% (4人)	4.0% (1人)	16.0% (4人)	4.0% (1人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	109人	28.4% (31人)	39.4% (43人)	22.9% (25人)	5.5% (6人)	3.7% (4人)
4点～6点 (普通)	717人	10.7% (77人)	38.5% (276人)	36.7% (263人)	12.6% (90人)	1.5% (11人)
7点～9点 (やや幸せ)	934人	1.3% (12人)	19.4% (181人)	45.2% (422人)	32.9% (307人)	1.3% (12人)
10点 (とても幸せ)	487人	1.8% (9人)	10.3% (50人)	23.2% (113人)	62.8% (306人)	1.8% (9人)

# 資料編



★高齢者介護予防・日常生活把握調査★  
【 調 査 票 】

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票記入後は、同封の返信用封筒に入れて、

12月18日(水)までにポストに投函してください。

記 入 日	令和	年	月	日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入				
2. ご家族が記入				
(あて名のご本人からみた続柄_____)				
3. その他				

※以下はあて名のご本人の情報を記入してください。

年齢・性別	( ) 歳	男	・	女
生年月日	明治・大正・昭和	年	月	日

<お問い合わせ先> うるま市役所 介護長寿課 高齢者福祉係  
電話：098-973-3208

## 個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

### 【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、市内にお住まいの高齢者の状況などを把握し、介護予防の取り組みなどを検討するために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、本市の介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また、ご回答いただいた情報については、本市で適切に管理いたします。
- ただし、本調査で得られた情報は、厚生労働省に登録し、全国的な集計・分析に活用することがあります。



## 問1 あなたのご家族や生活状況について

### (1) 家族構成をお教えてください

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)
4. 配偶者以外と2人暮らし
5. 3人以上の同居世帯
6. その他 ( )

【(1)において「4. 配偶者以外と2人暮らし」「5. 3人以上の同居世帯」「6. その他」と回答した方のみ】

#### ① 同居されている方はどなたですか

1. 配偶者(夫、妻)
2. 息子
3. 娘
4. 子の配偶者
5. 孫
6. 兄弟姉妹
7. その他 ( )

### (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

#### ① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
2. 心臓病
3. がん(悪性新生物)
4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)
5. 関節の病気(リウマチ等)
6. 認知症(アルツハイマー病等)
7. パーキンソン病
8. 糖尿病
9. 腎疾患(透析)
10. 視覚・聴覚障害
11. 骨折・転倒
12. 脊椎損傷
13. 高齢による衰弱
14. その他 ( )
15. 不明

【(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

#### ② 主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

1. 配偶者(夫・妻)
2. 息子
3. 娘
4. 子の配偶者(嫁、むこ)
5. 孫
6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー
8. その他 ( )

**(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか**

1. 大変苦しい                      2. やや苦しい                      3. ふつう  
4. ややゆとりがある              5. 大変ゆとりがある

**(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか**

1. 持家（一戸建て）                      2. 持家（集合住宅）  
3. こうえいちんたいじゅうたく 公営賃貸住宅（県営団地、市営団地等）      4. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅（一戸建て）  
5. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅（集合住宅、アパート等）      6. 借間  
7. その他（社宅など）

**問2 からだを動かすことについて**

**(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか**

1. できるし、している      2. できるけどしていない      3. できない

**(2) いす椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか**

1. できるし、している      2. できるけどしていない      3. できない

**(3) 15分位続けて歩いていますか**

1. できるし、している      2. できるけどしていない      3. できない

**(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか**

1. 何度もある                      2. 1度ある                      3. ない

**(5) 転倒に対する不安は大きいですか**

1. とても不安である                      2. やや不安である  
3. あまり不安でない                      4. 不安でない

**(6) 週に1回以上は外出していますか**

1. ほとんど外出しない      2. 週1回      3. 週2～4回      4. 週5回以上

**(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか**

1. とても減っている      2. 減っている  
3. あまり減っていない      4. 減っていない

**(8) 外出を控えていますか**

1. はい      2. いいえ

**【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】**

**① 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)**

1. 病気      2. 障害(しょうがい のうそっちゅう こういしょう)(脳卒中の後遺症など)  
3. 足腰などの痛み      4. トイレの心配(失禁など)  
5. 耳の障害(聞こえの問題など)      6. 目の障害  
7. 外での楽しみがない      8. 経済的に出られない  
9. 交通手段がない      10. その他( )

**(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)**

1. 徒歩      2. 自転車      3. バイク  
4. 自動車(自分で運転)      5. 自動車(人に乗せてもらう)      6. 電車  
7. 路線バス      8. 病院や施設のバス      9. 車いす  
10. 電動車いす(カート)      11. 歩行器・シルバーカー      12. タクシー  
13. その他( )

### 問3 食べることについて

#### (1) 身長・体重

身長    cm

体重    kg

#### (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

1. はい 2. いいえ

#### (3) お茶や汁物等でむせることがありますか

1. はい 2. いいえ

#### (4) 口の<sup>かわ</sup>渴きが気になりますか

1. はい 2. いいえ

#### (5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか

1. はい 2. いいえ

#### (6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし  
3. 自分の歯は10~19本、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は10~19本、入れ歯の利用なし  
5. 自分の歯は10本未満、かつ入れ歯を利用 6. 自分の歯は10本未満、入れ歯の利用なし

#### ① 噛み合わせは良いですか

1. はい 2. いいえ

【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は10~19本、かつ入れ歯を利用」「5. 自分の歯は10本未満、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

#### ② 毎日入れ歯の手入れをしていますか

1. はい 2. いいえ

**(7) 現在、歯科医院を受診していますか**

1. はい 2. いいえ

**【(7)で「2. いいえ」の方のみ】**

**① 歯科医院を受診していない理由はなんですか（いくつでも）**

1. 忙しいから 2. 行く必要がないから  
3. 移動手段がないから 4. 近くに歯科医院がないから  
5. 病気や怪我、障がい等があるから 6. お金がかかるから  
7. 歯科医院が苦手だから 8. 行くのが面倒だから  
9. その他（ ）

**(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか**

1. はい 2. いいえ

**(9) どなたかと食事をともにする機会がありますか**

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある  
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

**問4 毎日の生活について**

**(1) 物忘れが多いと感じますか**

1. はい 2. いいえ

**(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか**

1. はい 2. いいえ

**(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか**

1. はい 2. いいえ

<b>(4) 物をしまった場所がわからなくなることがありますか</b>		
1. はい	2. いいえ	
<b>(5) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)</b>		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
<b>(6) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか</b>		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
<b>【(6)で「2. できるけどしていない」「3. できない」の方のみ】</b>		
<b>① 買い物しない、できない理由はなんですか(いくつでも)</b>		
1. 近くに店がない	2. 交通手段がない	
3. 家族等が買っている	4. 外出したくない	
5. 身体的にできない(歩けない、息切れ等)	6. 経済的理由	
7. 宅配を利用している	8. その他 ( )	
<b>(7) 自分で食事の用意をしていますか</b>		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
<b>(8) 自分で請求書<small>せいきゅうしょ</small>の支払いをしていますか</b>		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
<b>(9) 自分で預貯金<small>よちよきん</small>の出し入れをしていますか</b>		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
<b>(10) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか</b>		
1. はい	2. いいえ	
<b>(11) 新聞を読んでいますか</b>		
1. はい	2. いいえ	

(12) 本や雑誌ざっしを読んでいますか

1. はい

2. いいえ

(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか

1. はい

2. いいえ

(14) 友人の家を訪ねていますか

1. はい

2. いいえ

(15) 家族や友人の相談にのっていますか

1. はい

2. いいえ

(16) 病人を見舞うことができますか

1. はい

2. いいえ

(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか

1. はい

2. いいえ

(18) 趣味しゅみはありますか

1. 趣味しゅみあり → ( )

2. 思いつかない

(19) 生きがいいきがいはありますか

1. 生きがいいきがいあり → ( )

2. 思いつかない

## 問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

※①－⑧それぞれに回答してください

	週4 回以上	週2 ～ 3回	週1 回	月1 ～ 3回	年に 数回	参加 して いない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ <small>しゅみ</small> 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 介護予防のための通いの場 (ミニデイ、百歳体操、脳いきいきクラブ、元気あっぷジム、うるま男塾、高齢者交流サロン)	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や<sup>しゅみ</sup>趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい
2. 参加してもよい
3. 参加したくない
4. 既に参加している

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や<sup>しゅみ</sup>趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい
2. 参加してもよい
3. 参加したくない
4. 既に参加している



問6

たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

- |                                     |                           |           |
|-------------------------------------|---------------------------|-----------|
| 1. 配偶者                              | 2. 同居の子ども                 | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚 <small>しんせき</small> ・親・孫 | 5. 近隣 <small>きんりん</small> | 6. 友人     |
| 7. その他 ( )                          | 8. そのような人はいない             |           |

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

- |                                     |                           |           |
|-------------------------------------|---------------------------|-----------|
| 1. 配偶者                              | 2. 同居の子ども                 | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚 <small>しんせき</small> ・親・孫 | 5. 近隣 <small>きんりん</small> | 6. 友人     |
| 7. その他 ( )                          | 8. そのような人はいない             |           |

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

- |                                     |                           |           |
|-------------------------------------|---------------------------|-----------|
| 1. 配偶者                              | 2. 同居の子ども                 | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚 <small>しんせき</small> ・親・孫 | 5. 近隣 <small>きんりん</small> | 6. 友人     |
| 7. その他 ( )                          | 8. そのような人はいない             |           |

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

- |                                     |                           |           |
|-------------------------------------|---------------------------|-----------|
| 1. 配偶者                              | 2. 同居の子ども                 | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚 <small>しんせき</small> ・親・孫 | 5. 近隣 <small>きんりん</small> | 6. 友人     |
| 7. その他 ( )                          | 8. そのような人はいない             |           |

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 1. 自治会・老人クラブ        | 2. 社会福祉協議会・民生委員 |
| 3. ケアマネジャー          | 4. 医師・歯科医師・看護師  |
| 5. 地域包括支援センター・役所・役場 | 6. その他          |
| 7. そのような人はいない       |                 |

**(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか**

1. 毎日ある                      2. 週に何度かある                      3. 月に何度かある  
4. 年に何度かある                      5. ほとんどない

**(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか  
同じ人には何度会っても1人と数えることとします**

1. 0人 (いない)                      2. 1～2人                      3. 3～5人  
4. 6～9人                      5. 10人以上

**(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)**

1. 近所・同じ地域の人                      2. 幼なじみ  
3. 学生時代の友人                      4. 仕事での<sup>どうりょう</sup>同僚・<sup>どうりょう</sup>元同僚  
5. <sup>しゅみ</sup>趣味や関心が同じ友人                      6. ボランティア等の活動での友人  
7. その他 (                      )                      8. いない

**問7 健康について**

**(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか**

1. とてもよい                      2. まあよい                      3. あまりよくない                      4. よくない

**(2) あなたは、現在どの程度幸せですか  
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)**

とても 不幸											とても 幸せ
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	

**(3) 日頃外出したり、誰かが訪ねてくるなど、人とふれあう機会がありますか**

1. はい                      2. いいえ

**(4) [(3)で「1. はい」の方のみ] 人とふれあう機会はどれくらいありますか**

1. 毎日                      2. 週2～3回くらい                      3. 週1回くらい                      4. 月1回くらい



**(11) 現在、病院を受診していますか**

1. はい 2. いいえ

**【(11)で「2. いいえ」の方のみ】**

**① 病院を受診していない理由はなんですか（いくつでも）**

1. 忙しいから 2. 行く必要がないから  
3. 移動手段がないから 4. 近くに病院がないから  
5. 病気や怪我<sup>けが</sup>、障がい等があるから 6. お金がかかるから  
7. 病院が苦手だから 8. 行くのが面倒だから  
9. その他（ ）

**問8 認知症にかかる相談窓口の把握について**

**(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか**

1. はい 2. いいえ

**(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか**

1. はい 2. いいえ

**問9 その他**

**(1) 生活の中で支援を望むことはありますか（いくつでも）**

1. 話し相手 2. ときどき声をかけてほしい  
3. 買い物の支援（買ってきてほしい） 4. 調理の支援  
5. 配食サービス（食事の提供） 6. みんなで食事をする機会（会食など）  
7. 移動の支援（送迎など） 8. 簡単な生活支援（ゴミ出し、掃除など）  
9. 庭の手入れ、片付け（台風前後など） 10. 緊急時の通報システム  
11. 金銭管理の支援（成年後見制度など） 12. その他（ ）

**(2) 健康づくりや介護予防のために支援してほしいことはなんですか (いくつでも)**

1. 自宅でできる健康体操を教えてください 2. 介護予防のための情報がほしい  
3. 認知症に関する情報がほしい 4. 運動できる場や運動する機会がほしい  
5. いっしょに健康づくりする仲間を教えてください  
6. その他 ( ) 7. 特に必要ない

**(3) 次の相談先をご存知ですか**

**① 地域包括支援センター**

1. 知っている (利用したことがある) 2. 知っている (利用したことはない)  
3. 知らない

**② ふれあい総合相談支援センター (市社協)**

1. 知っている (利用したことがある) 2. 知っている (利用したことはない)  
3. 知らない

**③ 民生委員・児童委員**

1. 知っている (利用したことがある) 2. 知っている (利用したことはない)  
3. 知らない

**あなたが日頃困っていることやご意見、ご要望などがあればご自由にお書きください**

■■■ 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました ■■■

